

3 . 調查結果

3 . 調査結果

(1) 調査結果の見方

調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならない場合がある。

複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常 100%を超える。

図表中の「n」の値は、有効回収数のうち、質問票の構成上その設問に回答を求めた人数を表す。

選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。

クロス分析の基本軸は、男女別、年齢別、居住地域別とし、統計的に有意な差（危険率 5%）がみられる点を中心にコメントしている。また、コメント中のクロス分析結果は、「無回答」を欠損値扱いとし、これを分析から除外した統計結果を表示しており、通常の統計的手続きである。ただし、クロス集計のグラフ表現が掲載されている場合にのみ、コメント中にある統計表示は、グラフ中の数値（「無回答」を含む%表示）に合わせてある。したがって、グラフ表現とは異なるまとまりでクロス分析結果をコメントしているもの（例：グラフ上では 5 歳区分になっているものであっても、コメント中では 50～64 歳、65～74 歳、75～84 歳のように 3 区分で分析しているもの）については、グラフ上の数値を単純に再計算しても、コメント中の値と一致しない場合がある。

クロス分析結果のうち、グラフ表現がある項目のコメント中の表現は、概数又は分布の傾向で示した。また、グラフ表現がない項目については、%表示を基本としたが、分布の傾向を示すほうが適した項目については、その傾向のみを示した。クロス分析結果において、回答者数の少ない項目についてのコメントは控えている。

クロス集計のグラフ表現のうち、分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。したがって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

クロス集計のグラフ表現については、主要なグラフのみを掲載している。

年齢区分は 5 歳区分を基本としたが、大まかな傾向を把握するために、特徴ある傾向がみられる年齢層で区切って説明している場合がある。ただし、大きく 3 区分に分けている場合については、50～64 歳を現役世代、65～74 歳を高齡前期、75～84 歳を高齡後期として捉えている。

統計の数値を考察するにあたり、次の表現を用いている。

(例)	(表現)
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

本調査の標本誤差は次の式によって得られる。また、早見表は以下の通りとなっている。

$$k = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}} \quad \text{ただし} \quad \frac{N-n}{N-1} = 1$$

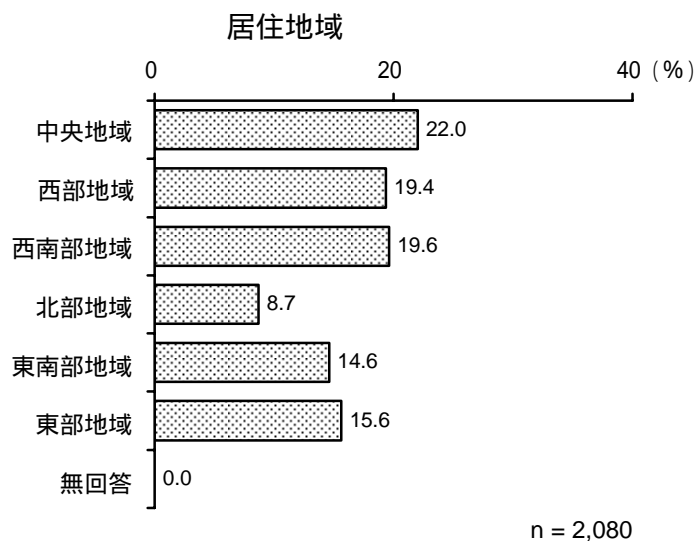
k = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 P = 回答比率

回答の比率(P) 基数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,080	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
1,487	±2.2%	±2.9%	±3.4%	±3.6%	±3.7%
1,215	±2.4%	±3.2%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
500	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.3%
300	±4.9%	±6.5%	±7.5%	±8.0%	±8.2%

(2) 回答者の属性

居住地域

居住地域について		(n=2,080)
1	中央地域	22.0%
2	西部地域	19.4
3	西南部地域	19.6
4	北部地域	8.7
5	東南部地域	14.6
6	東部地域	15.6
	無回答	0.0

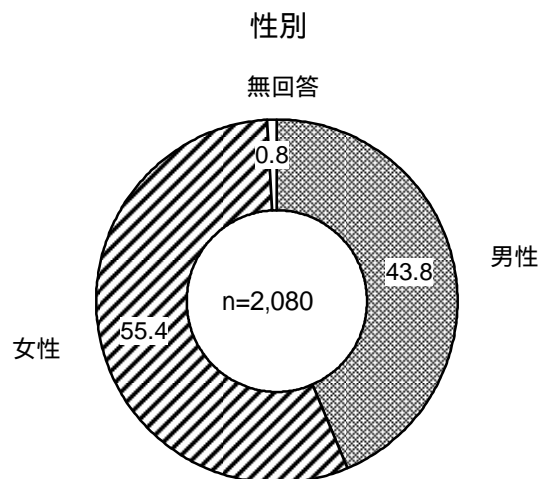


居住地域は、「中央地域」(22.0%)が2割強、「西南部地域」(19.6%)、「西部地域」(19.4%)が2割弱となっている。

なお、居住地域別の有効回収比率は、地域別の50～84歳人口比に対応させた配布比とほぼ一致しているため、八王子市内全域の状況を概ね把握できている。

性別

F 1 . あなた（あて名のご本人）は男性ですか、女性ですか。【どちらかに】		(n=2,080)
1	男性	43.8%
2	女性	55.4
	無回答	0.8



性別は、「男性」(43.8%)が4割台半ば近く、「女性」(55.4%)が5割台半ばとなっている。

年齢層別に大まかな傾向をみると、女性は、男性に比べ回答者の年齢層が低くなっている。

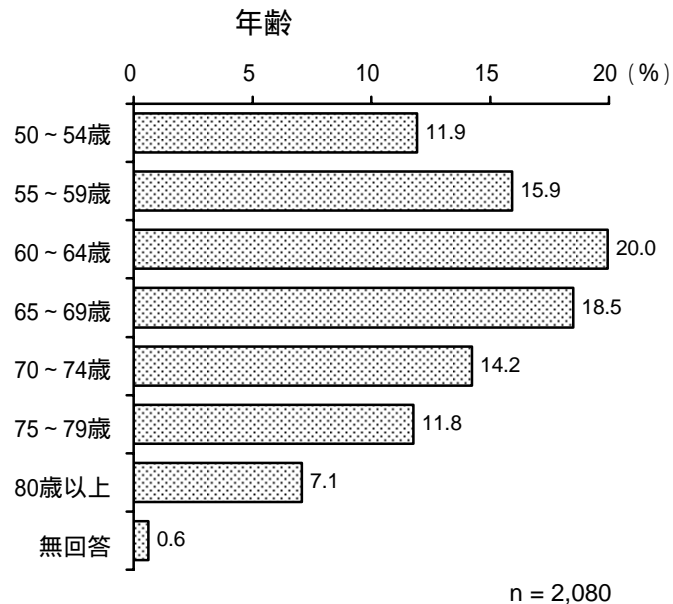
居住地域別に分布の違いはみられない。

年齢

F 2 . あなたは現在何歳ですか。【 1 つだけに 】

(n=2,080)

1	50～54 歳	11.9%
2	55～59 歳	15.9
3	60～64 歳	20.0
4	65～69 歳	18.5
5	70～74 歳	14.2
6	75～79 歳	11.8
7	80 歳以上	7.1
	無回答	0.6



年齢は、「60～64 歳」(20.0%) が 2 割でもっとも多く、次いで「65～69 歳」(18.5%)、「55～59 歳」(15.9%) となっている。

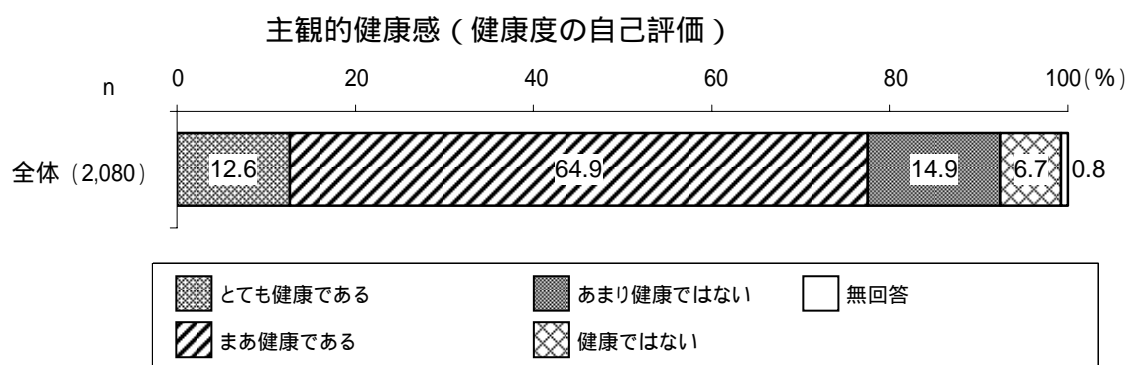
居住地域別に大まかな傾向をみると、北部、東部では、50～64 歳の占める割合が他の地域に比べ多くなっており、回答者の年齢層が低い傾向がみられる。

主観的健康感（健康度の自己評価）

F 3 . あなたは、ふだんご自分で健康だと思いますか。【 1 つだけに 】

(n=2,080)

1	とても健康である	12.6%
2	まあ健康である	64.9
3	あまり健康ではない	14.9
4	健康ではない	6.7
	無回答	0.8

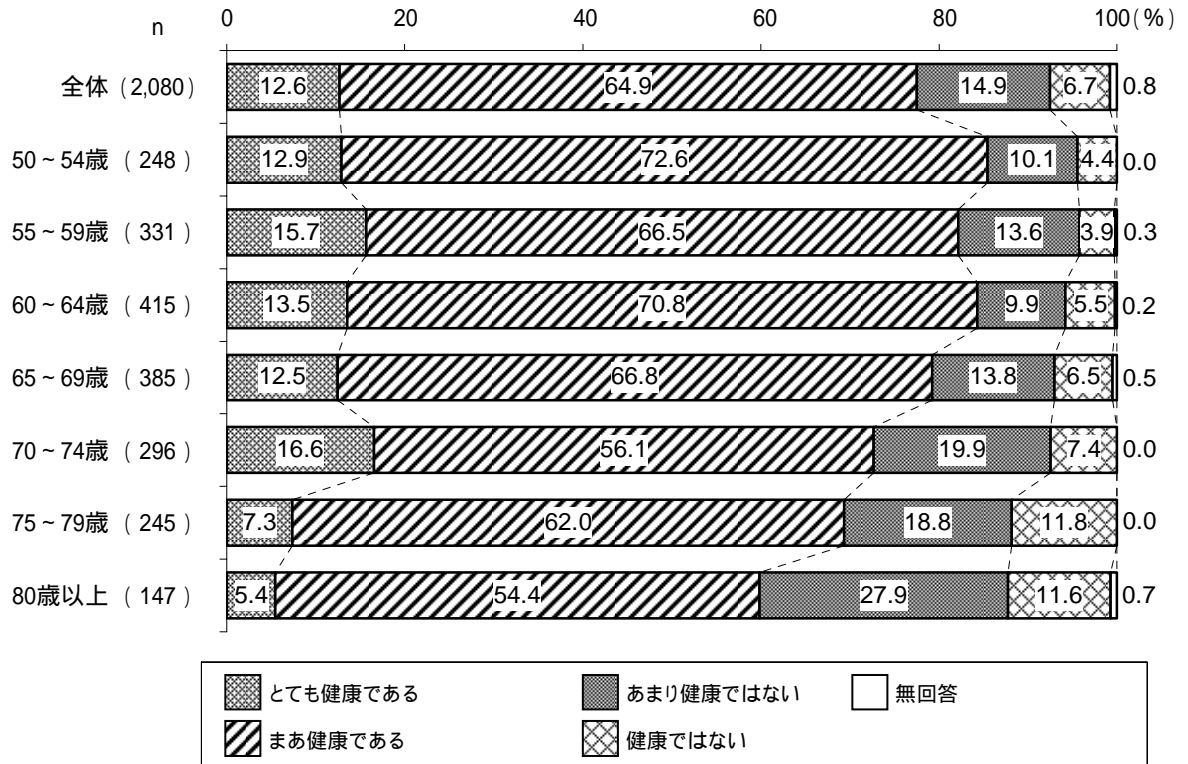


健康度の自己評価である主観的健康感は、「まあ健康である」(64.9%)が6割台半ば近くを占めている。次いで「あまり健康ではない」(14.9%)、「とても健康である」(12.6%)となっている。

「とても健康である」と「まあ健康である」の合計を主観的健康感が高い群とすると、この群は7割台半ばを超えている(77.5%)。

主観的健康感（健康度の自己評価）

<年齢別>

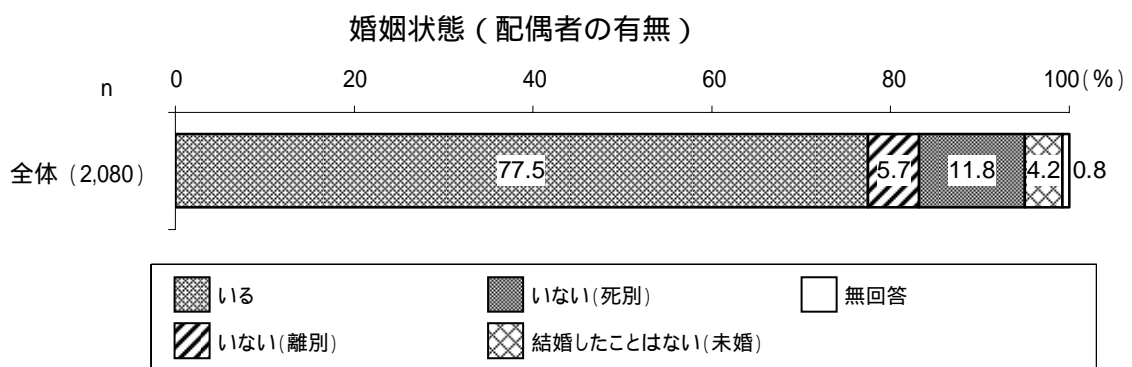


年齢層別に主観的健康感の分布傾向をみると、年齢層が高くなるほど主観的健康感
は低くなる傾向がみられる。大まかな傾向をみると、50～64歳までは、主観的健康
感が高い群は8割台半ば近くだが、65～74歳では7割台半ばを超え、75歳～84歳
では6割台半ばである。74歳以下に比べ、75歳以上は「とても健康」な人は半減する
が、「まあ健康」な人は6割近くに達している。

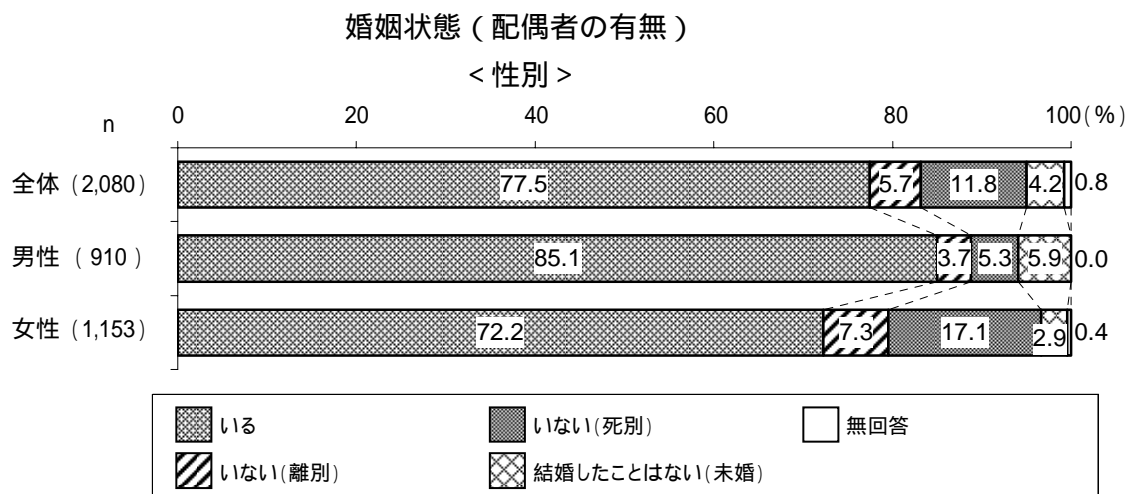
なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

婚姻状態（配偶者の有無）

F 4 . 現在あなたに配偶者（夫または妻）はおられますか（事実婚も含みます）		【 1つだけに 】
		(n=2,080)
1	いる	77.5%
2	いない（離別）	5.7
3	いない（死別）	11.8
4	結婚したことはない（未婚）	4.2
	無回答	0.8



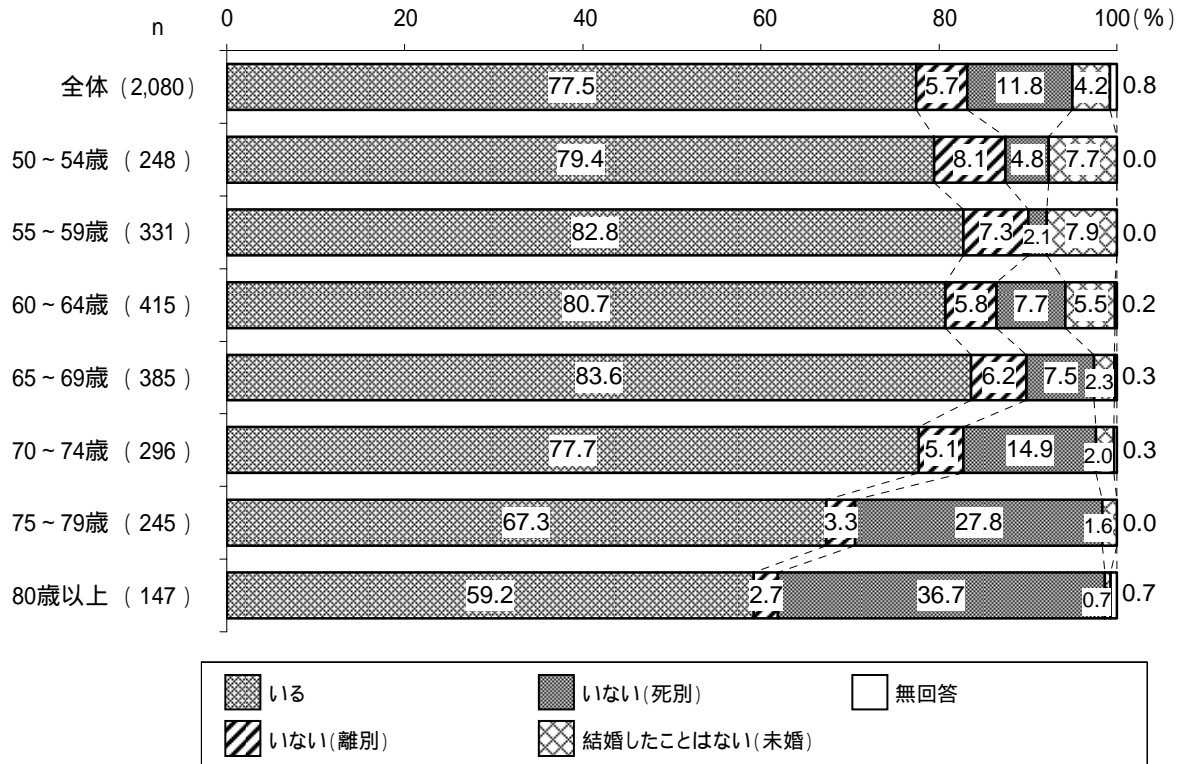
婚姻状態（配偶者の有無）は、「いる」（77.5%）が7割台半ばを超えている。



男女別に婚姻状態の分布をみると、女性は、男性よりも配偶者と死別した割合が高い。なお、女性の年齢層は男性に比べ若干低くなっていることから、女性の年齢分布が男性に比べて高いことによる影響ではなく、配偶者との年齢差が影響していると推察できる。

婚姻状態（配偶者の有無）

< 年齢別 >



年齢層別に婚姻状態の分布傾向をみると、年齢層が高くなるにつれて、「死別」の割合が多くなっている。大まかな傾向をみると、「死別」の占める割合は、50～64歳までは、約5%であるが、65～74歳では約1割、75歳以上では3割強である。

居住地域別に分布の違いはみられない。

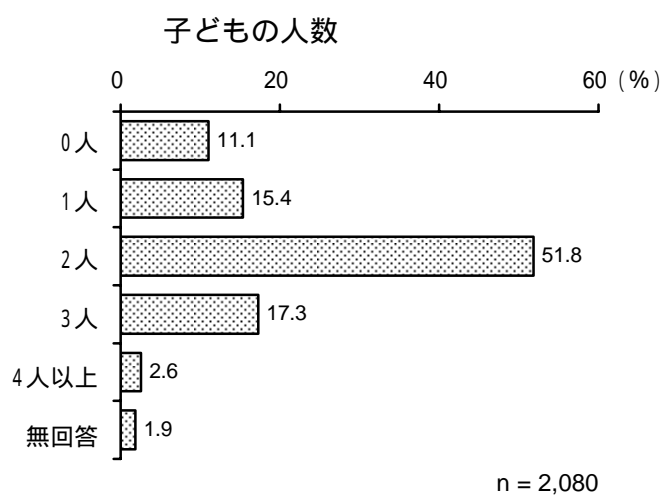
なお、本調査によれば、配偶者の存在は、主観的幸福感（幸福な老いに関する自己評価）を高める影響をもっている。

子どもの人数

F 5 . お子さんは何人おられますか。

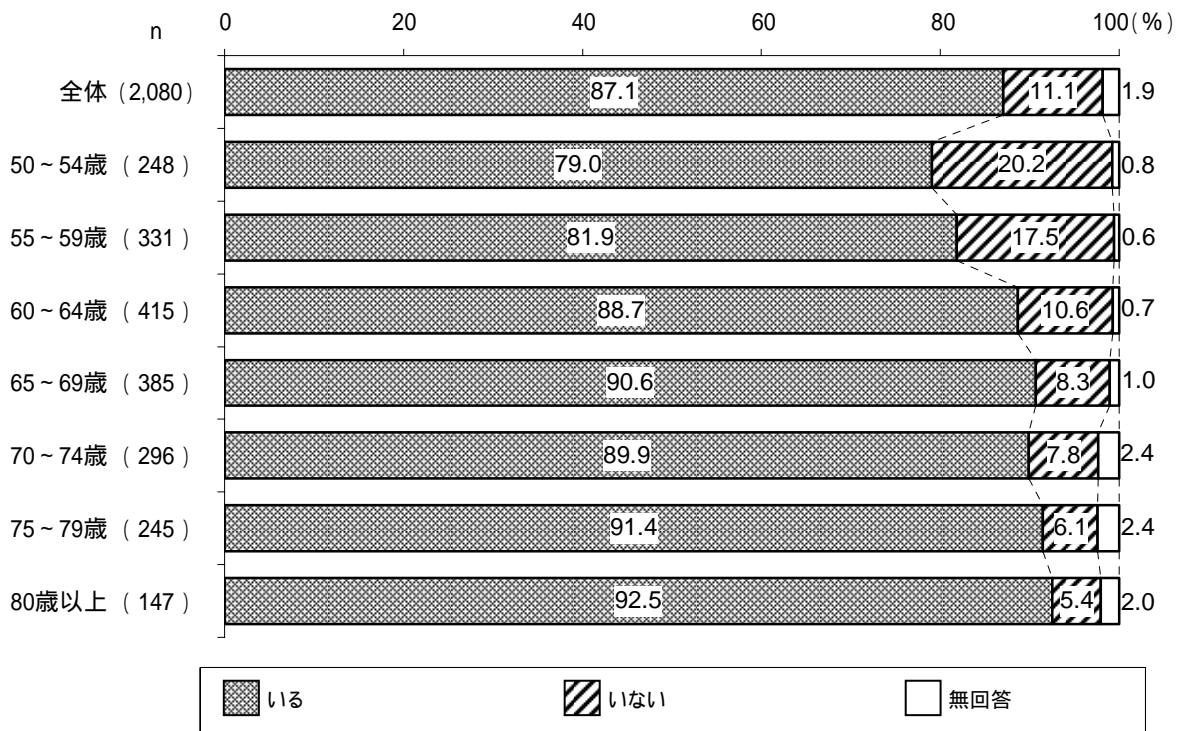
(n=2,080)

1	0人	11.1%
2	1人	15.4
3	2人	51.8
4	3人	17.3
5	4人以上	2.6
	無回答	1.9



同居か別居かにかかわらず、子どもがいる人は、8割台半ばを超え(87.1%)であり、子どもの人数は、「2人」(51.8%)が5割強となっている。

子どもの有無
<年齢別>



年齢層別に子どもの有無の大まかな傾向をみると、年齢層が低いほど、子どものいない人が多くなっている。子どものいない人の割合は、65～74歳では約8%（8.1%）、75歳以上では6%弱（5.9%）であるのに対して、50～64歳では1割台半ば（15.3%）となっている。

居住地域別にみると、子どものいない人の割合は、他の地域に比べて中央（14.2%）、北部（14.4%）で多くなっており、東南部（7.9%）、東部（8.6%）で少なくなっている。

男女別に子どもの有無をみると、子どものいない人の割合は、男性（13.0%）のほうが、女性（9.6%）に比べて多くなっている。

なお、子どもの存在は、個人がもつ人とのつながりに影響を与える可能性があることから、今後の分析に使用するためにたずねた。

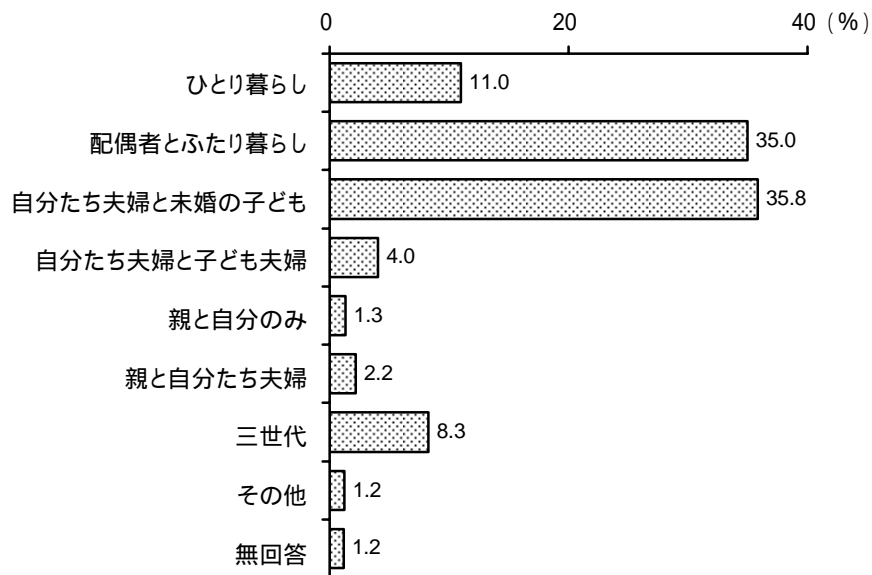
世帯類型（子どもとの同居・別居等）

F 6 . あなたの世帯は、次のうちどれにあたりますか。【1つだけに】

(n=2,080)

1	ひとり暮らし	11.0%
2	配偶者とふたり暮らし	35.0
3	自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚の子ども）	35.8
4	自分たち夫婦と子ども夫婦（または、自分と子ども夫婦）	4.0
5	親と自分のみ	1.3
6	親と自分たち夫婦	2.2
7	三世代	8.3
8	その他	1.2
	無回答	1.2

世帯類型（子どもとの同居・別居等）

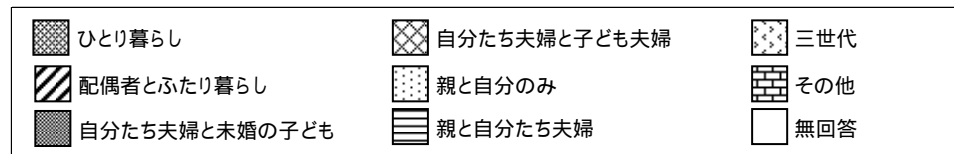
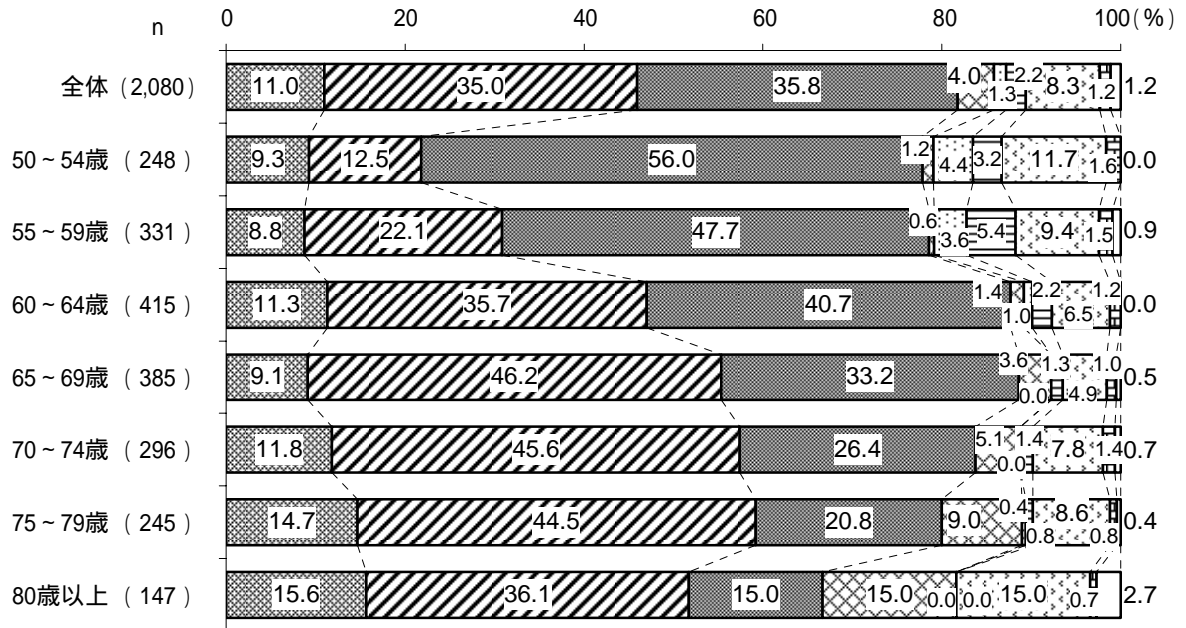


n = 2,080

世帯類型は、「自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚の子ども）」（35.8%）、「配偶者とふたり暮らし」（35.0%）が3割台半ばとなっており、「ひとり暮らし」の世帯は1割強（11.0%）となっている。子どもと同居していない世帯（ひとり暮らし又は配偶者とふたり暮らし、ただし子どもの有無は区別していない。）は、4割台半ばを超え（46.0%）ている。

世帯類型（子どもとの同居・別居等）

<年齢別>



年齢層別に世帯類型の大きな傾向をみると、「ひとり暮らし」は、50～64歳及び65～74歳では約1割であるが、75歳以上では1割台半ばに増加する。子どもと同居していない世帯は、50～64歳では3割台半ばであるが、65歳以上では、5割台半ばを超えている。

居住地別にみると、「ひとり暮らし」の世帯の割合は、他の地域に比べ中央（14.8%）で多くなっており、東部（6.9%）で少なくなっている。「配偶者とふたり暮らし」の世帯の割合は、他の地域に比べ西南部（38.2%）でもっとも多くなっており、北部（29.8%）でもっとも少なくなっている。「自分たち（自分）と未婚の子」の世帯の割合は、他の地域に比べ東部（44.3%）でもっとも多く、中央（32.1%）でもっとも少なくなっている。

なお、男女別に分布の違いはみられない。

本調査によれば、子どもとの同居の有無は、幸福な老いに関する自己評価である主観的幸福感や、孤独感の程度に影響を与えていない。

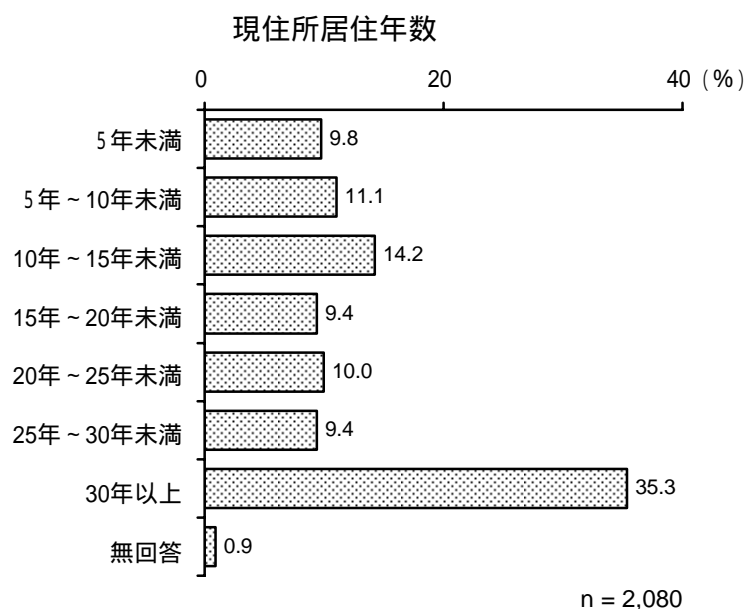
現住所居住年数

F 7 . あなたは、現在の住所にお住まいになって通算して何年になりますか。

【 1 つだけに 】

(n=2,080)

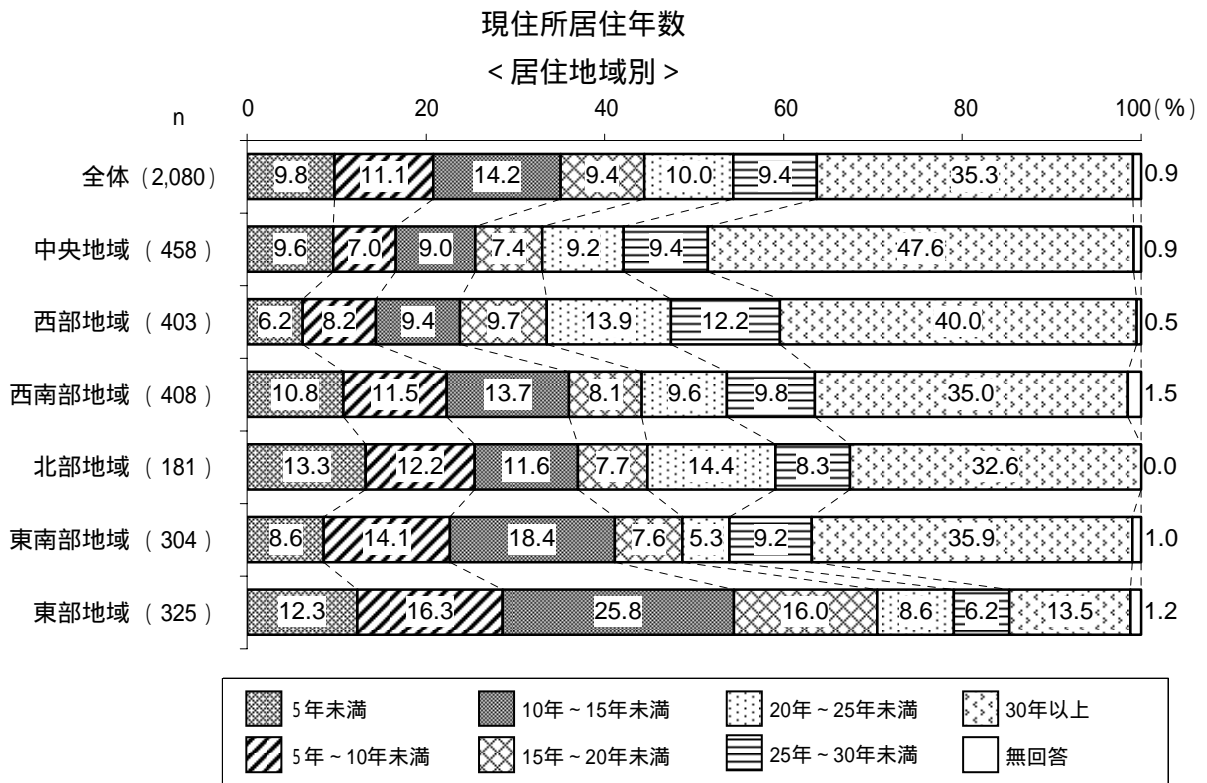
1	5 年未満	9.8%
2	5 年～10 年未満	11.1
3	10 年～15 年未満	14.2
4	15 年～20 年未満	9.4
5	20 年～25 年未満	10.0
6	25 年～30 年未満	9.4
7	30 年以上	35.3
	無回答	0.9



現住所居住年数は、「30 年以上」(35.3%) が 3 割台半ばとなっており、20 年以上現住所に居住している人は、5 割台半ば近く (54.7%) に達している。

年齢層別にみると、年齢層が高いほど、現住所居住年数が長くなっている。とくに、現住所に 30 年以上居住している人は、50～64 歳では約 2 割 (20.7%)、65～74 歳では 4 割台半ば (45.9%)、75～84 歳では 5 割台半ば (56.0%) を超えている。

なお、男女別に分布の違いはみられない。



居住地域別にみると、30年以上現住所に居住している人が多いのは、中央、西部となっている。東部以外では、30年以上の居住者がもっとも多く、とくに中央では5割台半ばを超えている。東部では10年以上15年未満がもっとも多くなっている。

なお、東部地域には多摩ニュータウンが立地しており、開発時期が現住所居住年数に影響していると推察される。

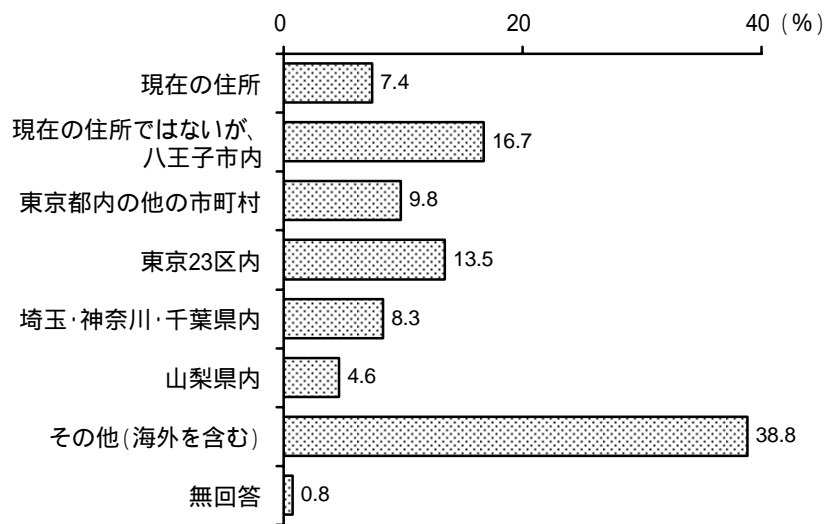
出身地（義務教育卒業地）

F 8 . あなたは、中学校（あるいは義務教育）を卒業したとき、どちらにお住まいでしたか。【1つだけに】

(n=2,080)

1	現在の住所	7.4%
2	現在の住所ではないが、八王子市内	16.7
3	東京都内の他の市町村	9.8
4	東京 23 区内	13.5
5	埼玉・神奈川・千葉県内	8.3
6	山梨県内	4.6
7	その他（海外を含む）	38.8
	無回答	0.8

出身地（義務教育卒業地）



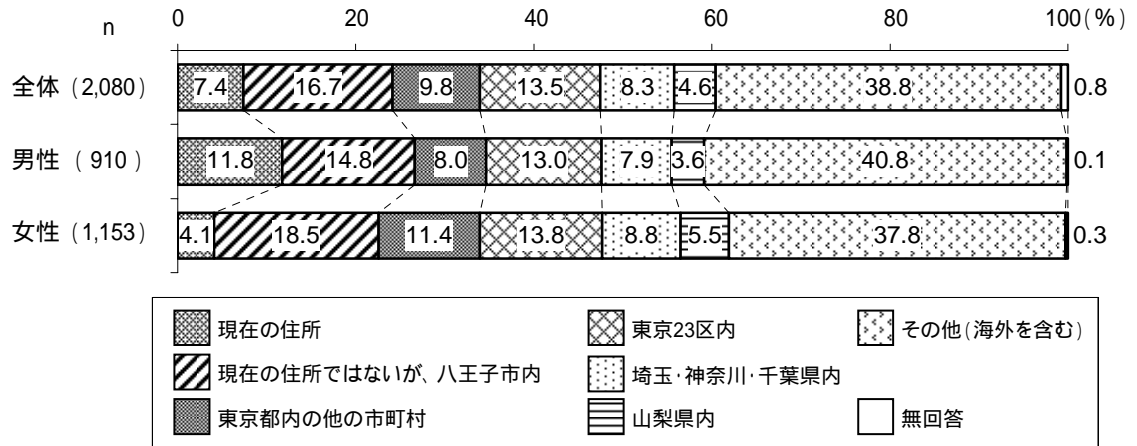
n = 2,080

義務教育卒業地を指標とした出身地は、「その他（海外を含む）」（38.8%）が4割近くでもっとも多くなっている。

なお、出身地と現住所との距離などの近接性は、個人がもつ人とのつながりに影響を与える可能性があることから、今後の分析に使用するためにたずねた。

出身地（義務教育卒業地）

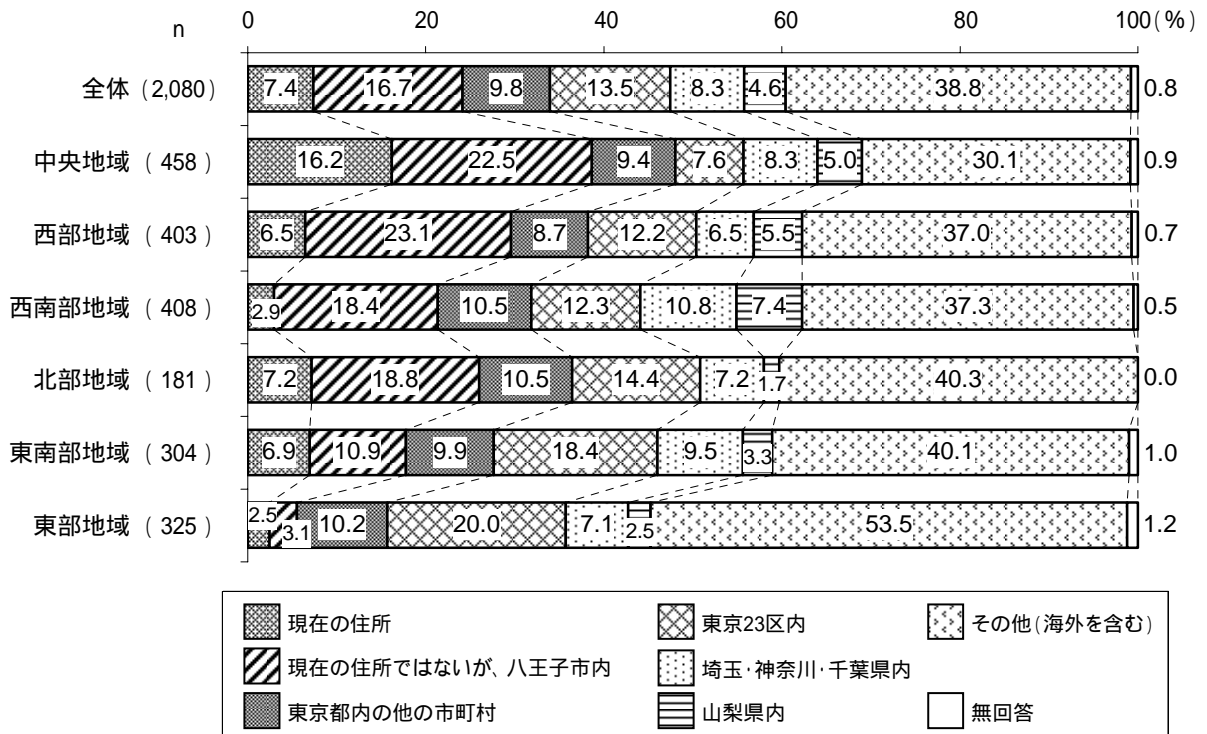
<性別>



男女別に出身地をみると、男性のほうが、女性に比べて市内出身者が占める割合が多くなっている。八王子市以外の都内出身者及び近県出身者の割合は、女性のほうが多く、それ以外の道府県（海外含む）の出身者の割合は、男性のほうが多くなっている。

出身地（義務教育卒業地）

<居住地域別>



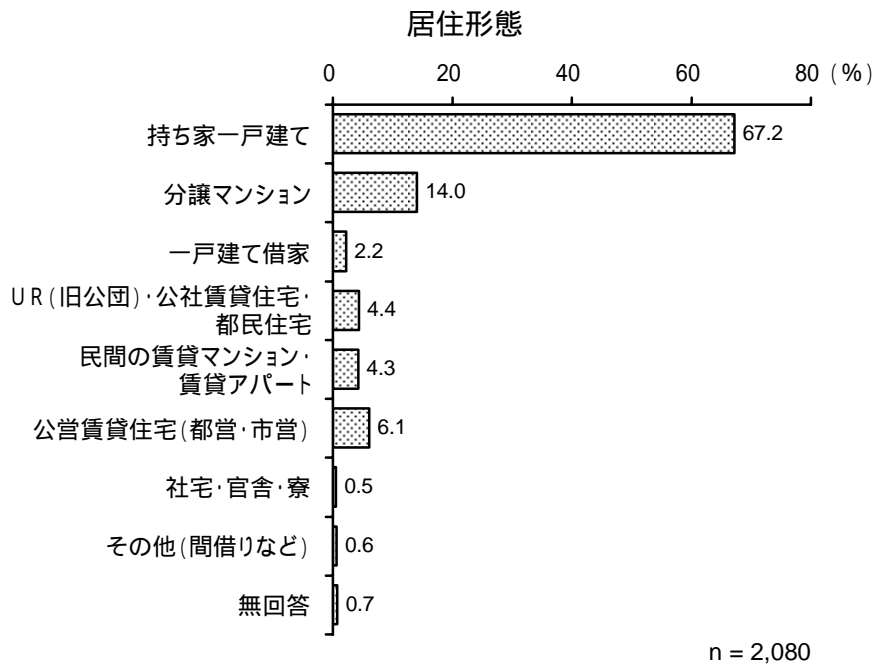
居住地域別に出身地をみると、八王子市内出身者の割合が多いのは、中央、西部、北部となっている。中央では市内出身者が4割近くに達しているが、東部地域では

5 %台半ばを超える程度にとどまる。東部は、その他の地域に比べて、近県以外の道府県（海外含む）出身者の割合が多く、5割台半ば近くに達している。また、同地域は他の地域に比べて、23区出身者の割合が高く、2割となっている。

なお、年齢層別に大まかな傾向をみると、近県以外の道府県（海外含む）の出身者の割合は、70～74歳（45.1%）がもっとも多く、80～84歳（32.0%）、50～54歳（33.1%）で少なくなっている。

居住形態

F 9 . あなたの現在のお住まいは、次のうちどれにあたりますか。【 1つだけに 】	
	(n=2,080)
1 持ち家一戸建て	67.2%
2 分譲マンション	14.0
3 一戸建て借家	2.2
4 UR (旧公団)・公社賃貸住宅・都民住宅	4.4
5 民間の賃貸マンション・賃貸アパート	4.3
6 公営賃貸住宅 (都営・市営)	6.1
7 社宅・官舎・寮	0.5
8 その他 (間借りなど)	0.6
無回答	0.7

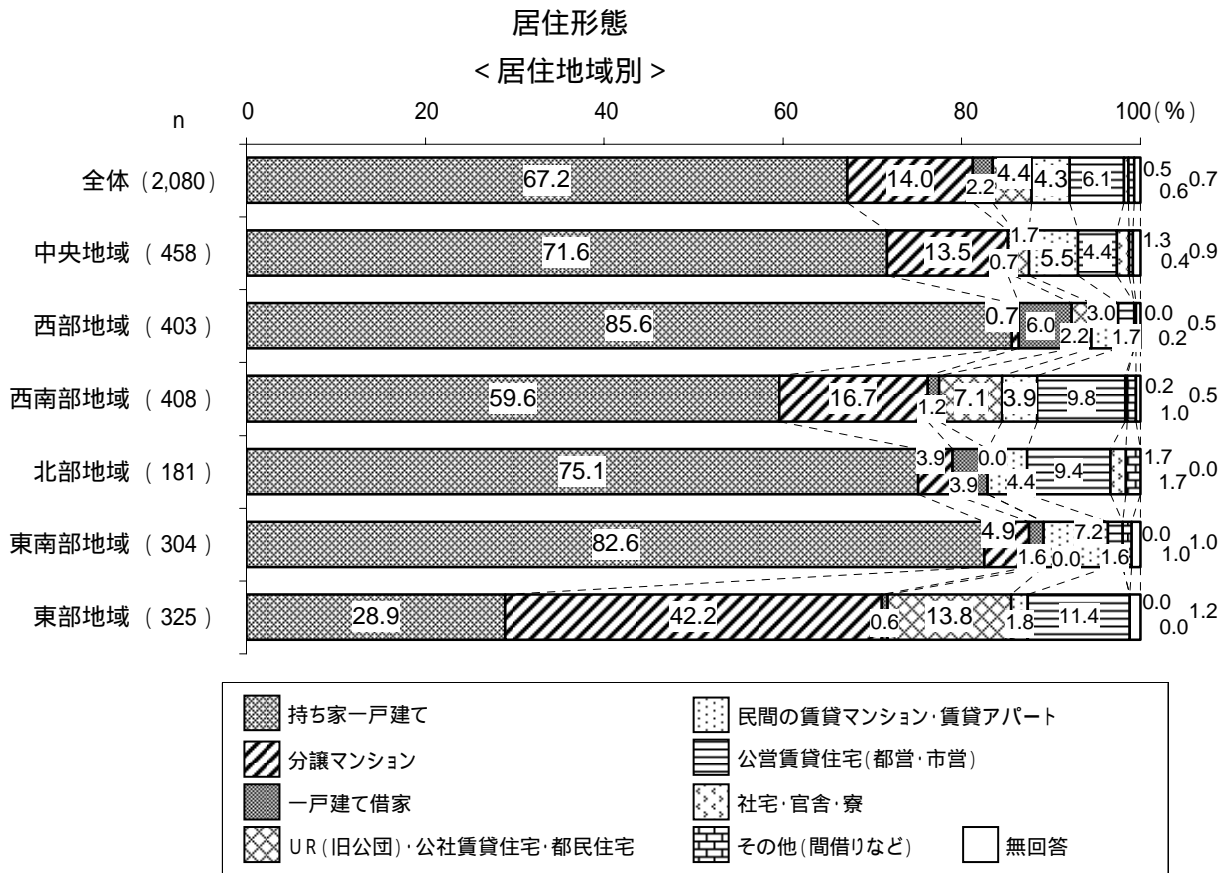


居住形態は、「持ち家一戸建て」(67.2%)が6割台半ばを超えている。「分譲マンション」(14.0%)と合計して、持ち家率をみると、8割強(81.2%)に達している。

男女別にみると、女性(7.0%)は、男性(4.8%)に比べて「公営賃貸住宅」への居住者が多くなっている。

年齢層別に大まかな傾向をみると、年齢層が高いほど「持ち家一戸建て」に居住する人が多くなっており、50～64歳(63.0%)で6割台半ば近く、65～74歳

(70.1%)で約7割、75~84歳(75.4%)で7割台半ばとなっている。また、年齢層が低いほど「分譲マンション」に居住する人が多くなっており、50~64歳(19.5%)で2割弱、65~74歳(10.0%)で1割、75~84歳(7.7%)で7%台半ばを超える程度となっている。



居住地域別に住居形態の分布をみると、東部以外では、持ち家一戸建てに居住する割合がもっとも多く、西部、東南部でとくに多くなっている。東部では、分譲マンションの割合がもっとも多く、4割強となっている。

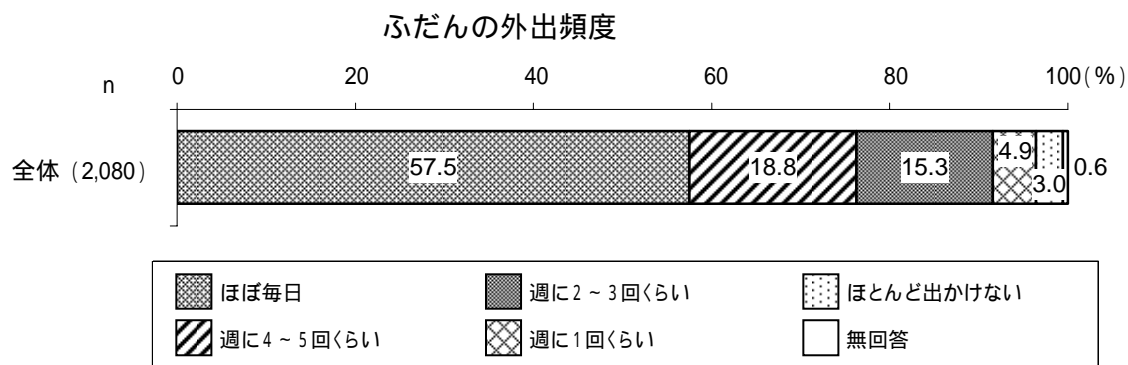
(3) ふだんの生活について

ふだんの外出頻度

問1 . あなたは、ふだんどのくらい外出していますか（散歩や仕事などの外出も含めます）。【1つだけに】

(n=2,080)

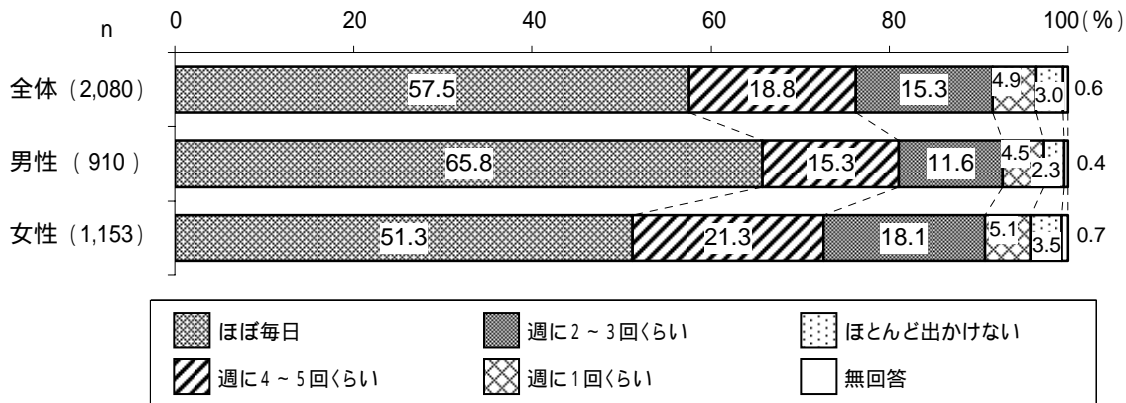
1	ほぼ毎日	57.5%
2	週に4～5回くらい	18.8
3	週に2～3回くらい	15.3
4	週に1回くらい	4.9
5	ほとんど出かけない	3.0
	無回答	0.6



ふだんの外出頻度は、「ほぼ毎日」(57.5%)が5割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「週に4～5回くらい」(18.8%)が2割近く、「週に2～3回くらい」(15.3%)が1割台半ばとなっている。

ふだんの外出頻度

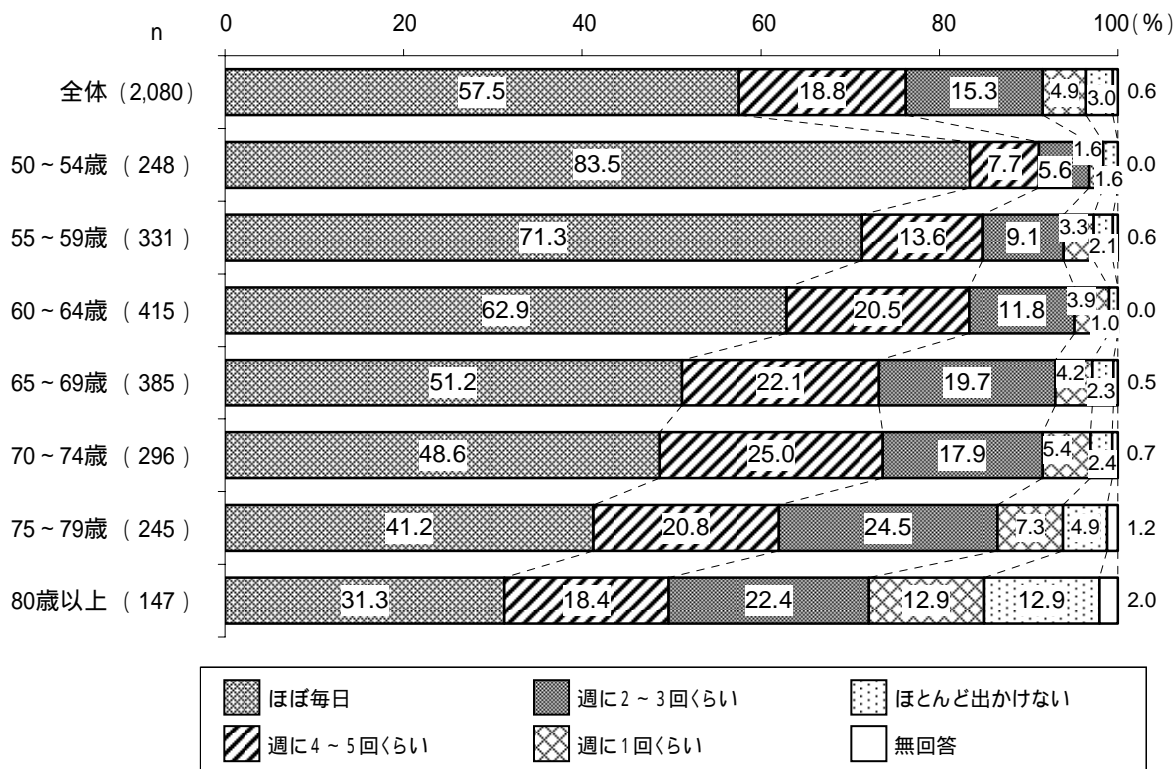
<性別>



男女別にふだんの外出頻度の分布傾向をみると、男性のほうが、女性に比べて外出頻度が多い傾向がみられる。

ふだんの外出頻度

<年齢別>



年齢層別にみると、年齢層が高くなるにつれて、ふだんの外出頻度は少なくなる傾向がみられる。外出が週1回以下と外出頻度が少ない人の割合は、50~64歳で4%台半ばを超える程度、65~74歳で約7%であるのに対して、75歳~84歳では1割台半ばを超えている。他方、ほぼ毎日外出する人の割合は、50~64歳で7割強、65~74歳で約

5割、75歳～84歳では4割近くとなっている。

居住地域別に分布の違いはみられない。

なお、ふだんの外出頻度は、健康度の客観的指標としてたずねた設問である。そこで、ふだんの外出頻度と、健康度の自己評価である主観的健康感との関連をみると、ふだんから「ほぼ毎日」外出する人は、「とても健康」(16.8%)、「まあ健康」(69.1%)と回答する人が多くっており、主観的健康感が高い傾向がみられる。「ほとんど出かけない」人は、「あまり健康ではない」(35.5%)、「健康ではない」(40.3%)と回答する人が多くっており、主観的健康感が低い傾向がみられる。しかし、「週に1回くらい」しか外出しない人であっても、「まあ健康」(54.0%)と回答している人が5割台半ば近くとなっている。

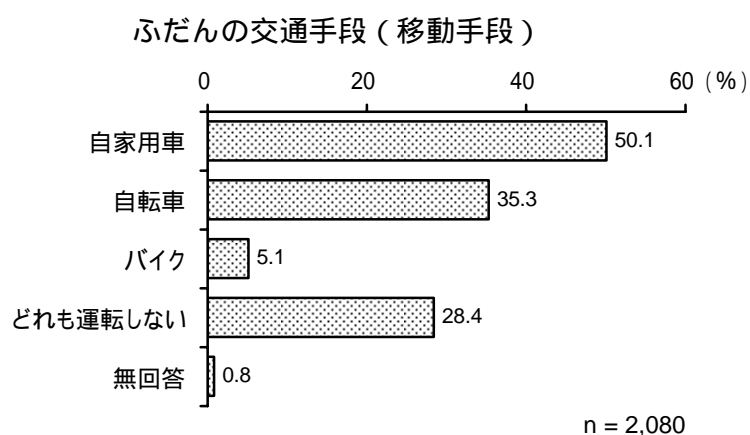
ふだんの交通手段（移動手段）

問2 . あなたは、次にあげるような乗り物を、ふだんご自分で運転しますか。

【あてはまる番号すべてに】

(n=2,080)

1	自家用車	50.1%
2	バイク	5.1
3	自転車	35.3
4	どれも運転しない	28.4
	無回答	0.8

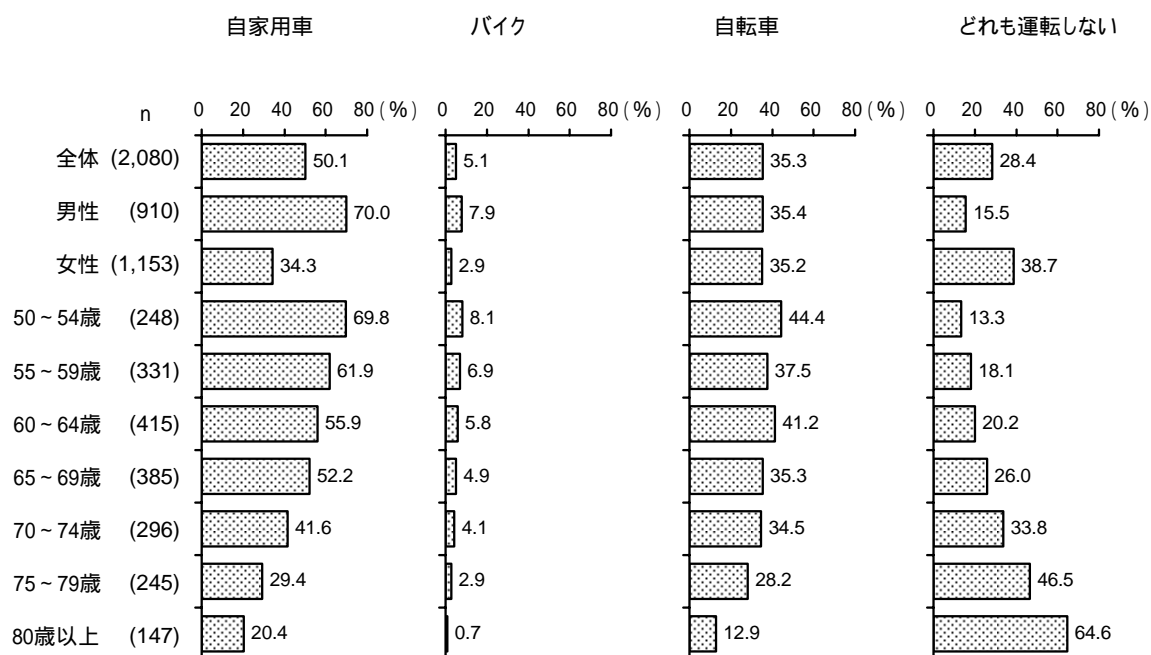


ふだんの交通手段（移動手段）は、「自家用車」（50.1%）が約5割でもっとも多く、次いで「自転車」（35.3%）が3割台半ばと続いている。

「どれも運転しない」（28.4%）は3割近くとなっている。

ふだんの交通手段（移動手段）

< 性別・年齢別 >

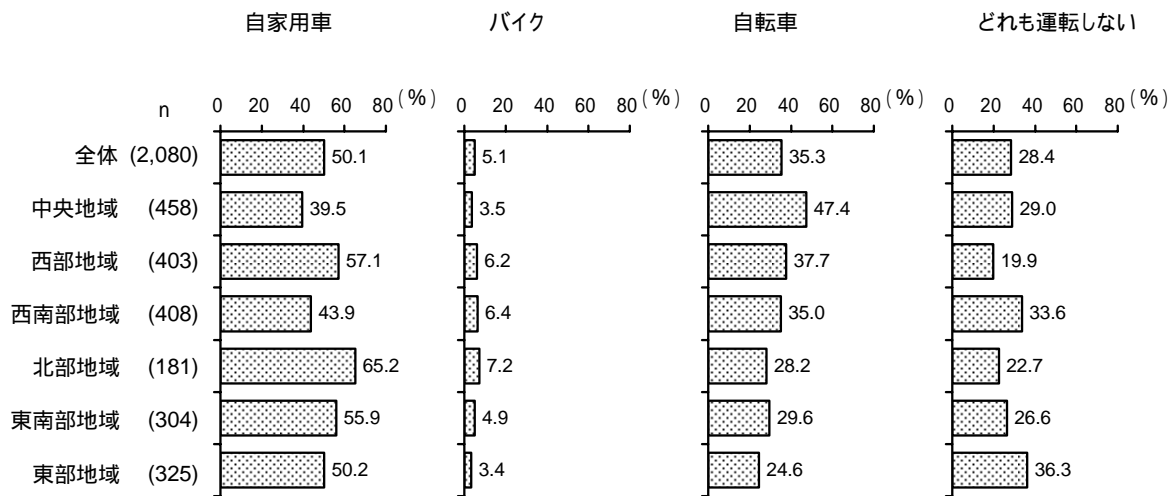


男女別にふだんの交通手段の分布傾向をみると、自家用車を運転しているのは、男性で約7割、女性で3割台半ば近くとなっている。バイクを運転しているのは、男性で8%弱、女性で3%弱となっている。どれも運転していないのは、男性で1割台半ば、女性で4割近くとなっている。

年齢層別にふだんの交通手段の分布傾向を大まかにみると、自家用車を運転する人の割合は、年齢層が高くなるにつれて減少している。50～64歳では6割強、65～74歳では4割台半ばを超え、75歳～84歳では2割台半ばを超えている。自転車を運転する人の割合も、年齢層が高くなるにつれて減少している。50～64歳では約4割、65～74歳では3割台半ば、75歳～84歳では2割台半ば近くとなっている。どれも運転しない人は、75歳～84歳では5割台半ば近くに達している。

ふだんの交通手段（移動手段）

< 居住地域別 >

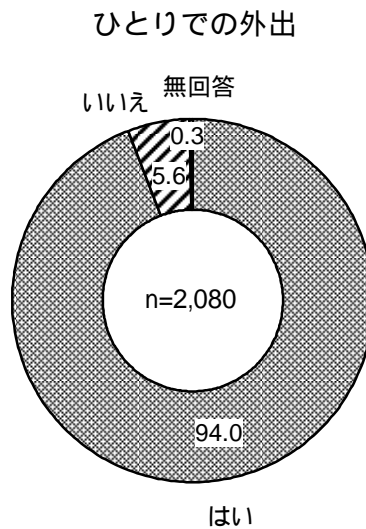


居住地域別にふだんの交通手段の分布傾向をみると、自家用車を運転する人の割合が多いのは、北部、西部、東南部となっている。自転車利用については、運転する人が多いのは、中央となっている。どれも運転しない人が多いのは、東部、西南部であり、どれも運転しない人が少ないのは、西部となっている。

居住地域の地理的・空間的特性が交通手段（移動の方法）の選択に影響しているとみられる。

ひとりでの外出

問3 . あなたは、バスや電車を使ってひとりで外出できますか。【どちらかに】		(n=2,080)
1	はい	94.0%
2	いいえ	5.6
	無回答	0.3

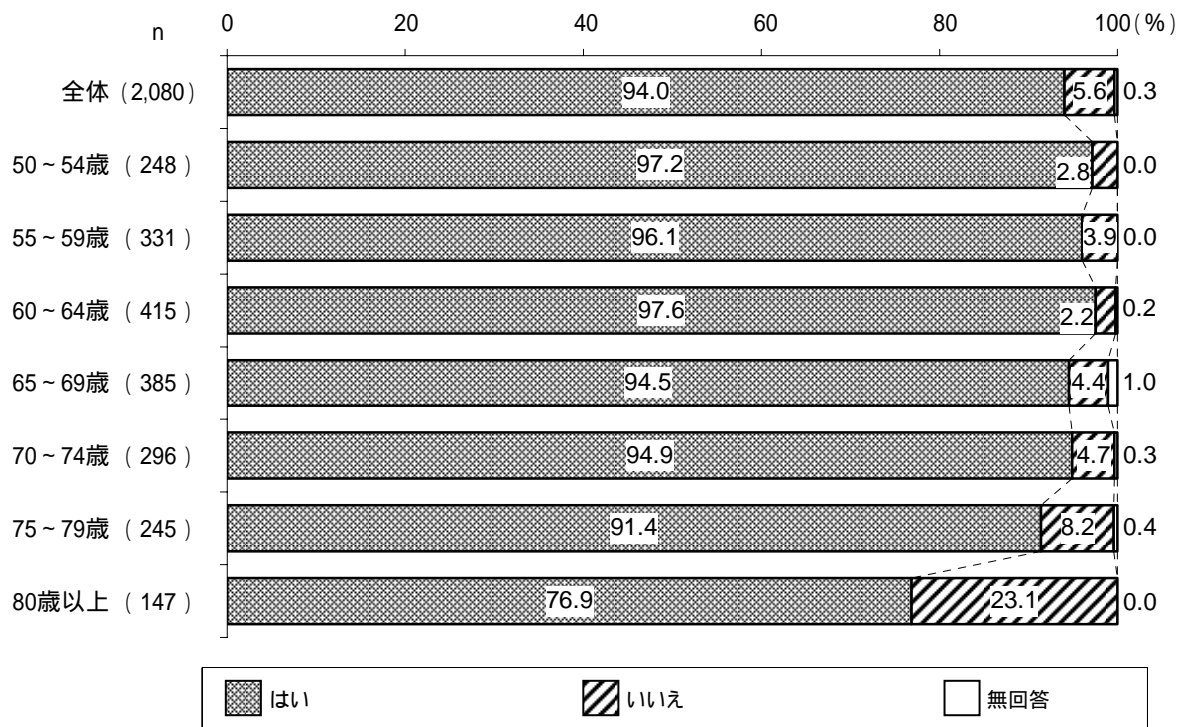


公共交通機関を利用してひとりで外出ができるかをたずねたところ、「はい」(94.0%)が9割台半ば近くとなっている。

なお、客観的な健康度のうち生活の手段的自立を測定する指標として、今後の分析に使用するためにたずねた。

ひとりでの外出

< 年齢別 >



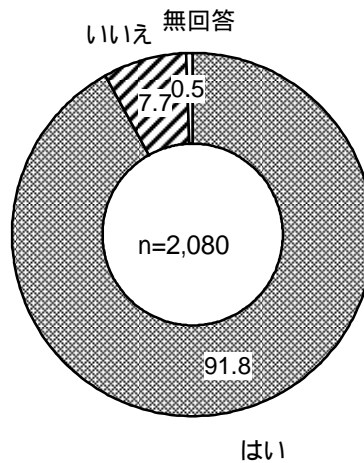
年齢層別に分布傾向をみると、公共交通機関を利用してひとりでの外出ができない割合は、年齢層が高いほど多くなっており、50～64歳で3%弱、65～74歳で4%台半ばを超えているが、75歳～84歳では1割台半ば近くとなっている。とくに、80～84歳では2割台半ば近くがひとりでの外出ができなくなっている。

居住地域別にみると、ひとりでの外出ができない人が多いのは、西部(7.9%)、中央(7.6%)となっており、少ないのは、北部(1.7%)、東部(2.8%)となっている。
なお、男女別に分布の違いはみられない。

健康に関する情報への関心

問4 . あなたは、健康についての記事や番組に関心がありますか。【どちらかに】		
		(n=2,080)
1	はい	91.8%
2	いいえ	7.7
	無回答	0.5

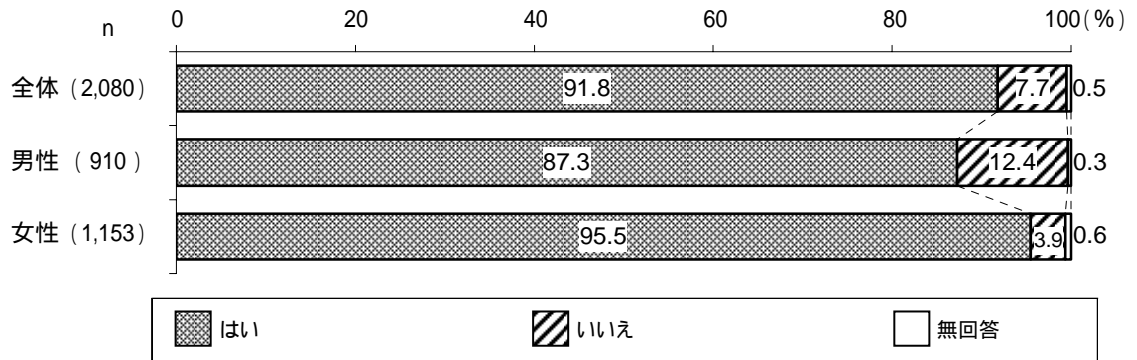
健康に関する情報への関心



健康に関する情報への関心の有無をたずねたところ、「はい」(91.8%)が9割強となっている。

健康に関する情報への関心

< 性別 >



男女別に分布傾向をみると、男性は、女性に比べて健康に関する情報への関心が低い傾向がみられ、関心がない割合は男性で1割強、女性で4%弱となっている。

年齢層別にみると、他の年齢層に比べ50～54歳と80～84歳で健康に関する情報に関心がある人が少なくなっている。居住地域別に分布の違いはみられない。

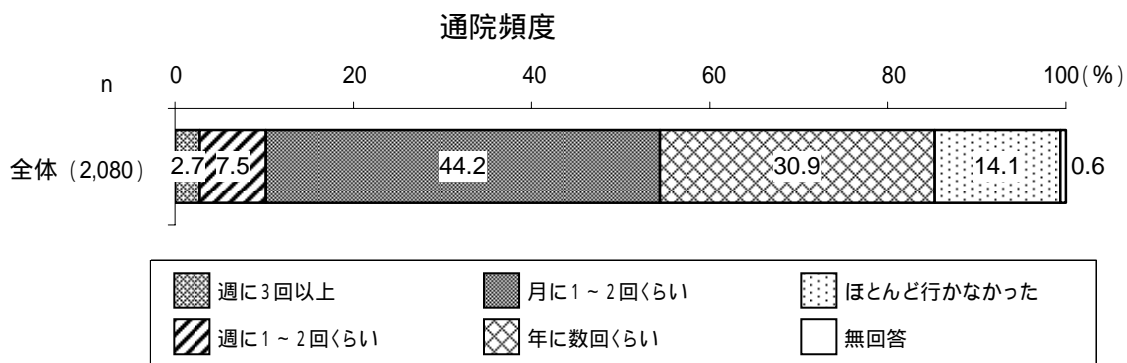
なお、客観的健康度のうち、生活の自立度に関する知的能動性を測定する指標として、今後の分析に使用するためにたずねた。

通院頻度

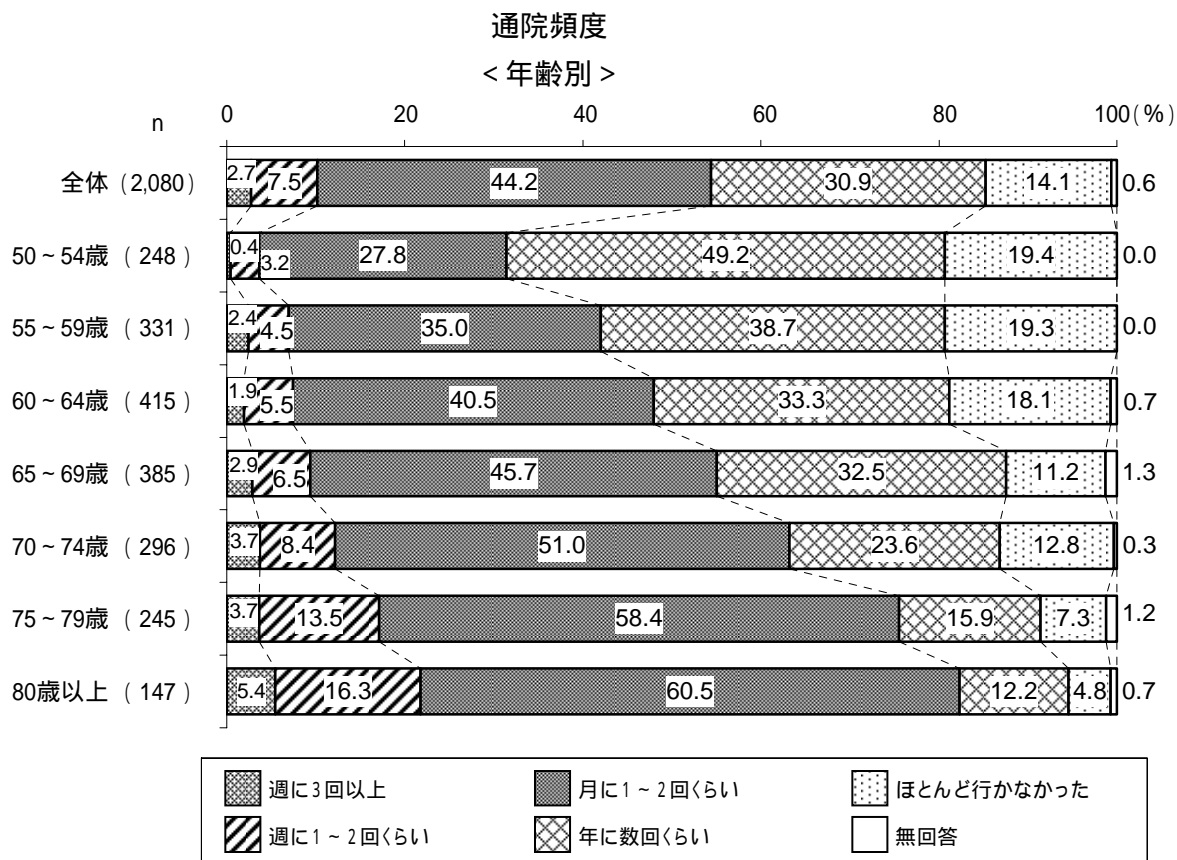
問5 . あなたはこの1年間に、治療のために病院や診療所、医院などにどのくらい通いましたか。【1つだけに】

(n=2,080)

1	週に3回以上	2.7%
2	週に1～2回くらい	7.5
3	月に1～2回くらい	44.2
4	年に数回くらい	30.9
5	ほとんど行かなかった	14.1
	無回答	0.6



客観的な健康を測定する指標のひとつとしたこの1年間における通院頻度は、「月に1～2回くらい」(44.2%)が4割台半ば近くでもっとも多く、次いで「年に数回くらい」(30.9%)が約3割となっている。週に1回以上の通院をしているのは、全体の約1割である。



年齢層別に分布傾向をみると、年齢層が高くなるほど、通院頻度は多くなっている。週に1回以上通院している通院頻度の高い群は、50~64歳で6%台半ば近く、65~74歳で約1割、75~84歳で2割弱となっている。逆に、年に数回程度の通院又はほとんど行かなかったと回答した通院頻度の低い群は、50~64歳で6割弱、65~74歳で約4割、75~84歳で2割強となっている。

居住地域別に分布傾向をみると、通院頻度の高い群が多いのは、東南部（13.2%）、西南部（12.0%）であり、通院頻度の低い群が多いのは、北部（54.2%）、東部（49.0%）となっている。

なお、男女別に分布の違いはみられない。

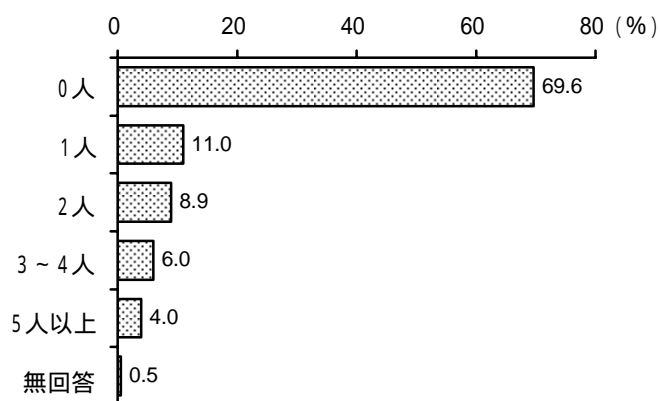
頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数

問6．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ア) 15分未満		(n=2,080)
1	0人	69.6%
2	1人	11.0
3	2人	8.9
4	3～4人	6.0
5	5人以上	4.0
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数

(ア) 15分未満



n = 2,080

自宅から15分未満の距離にいる頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数は、「0人」(69.6%)が7割弱となっている。

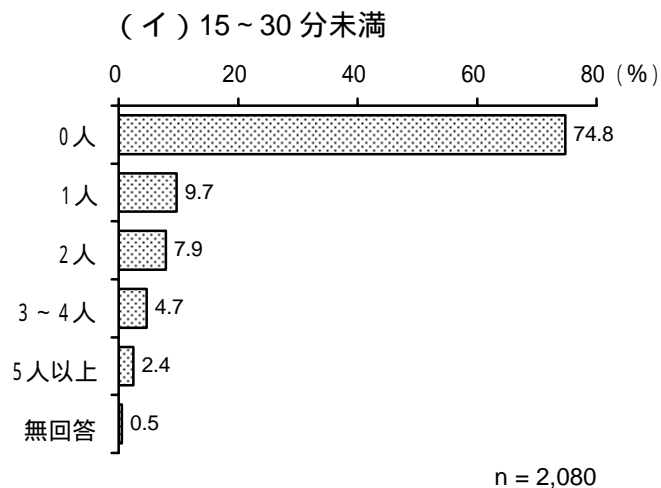
実数で見ると、平均人数は0.79人、最大人数は30人であった。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問6．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(イ) 15～30分未満		(n=2,080)
1	0人	74.8%
2	1人	9.7
3	2人	7.9
4	3～4人	4.7
5	5人以上	2.4
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数



15～30分未満にいる頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数は、「0人」(74.8%)が7割台半ば近くとなっている。

実数で見ると、平均人数は0.6人、最大人数は20人であった。

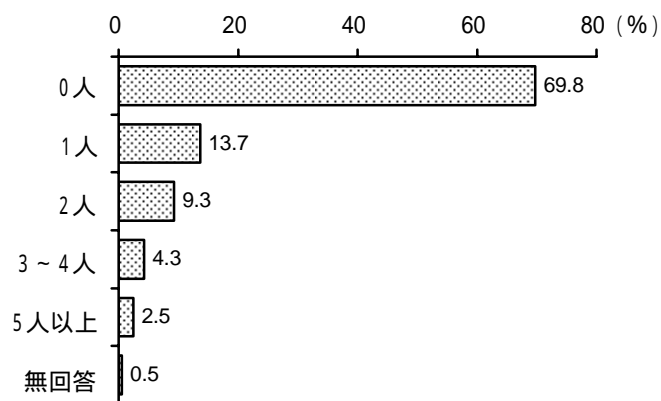
なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問6．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ウ) 30分～1時間未満		(n=2,080)
1	0人	69.8%
2	1人	13.7
3	2人	9.3
4	3～4人	4.3
5	5人以上	2.5
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数

(ウ) 30分～1時間未満



n = 2,080

30分～1時間未満にいる頼りになり、親しくしている別居の家族・親族の人数は、「0人」(69.8%)が7割弱となっている。

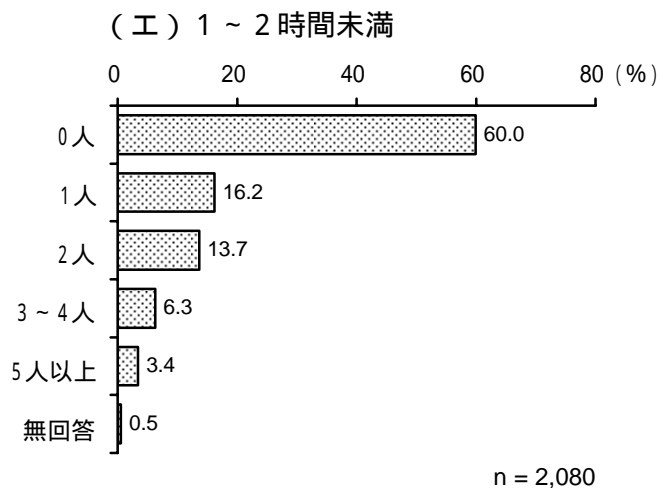
実数で見ると、0.66人、最大人数は30人であった。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問6．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(工) 1～2時間未満		(n=2,080)
1	0人	60.0%
2	1人	16.2
3	2人	13.7
4	3～4人	6.3
5	5人以上	3.4
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数



1～2時間未満にいる頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数は、「0人」(60.0%)が6割、「1人」(16.2%)が1割台半ばを超えている。

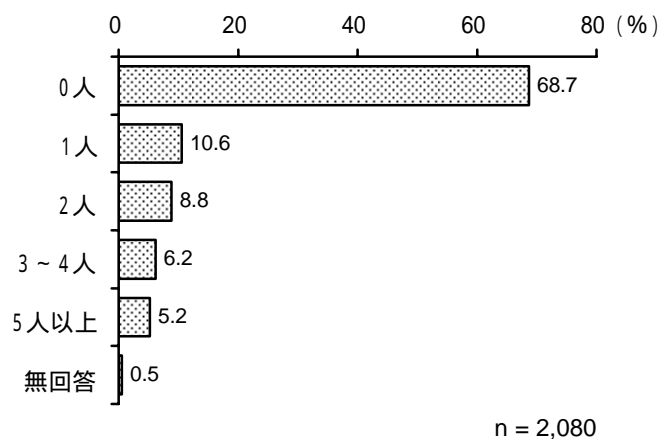
実数で見ると、平均人数は0.91人、最大人数は40人であった。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問6．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(オ) 2時間以上(海外含む)		(n=2,080)
1	0人	68.7%
2	1人	10.6
3	2人	8.8
4	3～4人	6.2
5	5人以上	5.2
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数
(オ) 2時間以上(海外含む)



2時間以上(海外含む)にいる頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数は、「0人」(68.7%)が7割近くとなっている。

実数で見ると、平均値は0.92人、最大人数は50人であった。

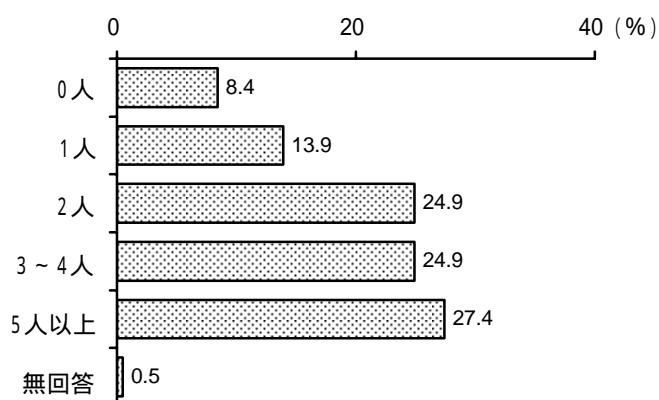
年齢層別に分布傾向をみると、年齢層が高くなるほど、頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の人数が減少している。

なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問6 . あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の方は、何人おられますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ア)～(オ)合計		(n=2,080)
1	0人	8.4%
2	1人	13.9
3	2人	24.9
4	3～4人	24.9
5	5人以上	27.4
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の合計人数
(ア)～(オ)合計



n = 2,080

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の合計人数は、「5人以上」(27.4%)が2割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「2人」(24.9%)、「3～4人」(24.9%)が2割台半ば近くとなっている。他方、「0人」(8.4%)のように親しくしている別居の家族・親族がいないケースや、「1人」(13.9%)のように親しくしている別居の家族・親族が小規模にとどまるケースを合計すると、2割強を占めている。

実数でみると、平均人数は3.88人で、中央値は3人、最頻値は2人、最大人数は60人であった。

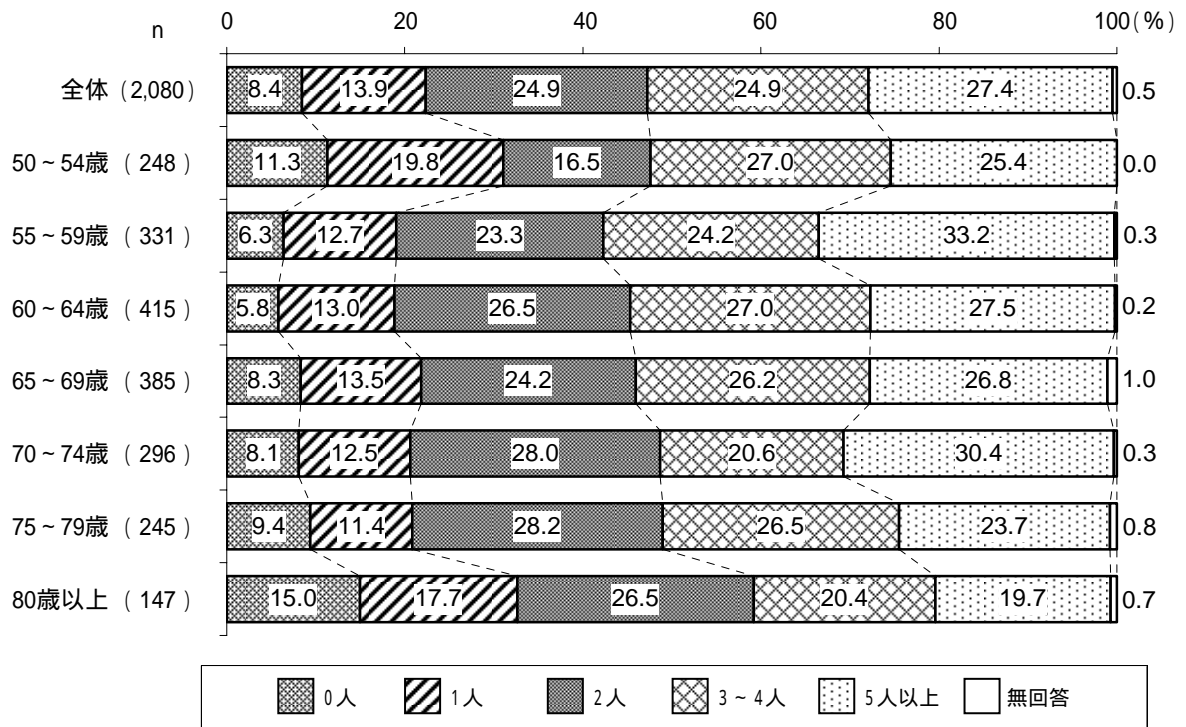
! 「平均値」、「中央値」、「最頻値」の違いとは？

平均値：得られた数値を全て足し合わせ、それを回答者の人数で割った値

中央値：得られた数値を全て昇順又は降順に並べ、その中央に位置している値

最頻値：得られた数値の中で、回答した人がもっとも多かった値

頼りにし、親しくしている別居の家族・親族の合計人数
 (ア)～(オ)合計
 <年齢別>



年齢層別にみると、年齢層の高い、とくに 75 歳以上からは親しい別居の家族・親族の減少傾向がみられる。

男女別にみると、親しい別居の家族・親族の人数の平均値には差がみられないが、親しい別居の家族・親族の人数を 0 人と回答した人は、男性 (10.8%) は、女性 (6.3%) に比べて多くなっている。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

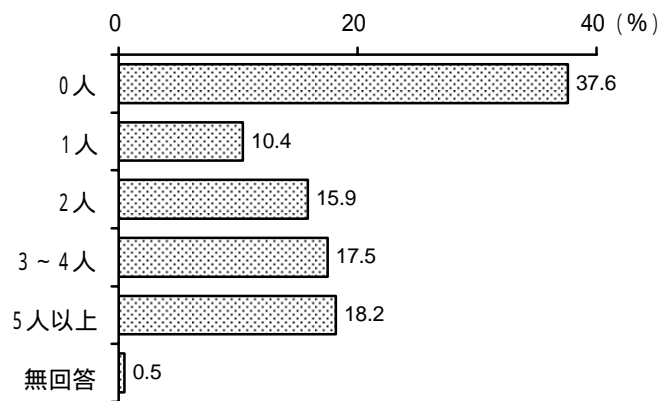
頼りにし、親しくしている近所の方の人数

問7．あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている近所の方（家族・親族を除く）は何人おられますか。

(n=2,080)

1	0人	37.6%
2	1人	10.4
3	2人	15.9
4	3～4人	17.5
5	5人以上	18.2
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている近所の方の人数



n = 2,080

頼りにし、親しくしている近所の方の人数は、「0人」(37.6%)が3割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「5人以上」(18.2%)が2割近く、「3～4人」(17.5%)が1割台半ばを超え、続いている。

実数でみると、平均人数は2.46人、中央値は2人、最大人数は50人であった。

男女別にみると、親しい近所の方の人数の平均値には差がみられないが、親しい近所の方の人数を0人と回答した人の割合は、男性(44.6%)は、女性(32.2%)に比べて多くなっている。

なお、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

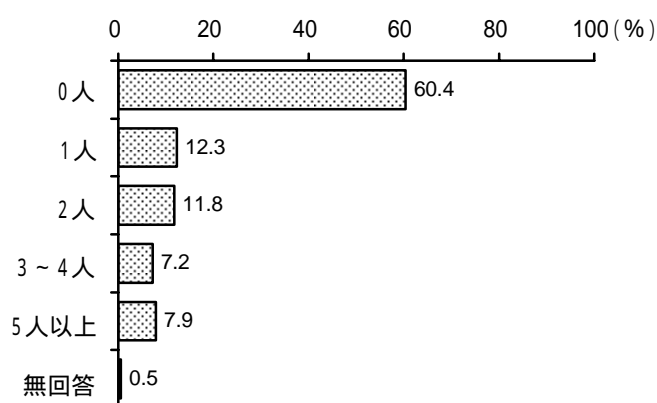
頼りにし、親しくしている友人の人数

問8．これまであげていただいた家族・親族や近所の方以外に、あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている友人の方は何人いますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ア) 30分未満		(n=2,080)
1	0人	60.4%
2	1人	12.3
3	2人	11.8
4	3～4人	7.2
5	5人以上	7.9
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている友人の人数

(ア) 30分未満



n = 2,080

30分未満にいる頼りになり、親しくしている友人の人数は、「0人」(60.4%)が約6割となっている。

実数で見ると、平均人数は1.18人、最大人数は20人であった。

男女別に分布傾向をみると、30分未満にいる親しい友人数は、女性のほうが、男性に比べて多くなっている。とくに、「0人」と回答した人は、男性(68.2%)は、女性(53.9%)に比べて多くなっている。

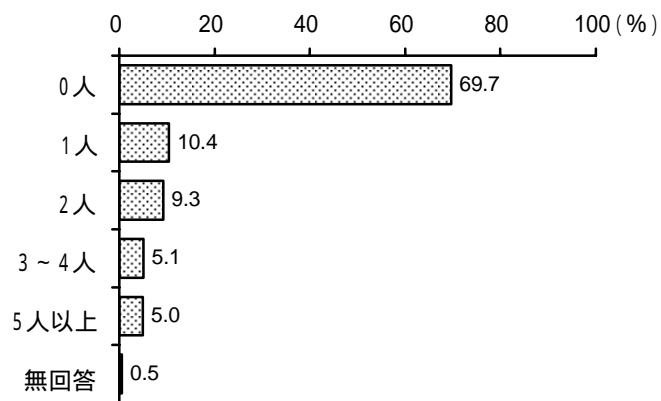
なお、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問 8 . これまであげていただいた家族・親族や近所の方以外に、あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている友人の方は何人いますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(イ) 30分～1時間未満		(n=2,080)
1	0人	69.7%
2	1人	10.4
3	2人	9.3
4	3～4人	5.1
5	5人以上	5.0
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている友人の人数

(イ) 30分～1時間未満



n = 2,080

30分～1時間未満にいる頼りにし、親しくしている友人の人数は、「0人」(69.7%)が7割弱となっている。

実数で見ると、平均人数は0.84人、最大人数は20人であった。

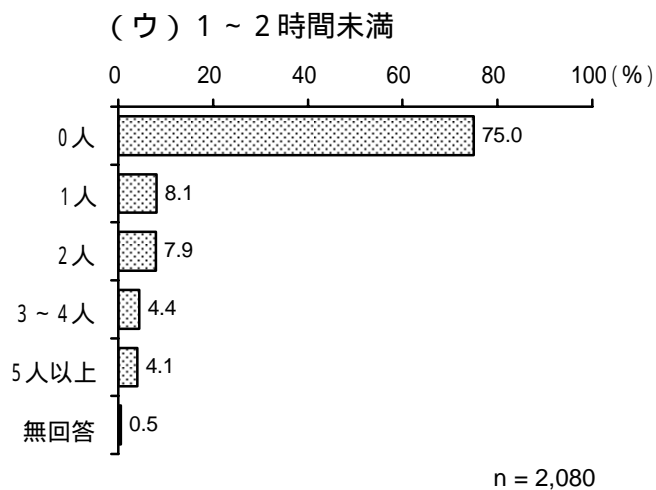
男女別に分布傾向をみると、30分～1時間未満にいる親しい友人数は、女性のほうが、男性に比べて多くなっている。とくに、「0人」と回答した人は、男性(75.3%)は、女性(65.2%)に比べて多くなっている。

なお、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問 8 . これまであげていただいた家族・親族や近所の方以外に、あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている友人の方は何人いますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ウ) 1～2時間未満		(n=2,080)
1	0人	75.0%
2	1人	8.1
3	2人	7.9
4	3～4人	4.4
5	5人以上	4.1
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている友人の人数



1～2時間未満にいる頼りにし、親しくしている友人の人数は、「0人」(75.0%)が7割台半ばとなっている。

実数でみると、平均人数は0.67人、最大人数は30人であった。

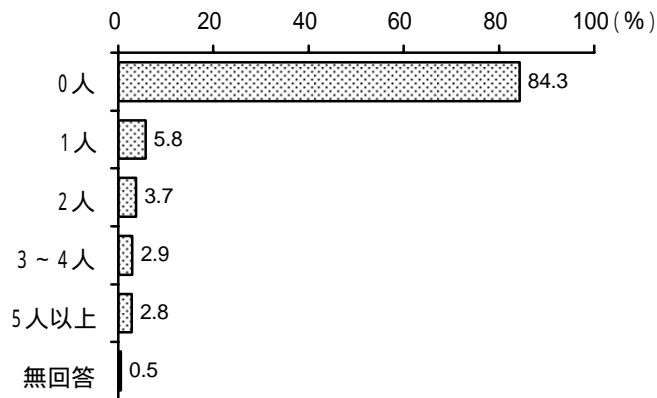
なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問 8 . これまであげていただいた家族・親族や近所の方以外に、あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている友人の方は何人いますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(工) 2時間以上 (海外含む)		(n=2,080)
1	0人	84.3%
2	1人	5.8
3	2人	3.7
4	3～4人	2.9
5	5人以上	2.8
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている友人の人数

(工) 2時間以上 (海外含む)



n = 2,080

2時間以上（海外含む）にいる頼りにし、親しくしている友人の人数は、「0人」（84.3%）が8割台半ば近くとなっている。

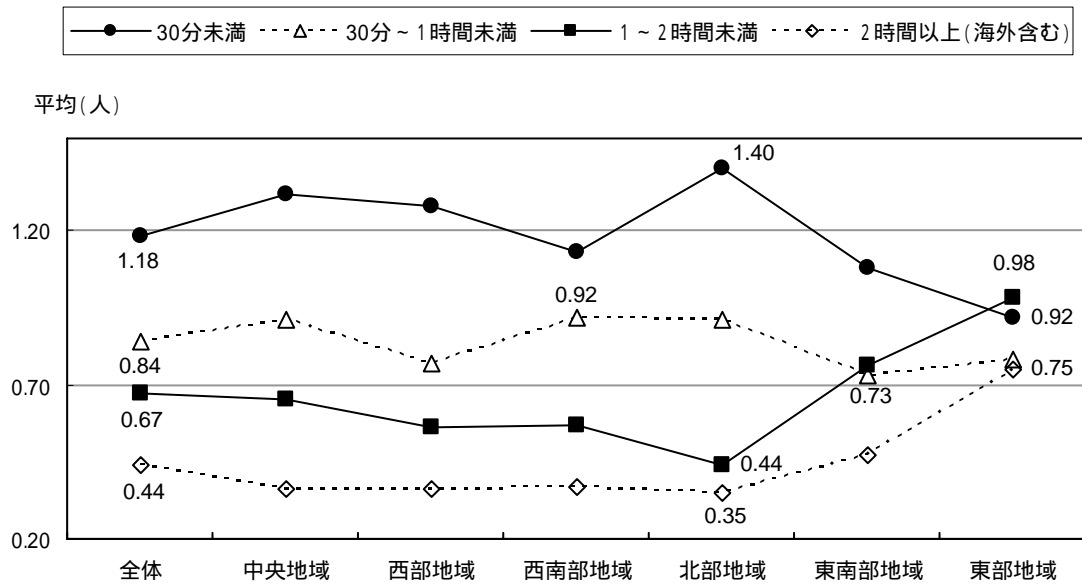
実数でみると、平均人数は0.44人、最大人数は30人であった。

居住地域別にみると、2時間以上の距離にいる親しい友人数が0人と回答している人は、北部（88.4%）でもっとも多く、東部（75.7%）ではもっとも少なくなっている。

年齢層別に分布傾向をみると、年齢層が高いほど減少傾向がみられる。

なお、男女別に分布の違いはみられない。

頼りにし、親しくしている友人の平均人数
 <居住地域別>

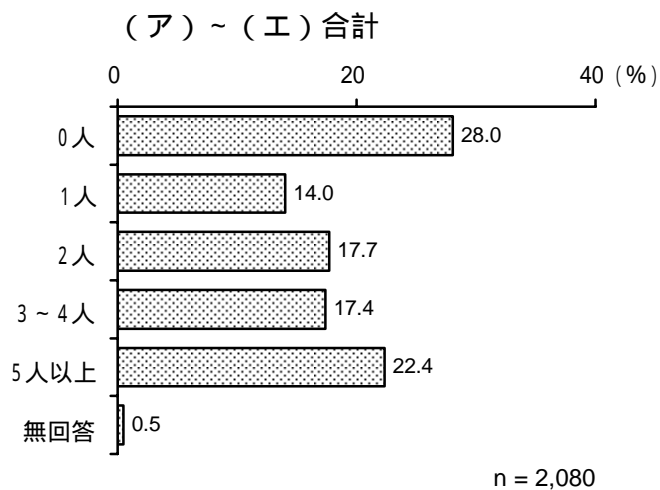


頼りにし、親しくしている友人の人数と、その友人が住んでいる場所との時間距離について、全体的な傾向を居住地域別の平均値と比較した。とくに、東南部と東部では、他の地域とは異なる分布を示しており、他の地域に比べて友人関係が広域化していることがうかがえる。

問8 . これまであげていただいた家族・親族や近所の方以外に、あなたが日頃から何かと頼りにし、親しくしている友人の方は何人いますか。その方のお住まいの場所との距離別（自動車、電車、バスなどの交通機関を利用するか、徒歩のみかにかかわらず、ふだんの交通手段による所要時間別）に人数をご記入ください。

(ア)～(エ)合計		(n=2,080)
1	0人	28.0%
2	1人	14.0
3	2人	17.7
4	3～4人	17.4
5	5人以上	22.4
	無回答	0.5

頼りにし、親しくしている友人の合計人数



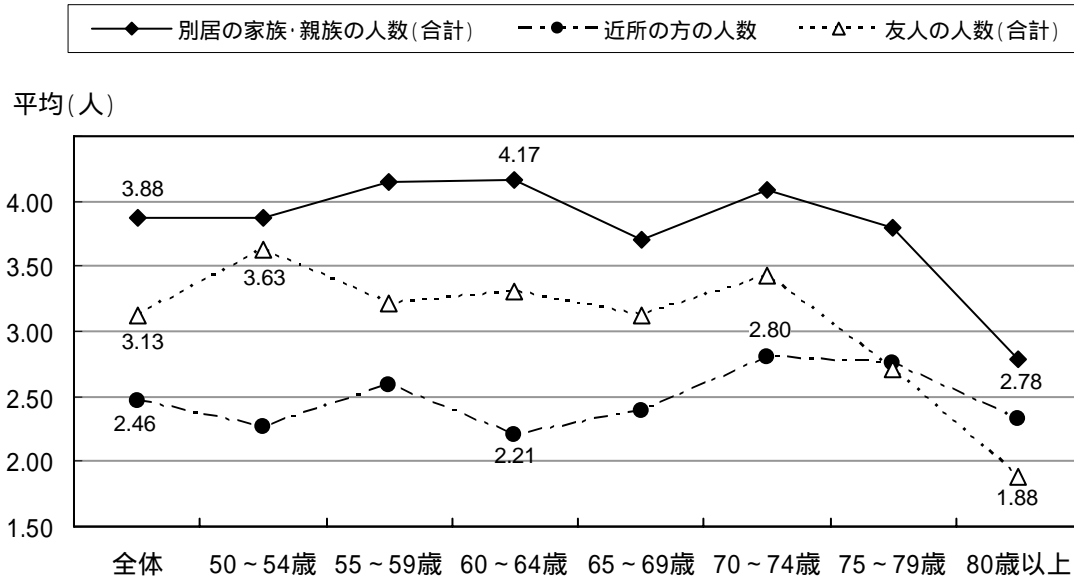
頼りにし、親しくしている友人の合計人数は、「0人」(28.0%)が3割近くでもっとも多く、次いで「5人以上」(22.4%)が2割強、「2人」(17.7%)、「3～4人」(17.4%)が1割台半ばを超えている。

実数で見ると、平均人数は3.13人、中央値は2人、最大人数は90人であった。

男女別にみると、親しい友人の人数の平均値では差がみられないが、親しい友人の人数を0人と回答した人は、男性(34.9%)は、女性(22.5%)に比べて多くなっている。

なお、年齢別、居住地域別に分布の違いはみられない。

頼りにし、親しくしている“別居の家族・親族”、“近所の方”、“友人”の
平均人数
<年齢別>



頼りにし、親しくしている親族、近隣、友人を平均人数で比較すると、多い順に、親族(3.88人)、友人(3.13人)、近隣(2.46人)となっている。

75歳以上では、親しい他者の人数が減少傾向にあることがうかがえる。

頼りにし、親しくしている友人とのきっかけ

【問8. で、親しくしている友人をあげていただいた方におうかがいします。】

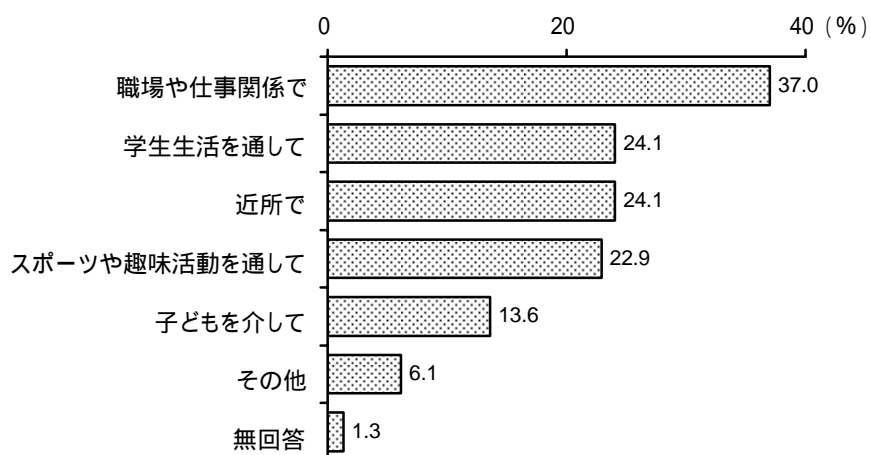
問8 - 1 . いまあげていただいた友人のなかで、もっとも親しくしている方を1人思い浮かべてください。その方とどのようなきっかけで親しくなりましたか。

【あてはまる番号すべてに】

(n=1,487)

1	学生生活を通して	24.1%
2	職場や仕事関係で	37.0
3	スポーツや趣味活動を通して	22.9
4	子どもを介して	13.6
5	近所で	24.1
6	その他	6.1
	無回答	1.3

頼りにし、親しくしている友人とのきっかけ



n = 1,487

頼りにし、親しくしている友人とのきっかけとしては、「職場や仕事関係で」(37.0%)が3割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「学生生活を通して」(24.1%)、「近所で」(24.1%)が2割台半ば近く、「スポーツや趣味活動を通じて」(22.9%)が2割強と続いている。

男女別にみると、分布に違いがみられる項目は、「職場や仕事関係」「子ども」「近所」であった。男性が、女性に比べて多く選択する傾向にある項目は「職場や仕事関係」、女性が、男性に比べて多く選択する傾向にある項目は「子ども」「近所」となっている。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど選択されている項目は、「学生生活」「職場や

仕事関係」「子ども」であった。年齢層が高いほど選択されている項目は、「趣味」「近所」であった。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

(4) 日頃の対人関係について

個人的な悩みや心配事を聞いてくれる相手

問9. 次の(ア)～(オ)のようなことを、あなたにしてくれる相手は、おもにどなたですか。想定(頼みたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

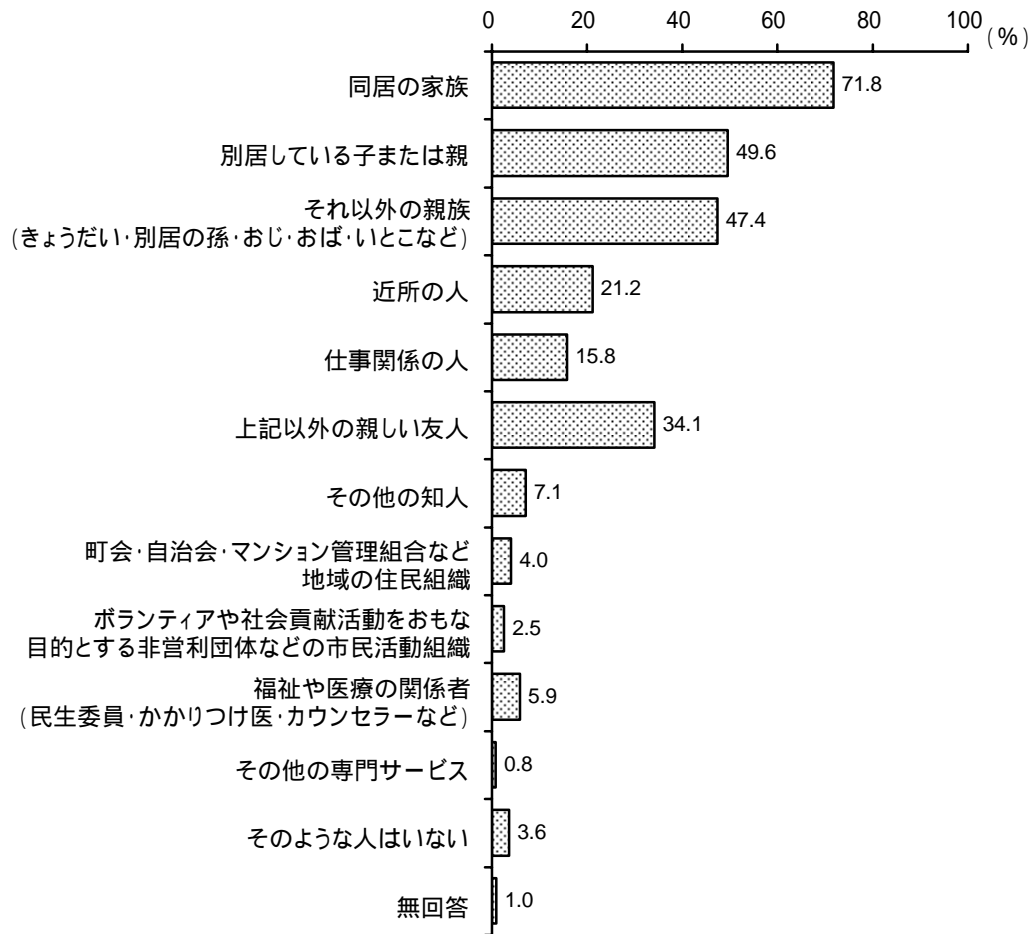
(ア) 個人的な悩みや心配事を聞いてくれる相手

【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	同居の家族	71.8%
2	別居している子または親	49.6
3	それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)	47.4
4	近所の人	21.2
5	仕事関係の人	15.8
6	上記以外の親しい友人	34.1
7	その他の知人	7.1
8	町会・自治会・マンション管理組合など地域の住民組織	4.0
9	ボランティアや社会貢献活動をおもな目的とする非営利団体などの市民活動組織	2.5
10	福祉や医療の関係者(民生委員・かかりつけ医・カウンセラーなど)	5.9
11	その他の専門サービス	0.8
12	そのような人はいない	3.6
	無回答	1.0

(ア) 個人的な悩みや心配事を聞いてくれる相手



n = 2,080

他者から受けることが期待できる情緒的支援の指標のひとつとして、「個人的な悩みや心配事を聞いてくれる相手」(以下、【悩みサポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(71.8%)が7割強でもっとも多く、次いで「別居している子または親」(49.6%)が5割弱、「それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)」(47.4%)が4割台半ばを超え、「上記以外の親しい友人」(34.1%)が3割台半ば近くと続いている。

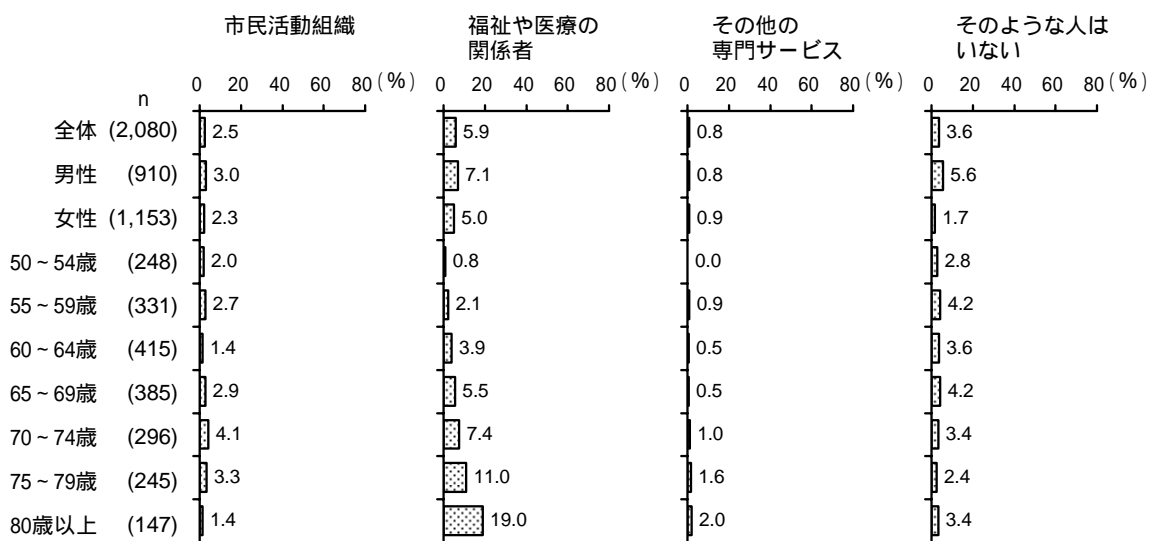
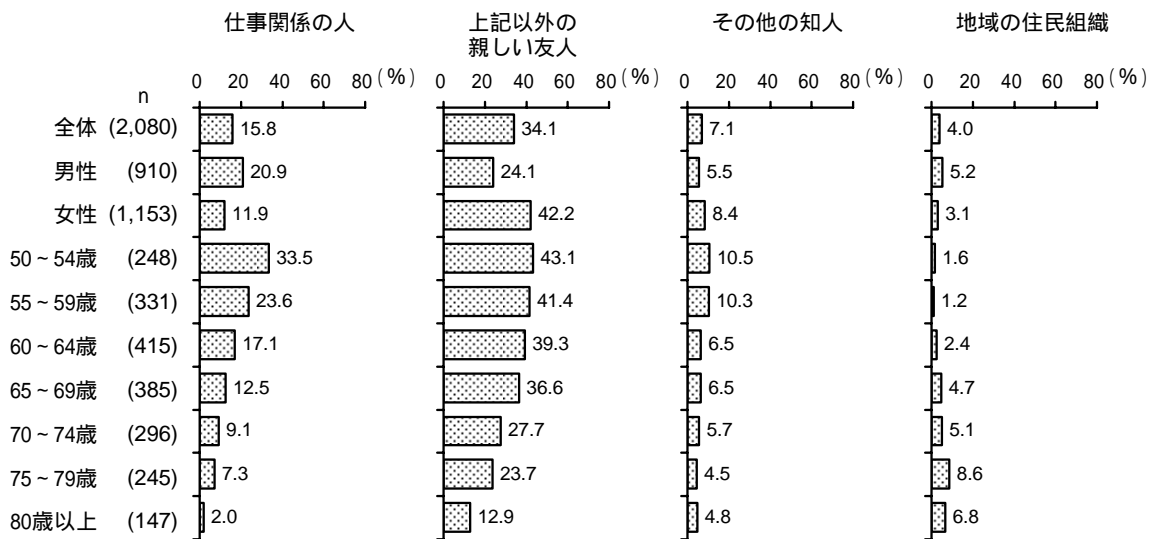
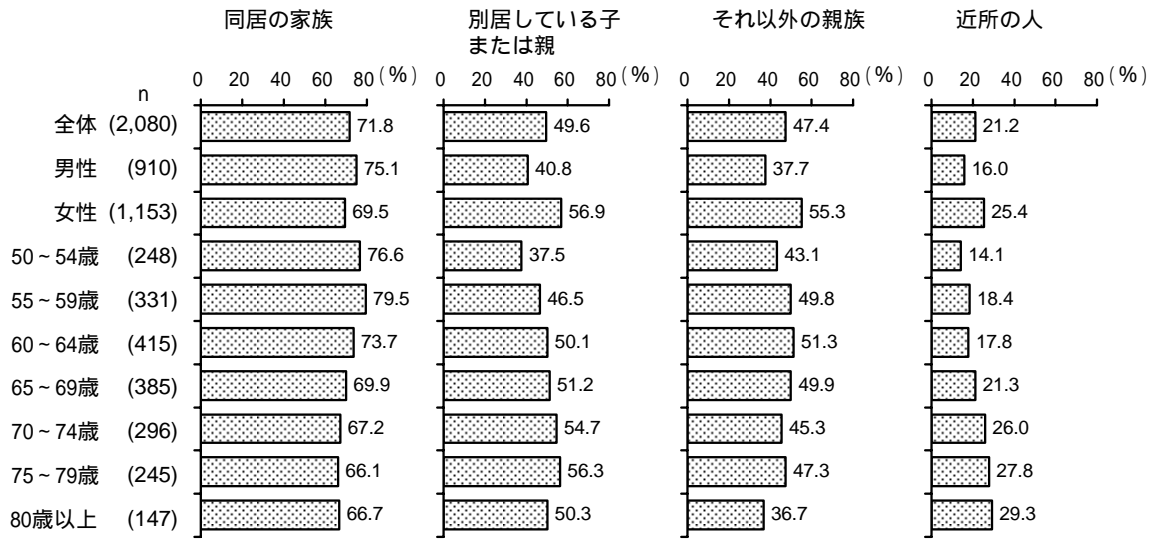
男女別に分布傾向をみると、女性のほうが「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」を、男性のほうが「仕事関係」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居家族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「別居の子・親」「近所」「地域住民組織」「福祉・医療の関係者」を多く選択する傾向がみられた。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

(ア) 個人的な悩みや心配事を聞いてくれる相手

< 性別・年齢別 >



気軽にしゃべりをしたり気晴らしをする相手

問9 . 次の(ア)～(オ)のようなことを、あなたにしてくれる相手は、おもにどなたですか。想定(頼みたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

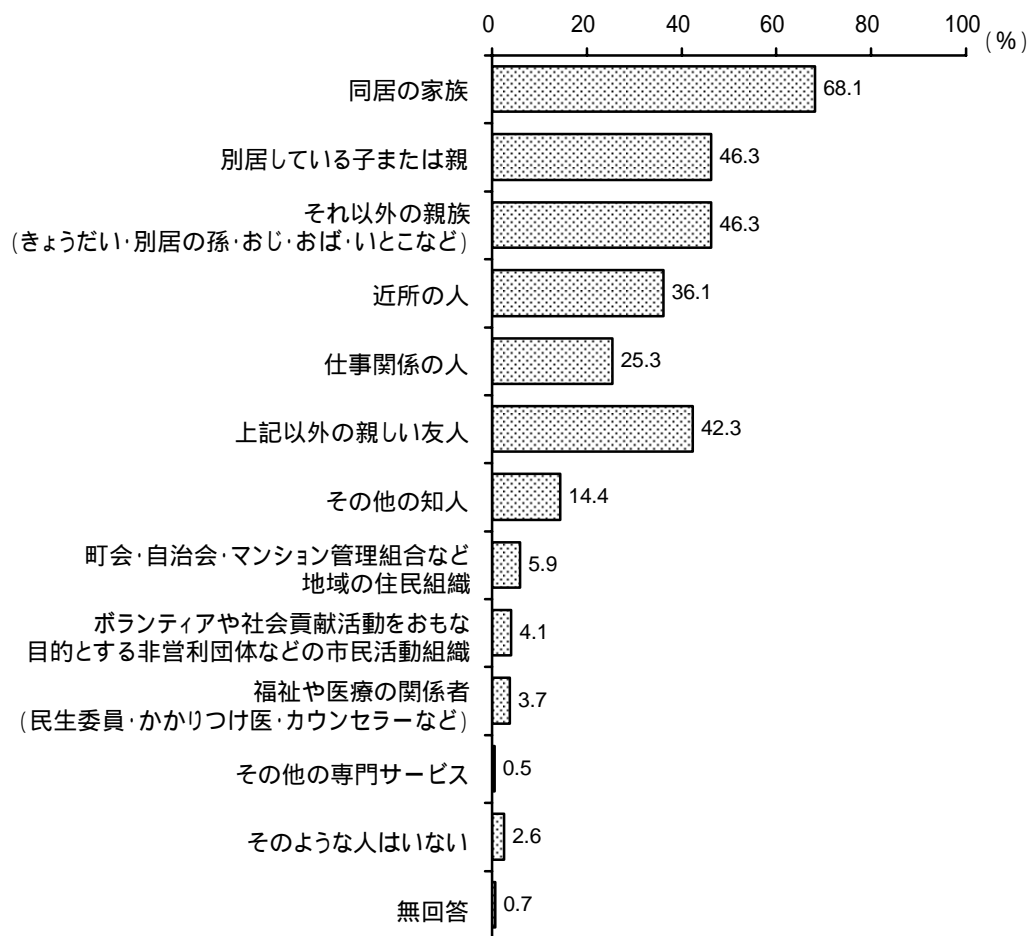
(イ) 気軽にしゃべりをしたり気晴らしをする相手

【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	同居の家族	68.1%
2	別居している子または親	46.3
3	それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)	46.3
4	近所の人	36.1
5	仕事関係の人	25.3
6	上記以外の親しい友人	42.3
7	その他の知人	14.4
8	町会・自治会・マンション管理組合など地域の住民組織	5.9
9	ボランティアや社会貢献活動をおもな目的とする非営利団体などの市民活動組織	4.1
10	福祉や医療の関係者(民生委員・かかりつけ医・カウンセラーなど)	3.7
11	その他の専門サービス	0.5
12	そのような人はいない	2.6
	無回答	0.7

(イ) 気軽におしゃべりをしたり気晴らしをする相手



n = 2,080

他者から受けることが期待できる情緒的支援の指標のひとつとして、「気軽におしゃべりをしたり気晴らしをする相手」(以下、【気晴らしサポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(68.1%)が7割近くでもっとも多く、次いで「別居している子または親」(46.3%)、「それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)」(46.3%)が4割台半ばを超え、「上記以外の親しい友人」(42.3%)が4割強と続いている。

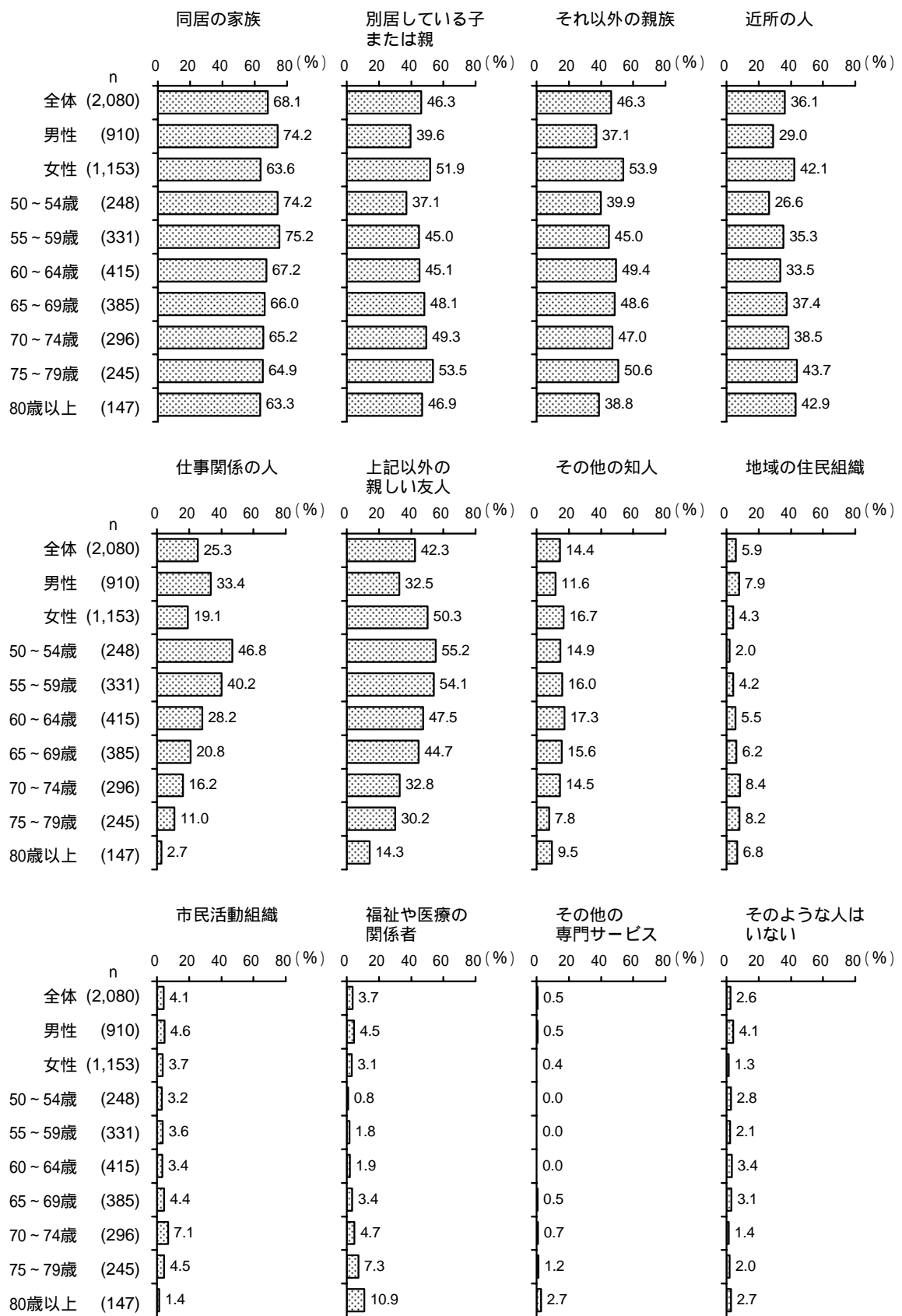
男女別にみると、女性のほうが「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」「知人」を、男性のほうが「同居の家族」「仕事関係」「地域住民組織」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「仕事関係」「友人」「知人」を、年齢層が高いほど「近所」「福祉・医療の関係者」を多く選択する傾向がみられた。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

(イ) 気軽におしゃべりをしたり気晴らしをする相手

< 性別・年齢別 >



声をかけてくれる相手

問9 . 次の(ア)～(オ)のようなことを、あなたにしてくれる相手は、おもにどなたですか。想定(頼みたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

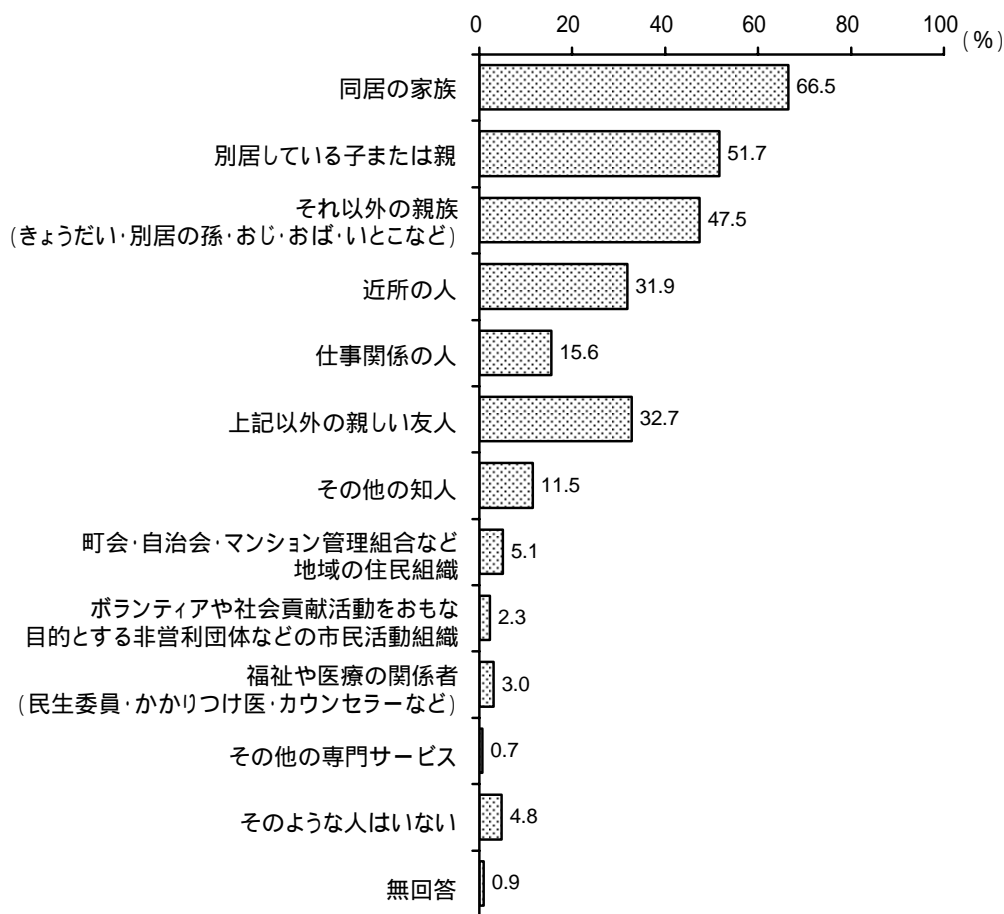
(ウ)とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたに声をかけてくれる相手

【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	同居の家族	66.5%
2	別居している子または親	51.7
3	それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)	47.5
4	近所の人	31.9
5	仕事関係の人	15.6
6	上記以外の親しい友人	32.7
7	その他の知人	11.5
8	町会・自治会・マンション管理組合など地域の住民組織	5.1
9	ボランティアや社会貢献活動をおもな目的とする非営利団体などの市民活動組織	2.3
10	福祉や医療の関係者(民生委員・かかりつけ医・カウンセラーなど)	3.0
11	その他の専門サービス	0.7
12	そのような人はいない	4.8
	無回答	0.9

(ウ) とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたに声をかけてくれる相手



n = 2,080

「とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたに声をかけてくれる相手」(以下、【声かけサポート】)の存在をたずねた。この指標は、前項目でみた他者に期待する【悩みサポート】や【気晴らしサポート】といった情緒的支援との関連性が強いことが確認されたため、情緒的支援に分類できる指標として取り扱うこととした。

「同居の家族」(66.5%)が6割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「別居している子または親」(51.7%)が5割強、「それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)」(47.5%)が4割台半ばを超え、「上記以外の親しい友人」(32.7%)、「近所の人」(31.9%)が3割強と続いている。

しかし、「そのような人はいない」(4.8%)は、今回たずねた(ア)～(オ)の5種類のサポート項目のなかで2番目に多くなっている。

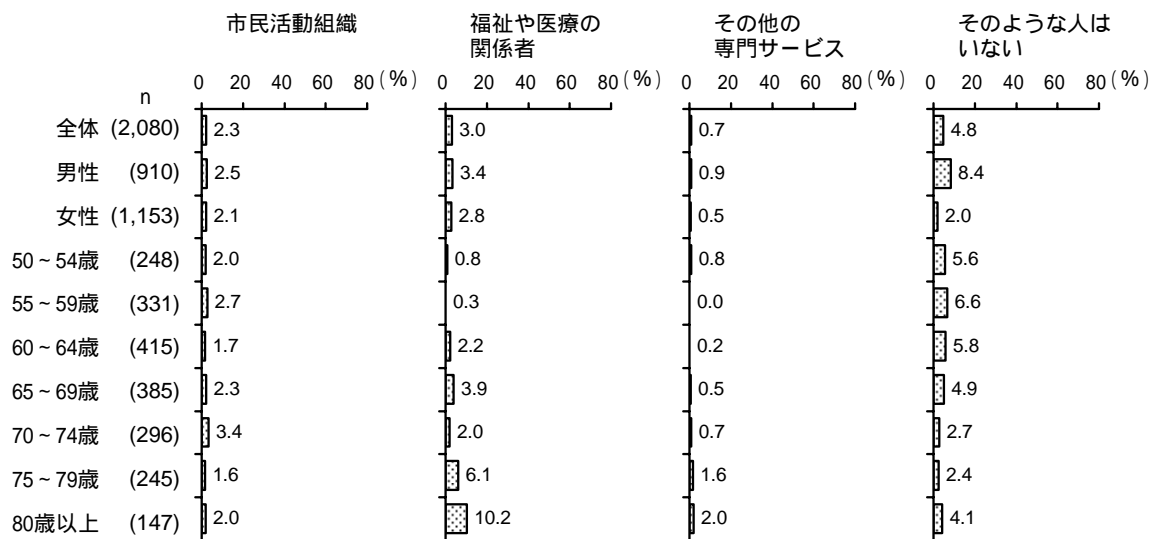
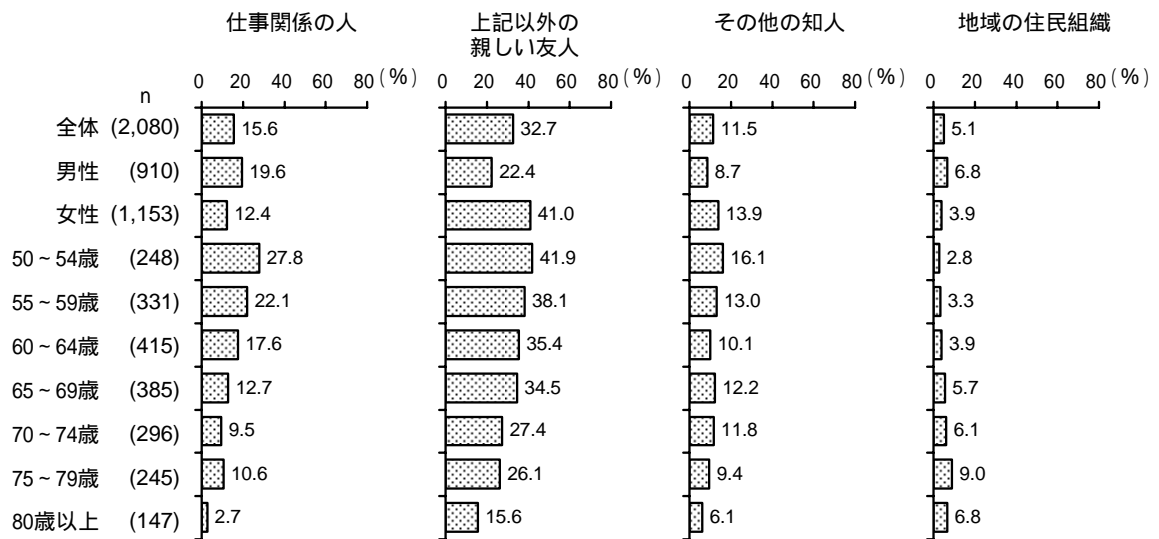
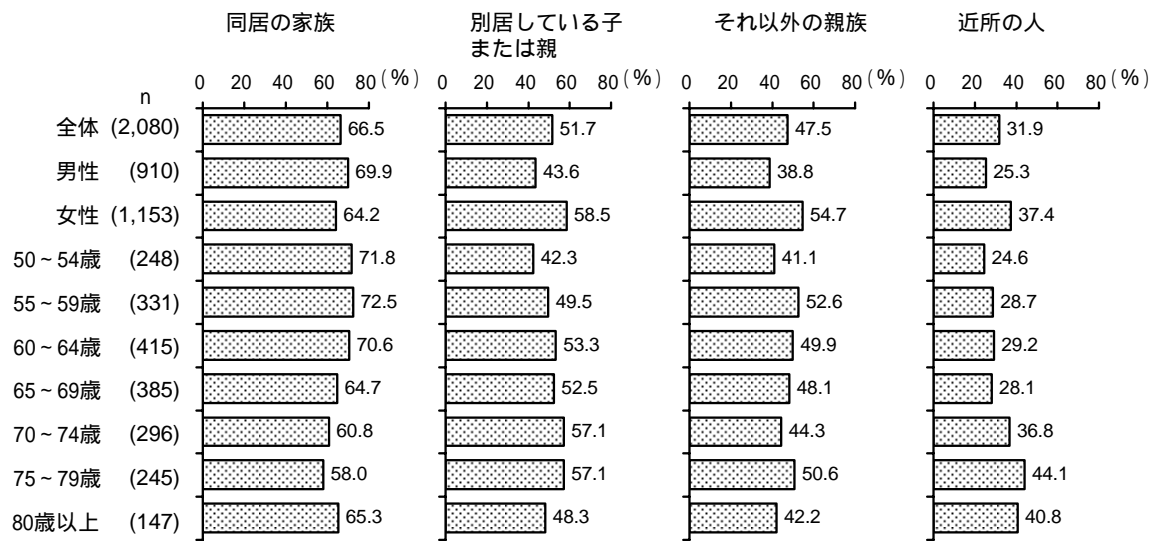
男女別にみると、女性のほうが「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」「知人」を、男性のほうが「仕事関係」「地域住民組織」「そのような人はいない」を

多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「近所」「地域住民組織」「福祉・医療の関係者」を多く選択する傾向がみられた。

居住地域別にみると、「近所」からのサポートに対する期待にのみ分布の違いがみられ、西部（39.2%）がもっとも高く、東部（24.3%）がもっとも低くなっている。

(ウ) とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたに声をかけてくれる相手



ちょっとした用事やおつかいをしてくれる相手

問9 . 次の(ア)～(オ)のようなことを、あなたにしてくれる相手は、おもにどなたですか。想定(頼みたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

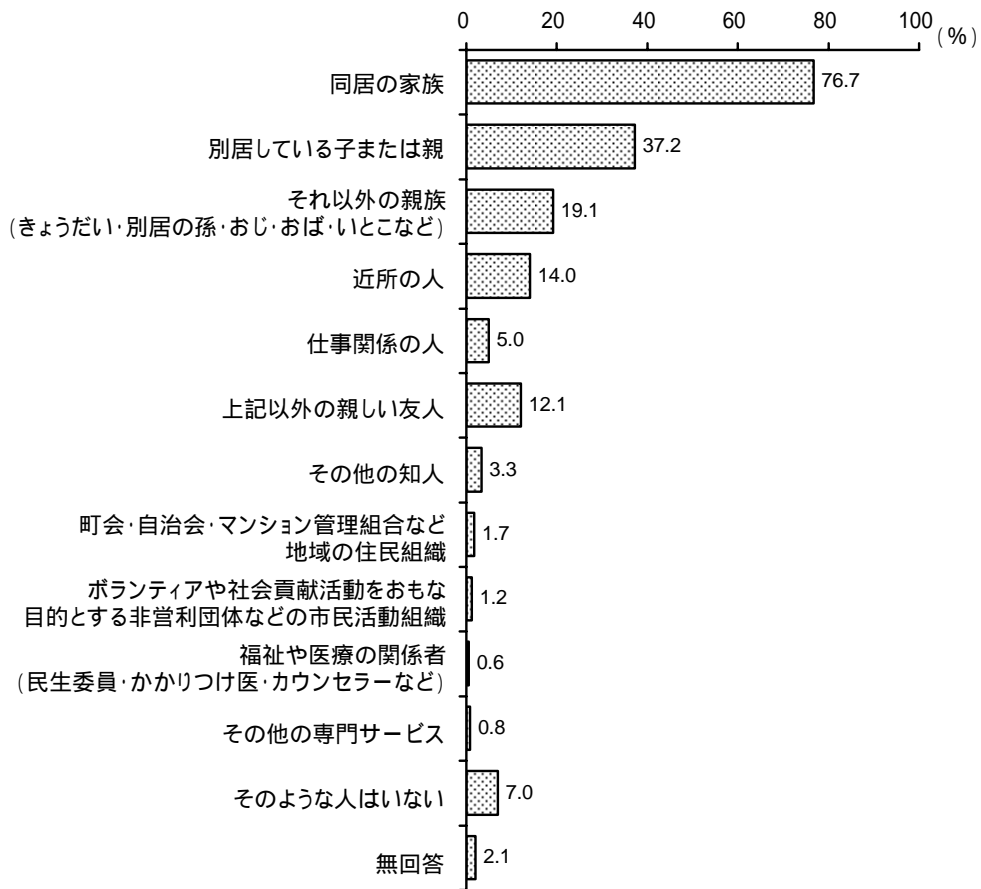
(エ) ちょっとした用事やおつかいをしてくれる相手

【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	同居の家族	76.7%
2	別居している子または親	37.2
3	それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)	19.1
4	近所の人	14.0
5	仕事関係の人	5.0
6	上記以外の親しい友人	12.1
7	その他の知人	3.3
8	町会・自治会・マンション管理組合など地域の住民組織	1.7
9	ボランティアや社会貢献活動をおもな目的とする非営利団体などの市民活動組織	1.2
10	福祉や医療の関係者(民生委員・かかりつけ医・カウンセラーなど)	0.6
11	その他の専門サービス	0.8
12	そのような人はいない	7.0
	無回答	2.1

(エ) ちょっとした用事やおつかいをしてくれる相手



n = 2,080

他者から受けることが期待できる手段的支援の指標のひとつとして、相手の負担感が比較的軽いタイプのもので、「ちょっとした用事やおつかいをしてくれる相手」(以下、【用事サポート】)の存在をたずねた。「同居の家族」(76.7%)が7割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「別居している子または親」(37.2%)が3割台半ばを超えている。しかし、「そのような人はいない」(7.0%)は、今回たずねた(ア)～(オ)の5種類のサポートのなかでもっとも多くなっている。

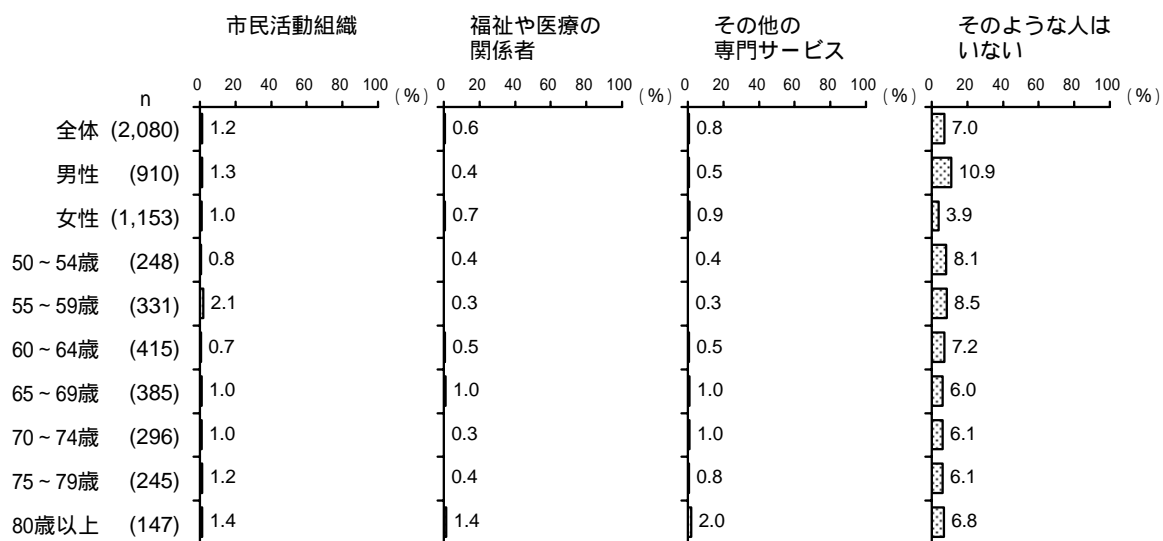
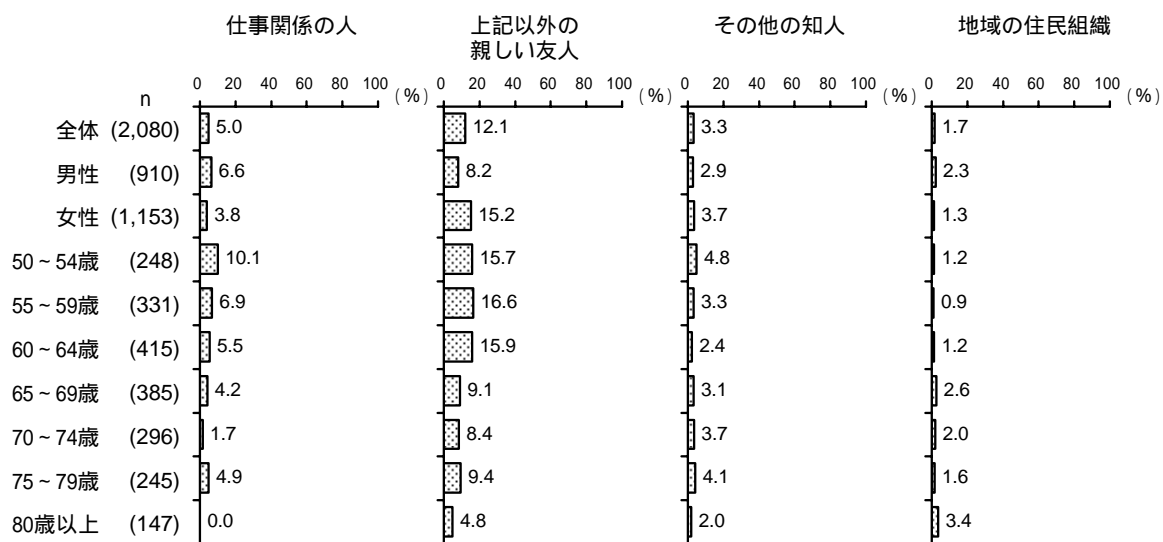
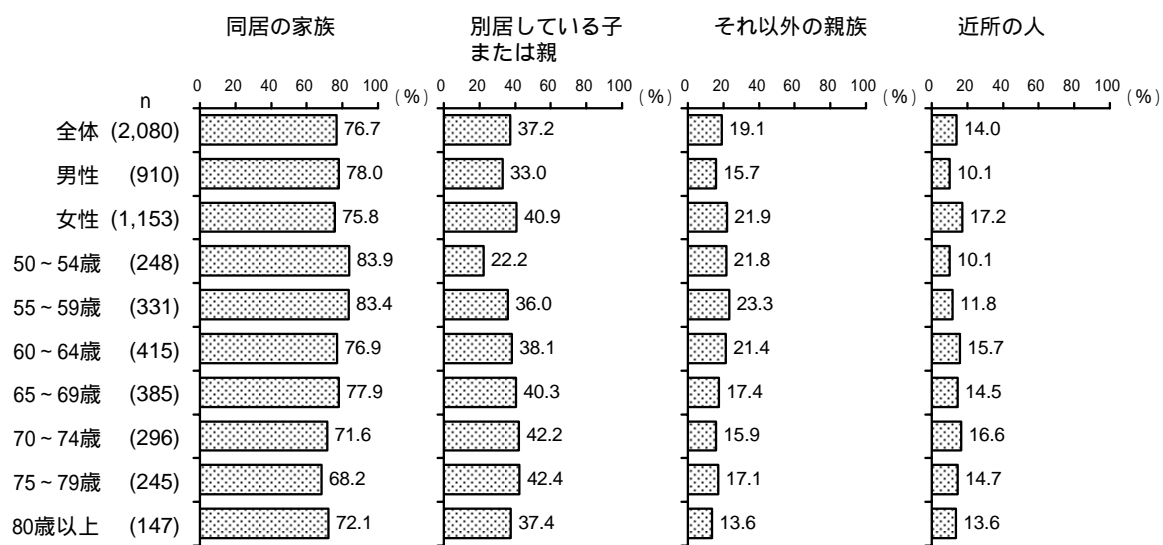
男女別にみると、女性のほうが「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」を、男性のほうが「仕事関係」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「別居の子・親」を多く選択する傾向がみられた。

居住地域別にみると、「同居の家族」「近所」からのサポートに対する期待にのみ、分布の違いがみられ、「同居の家族」への期待は、他の地域に比べ、東部(84.0%)でもっとも高く、中央(73.1%)、西部(72.7%)で低くなっている。「近所の人」への期待は、他の地域に比べ、西部(17.9%)、西南部(16.9%)で高く、中央(9.8%)、東部(11.4%)で低くなっている。

(エ) ちょっとした用事やおつかいをしてくれる相手

< 性別・年齢別 >



体調が悪いとき、世話をしてくれる相手

問9 . 次の(ア)～(オ)のようなことを、あなたにしてくれる相手は、おもにどなたですか。想定(頼みたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(オ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

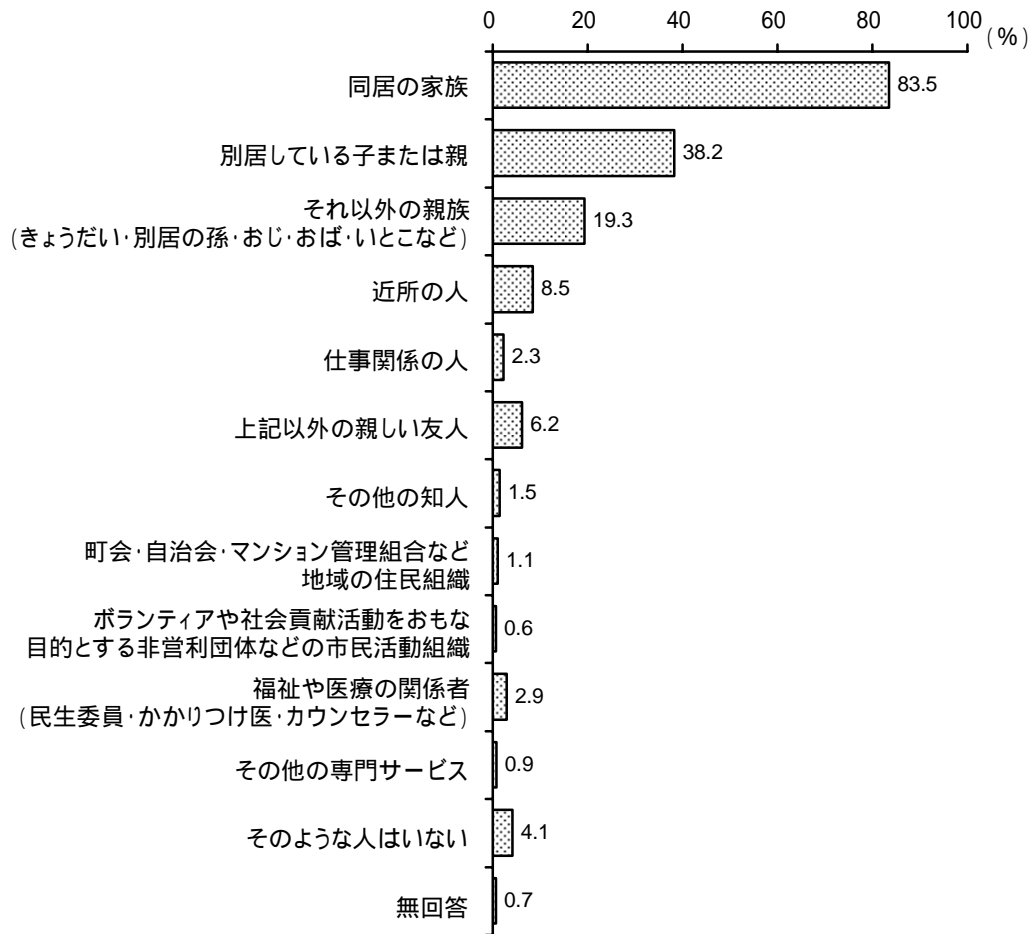
(オ)あなたの体調が悪いとき、世話をしてくれる相手

【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	同居の家族	83.5%
2	別居している子または親	38.2
3	それ以外の親族(きょうだい・別居の孫・おじ・おば・いとこなど)	19.3
4	近所の人	8.5
5	仕事関係の人	2.3
6	上記以外の親しい友人	6.2
7	その他の知人	1.5
8	町会・自治会・マンション管理組合など地域の住民組織	1.1
9	ボランティアや社会貢献活動をおもな目的とする非営利団体などの市民活動組織	0.6
10	福祉や医療の関係者(民生委員・かかりつけ医・カウンセラーなど)	2.9
11	その他の専門サービス	0.9
12	そのような人はいない	4.1
	無回答	0.7

(オ) あなたの体調が悪いとき、世話をしてくれる相手



n = 2,080

他者から受けることが期待できる手段的支援の指標のひとつであり、相手の負担感が重いタイプのもので、「あなたの体調が悪いとき、世話をしてくれる相手」(以下、【世話サポート】)の存在をたずねた。

「同居の家族」(83.5%)が8割台半ば近くでもっとも多くなっている。

男女別にみると、女性のほうが「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」を、男性のほうが「同居の家族」を多く選択する傾向がみられた。

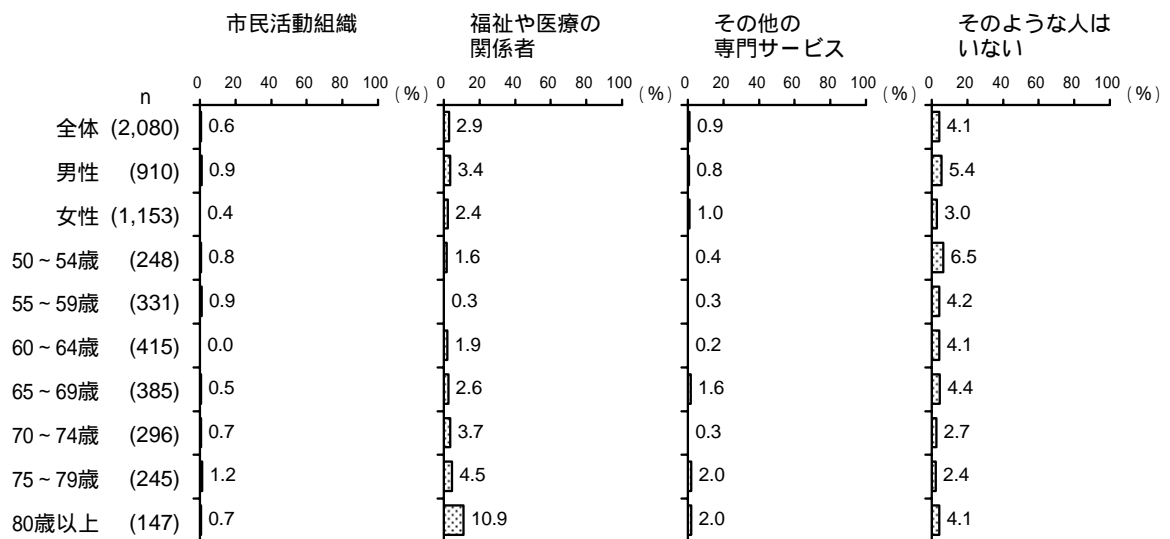
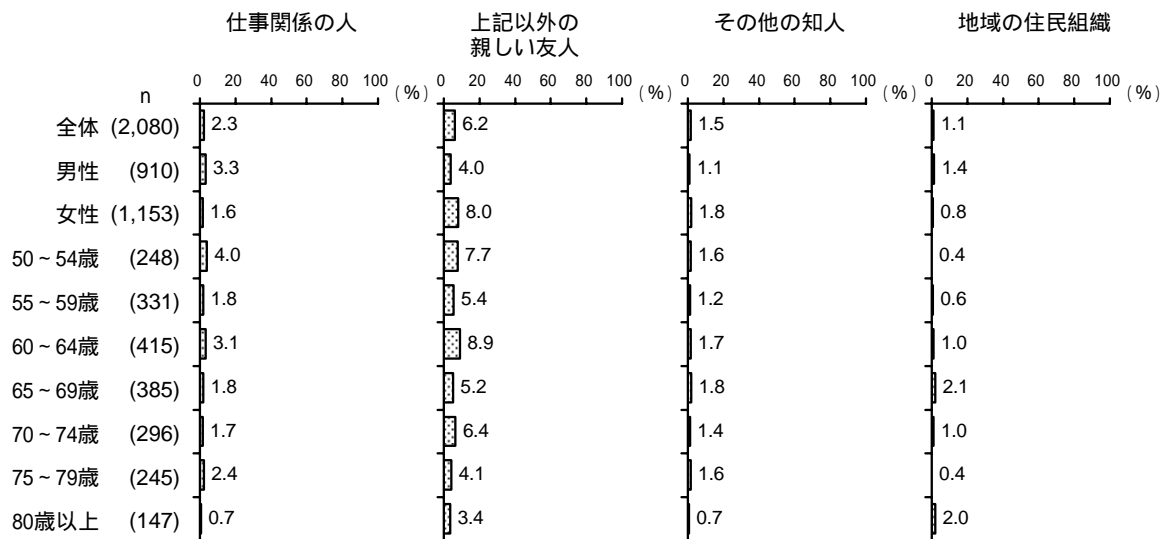
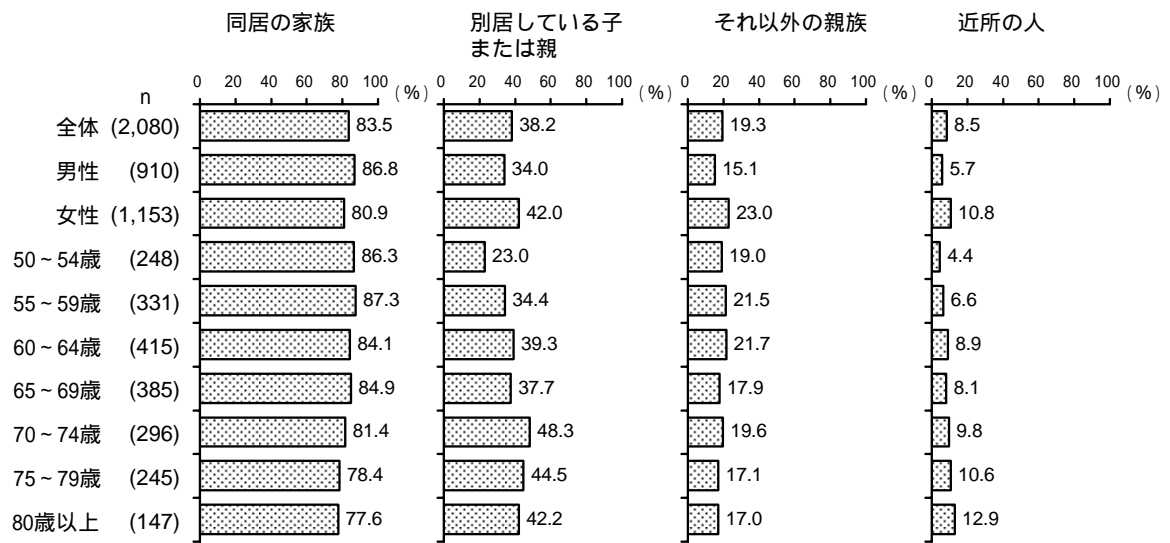
年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」を、年齢層が高いほど「別居の子・親」「福祉・医療の関係者」を多く選択する傾向がみられた。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

手段的支援に分類した【用事サポート】と【世話サポート】は、情緒的支援に比べて、圧倒的に多くの方が「同居の家族」に期待している傾向がみられる。

(オ) あなたの体調が悪いとき、世話をしてくれる相手

<性別・年齢別>



他者に期待しているサポート量の平均値

全体的な傾向を把握するために、これまでみてきた5種類のサポートについて、それぞれを期待している他者の種類の多さ、少なさを比較するために、点数化を行い、平均値を算出した。

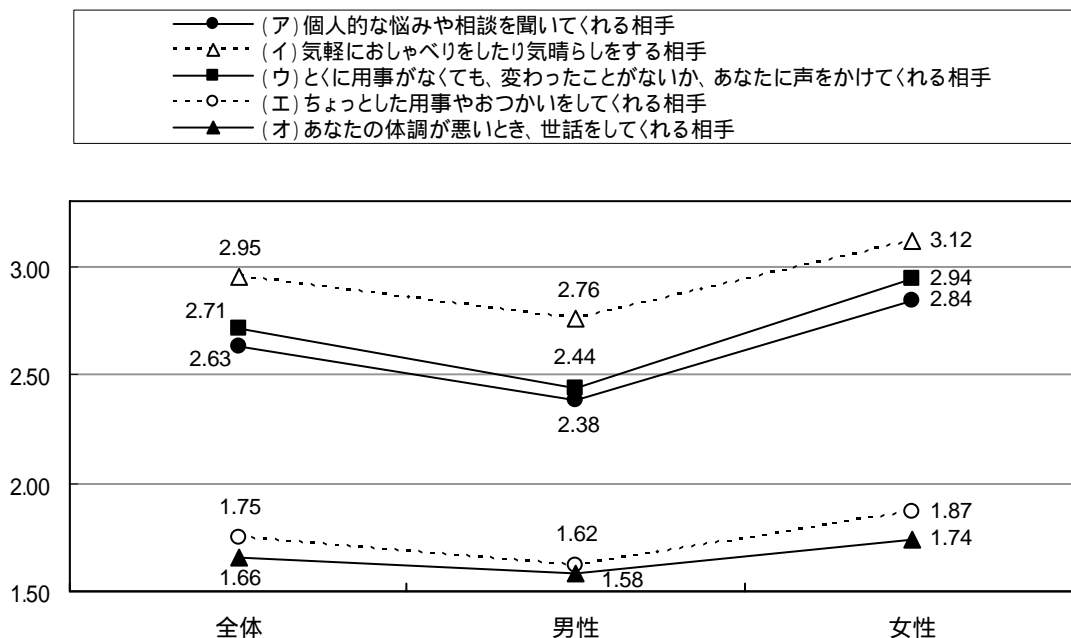
この平均値は、サポートを期待している相手として選択された項目に1点（「いる」）、選択されていない項目に0点（「いない」）を与えて、サポートの種類（ア）～（オ）の各合計得点が0～11点になるように加算し、他者に期待しているサポートを量的に表したものである。つまり、回答者が、サポートを期待している他者の種類の多様性によって、他者に期待しているサポート量を把握しようとするものである。（例：回答者が「同居の家族」「別居の子・親」「それ以外の親族」の3つを選択していれば3点を与えている。）

今回たずねた他者から受けるサポート5種類を大別すると、【悩みサポート】【気晴らしサポート】【声かけサポート】は情緒的支援、【用事サポート】【世話サポート】は手段的支援に分類することができる。

全体的な傾向をみると、情緒的支援は、手段的支援に比べて平均値が高くなっており、情緒的支援のほうがさまざまな他者にサポートを期待できると考えている傾向がみられる。

他者に期待しているサポート量の平均値

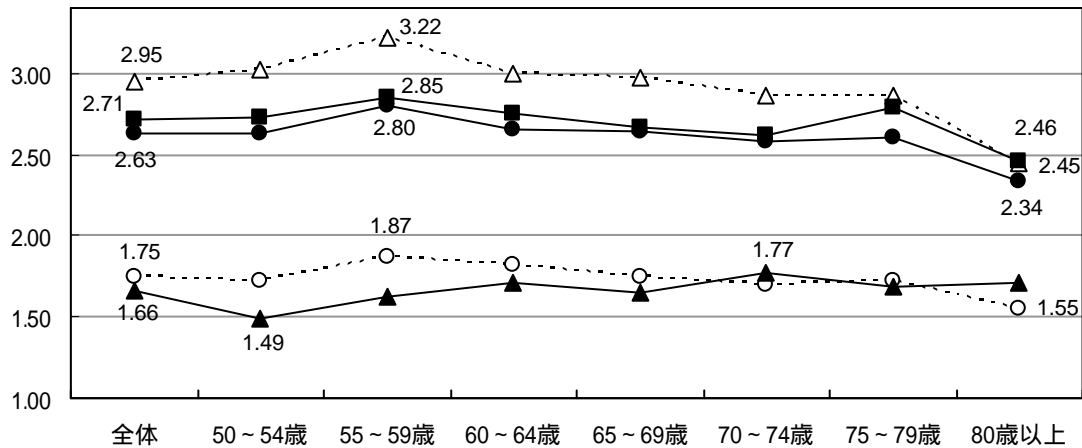
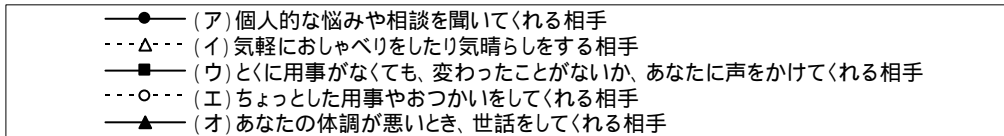
< 性別 >



男女別にみると、女性は、男性に比べて、サポートしてくれる相手としてさまざまな種類の他者を見込んでいる傾向がみられる。

他者に期待しているサポート量の平均値

< 年齢別 >



年齢層別にみると、【世話サポート】以外は、全体的にみて、年齢層が低いほど、さまざまな種類の他者にサポートを期待しており、年齢層が高いほど、サポートを期待できる相手の種類が限定的になる傾向がみられる。とくに、【気晴らしサポート】は、年齢層が高いほど、サポートを期待している相手の種類が減少している。

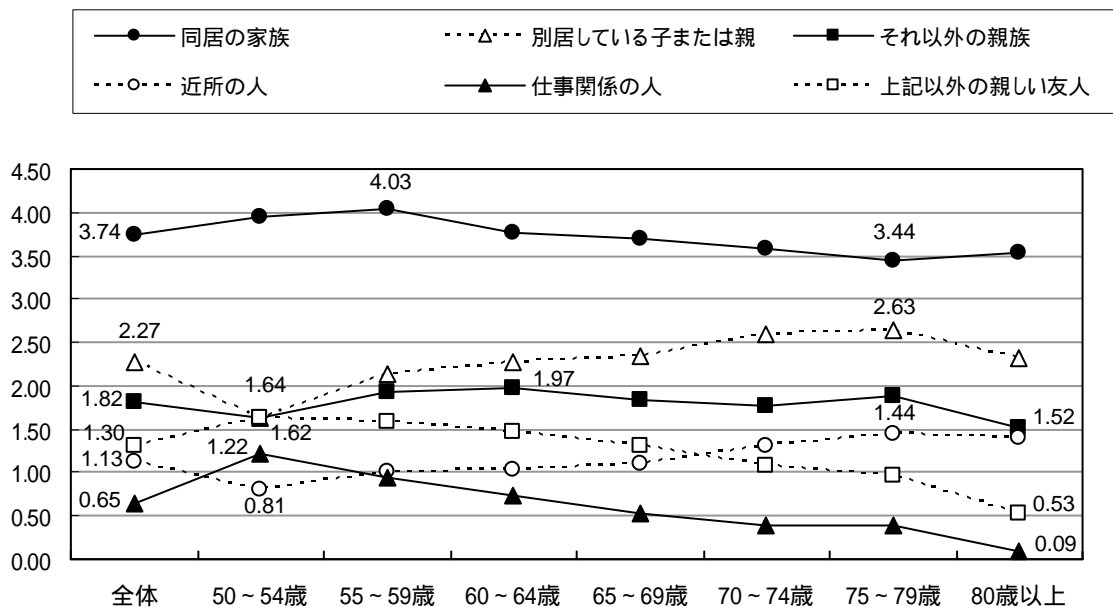
なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

サポートを期待している相手別にみたサポート量の平均値

どのような相手からどのくらいのサポートを期待しているのかについて、相手別に全体的な傾向を比較するために、点数化を行い、平均値を算出した。

この平均値は、「いる」に1点、「いない」に0点を与えて、(ア)～(オ)の5つのサポートについて、サポートを期待している相手別に合計し、合計得点が0～5点になるように加算して、どのような関係性の相手にどのくらいのサポートを期待しているのかを量的に表したものである。なお、ここでは主要な相手方だけに絞って全体的な傾向を比較することとした。

サポートを期待している相手別にみたサポート量の平均値
<年齢別>



年齢層別に分布傾向をみると、全体的にどの年齢層においても、「同居の家族」からのさまざまな種類のサポートへの期待が高い傾向がみられる。

年齢層が高くなるほど、「親しい友人」や「仕事関係の人」へのサポート期待が減少する傾向がみられる。また、年齢層が高くなるほど、「別居の子・親」(ただし、高年齢層においては、実際には「子」を示しているとみられる。)や「近所の人」への期待が増加する傾向がみられるが、80～84歳では減少に転じている。

男女別にみると、女性は、男性に比べ「別居の子・親」(女性 2.55 点、男性 1.94 点)、「その他の親族」(女性 2.12 点、男性 1.46 点)、「近所」(女性 1.34 点、男性 0.87 点)、「友人」(女性 1.60 点、男性 0.93 点)にさまざまな種類のサポートを期待している傾向がみられ、男性は、女性に比べ「同居の家族」(男性 3.89 点、女性 0.50 点)、「仕事関係」(男性 0.85 点、女性 0.50 点)に期待している傾向がみられる。

居住地域別に分布の違いがみられるのは、「同居の家族」と「近所」となっている。「同居の家族」への期待が高いのは、東部（4.10 点）、低いのは中央（3.56 点）となっており、「近所」への期待が高いのは、西部（1.37 点）、低いのは東部（0.86 点）となっている。

個人的な悩みや心配事を、聞いてあげる相手

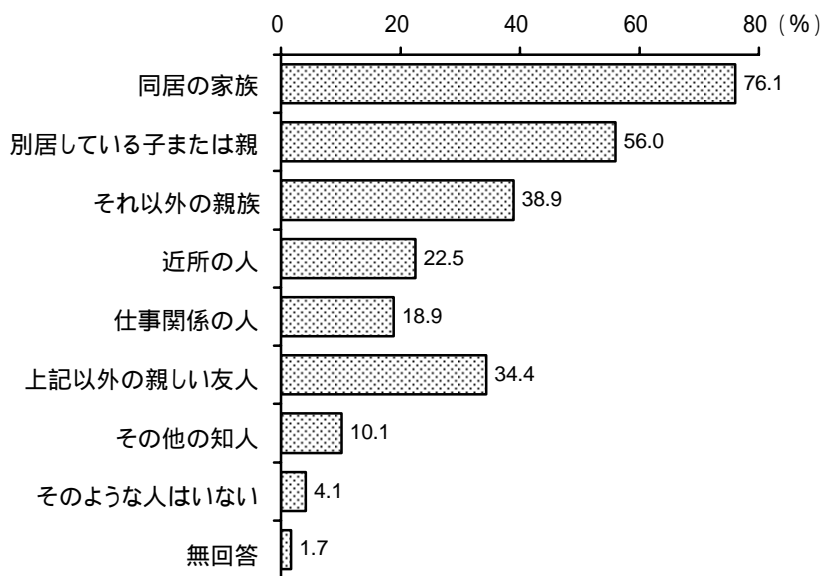
問10. 次の(ア)～(エ)のようなことを、仕事以外であなたがしてあげる相手は、おもにどなたですか。想定(してあげたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(エ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

(ア) 個人的な悩みや心配事を、あなたが聞いてあげる相手

【あてはまる番号すべてに 】(n=2,080)

1	同居の家族	76.1%
2	別居している子または親	56.0
3	それ以外の親族	38.9
4	近所の人	22.5
5	仕事関係の人	18.9
6	上記以外の親しい友人	34.4
7	その他の知人	10.1
8	そのような人はいない	4.1
	無回答	1.7

(ア) 個人的な悩みや心配事を、あなたが聞いてあげる相手

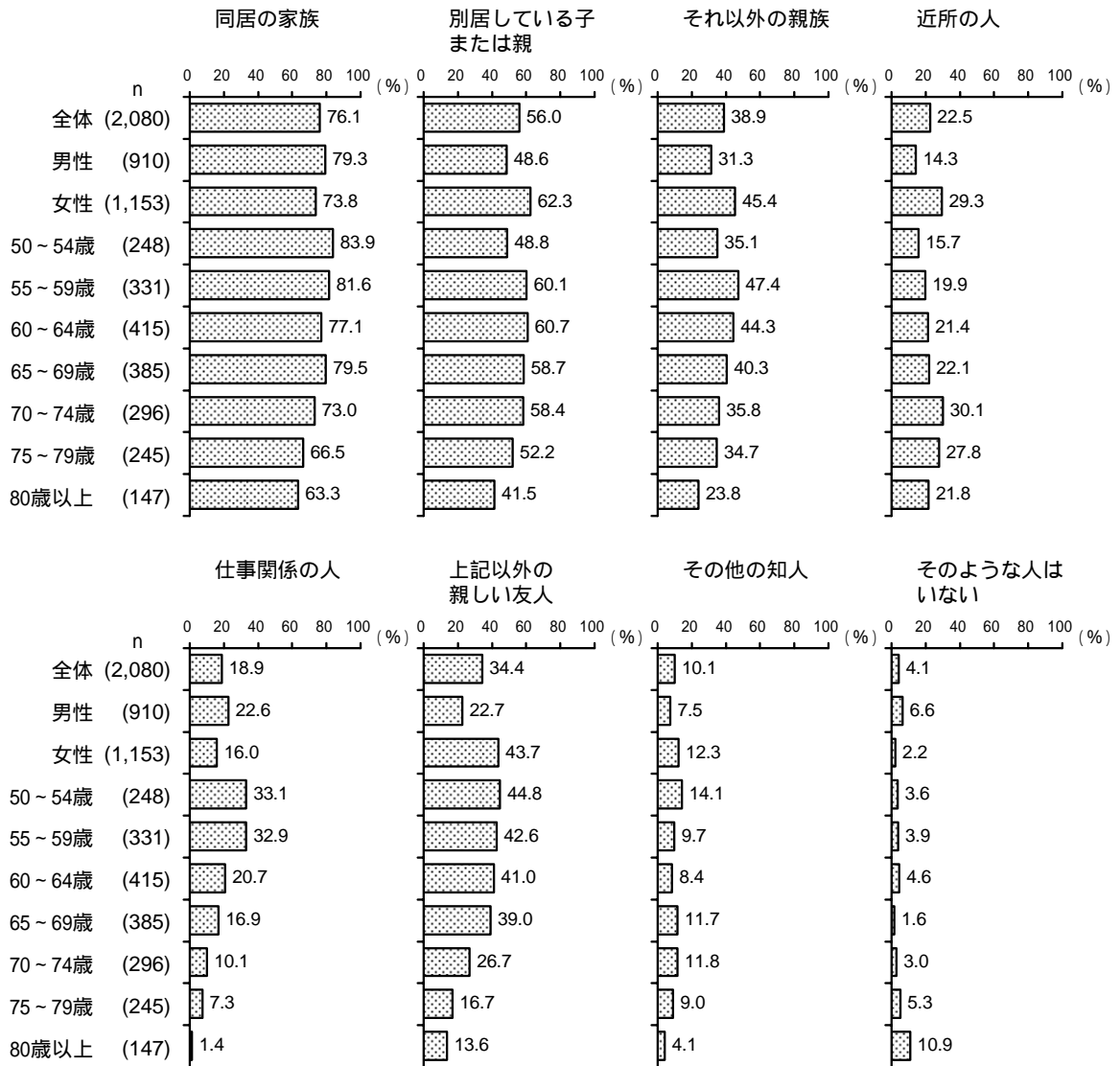


n = 2,080

回答者が自ら提供できると考えている情緒的支援の指標のひとつとして、「個人的な悩みや心配事を、あなたが聞いてあげる相手」(以下、【悩みサポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(76.1%)が7割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「別居している子または親」(56.0%)が5割台半ばを超えている。

(ア) 個人的な悩みや心配事を、あなたが聞いてあげる相手

< 性別・年齢別 >



男女別にみると、女性は、男性に比べて「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」「その他の知人」を、男性は女性に比べて「同居の家族」「仕事関係」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「別居の子・親」「それ以外の親族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「近所」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

声をかける相手

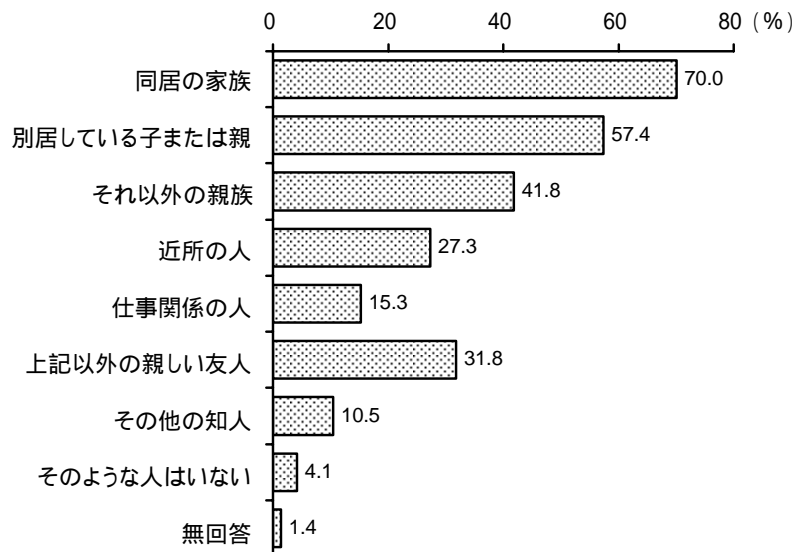
問10. 次の(ア)～(エ)のようなことを、仕事以外であなたがしてあげる相手は、おもにどなたですか。想定(してあげたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(エ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

(イ) とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたが声をかける相手

【あてはまる番号すべてに 】(n=2,080)

1	同居の家族	70.0%
2	別居している子または親	57.4
3	それ以外の親族	41.8
4	近所の人	27.3
5	仕事関係の人	15.3
6	上記以外の親しい友人	31.8
7	その他の知人	10.5
8	そのような人はいない	4.1
	無回答	1.4

(イ) とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたが声をかける相手

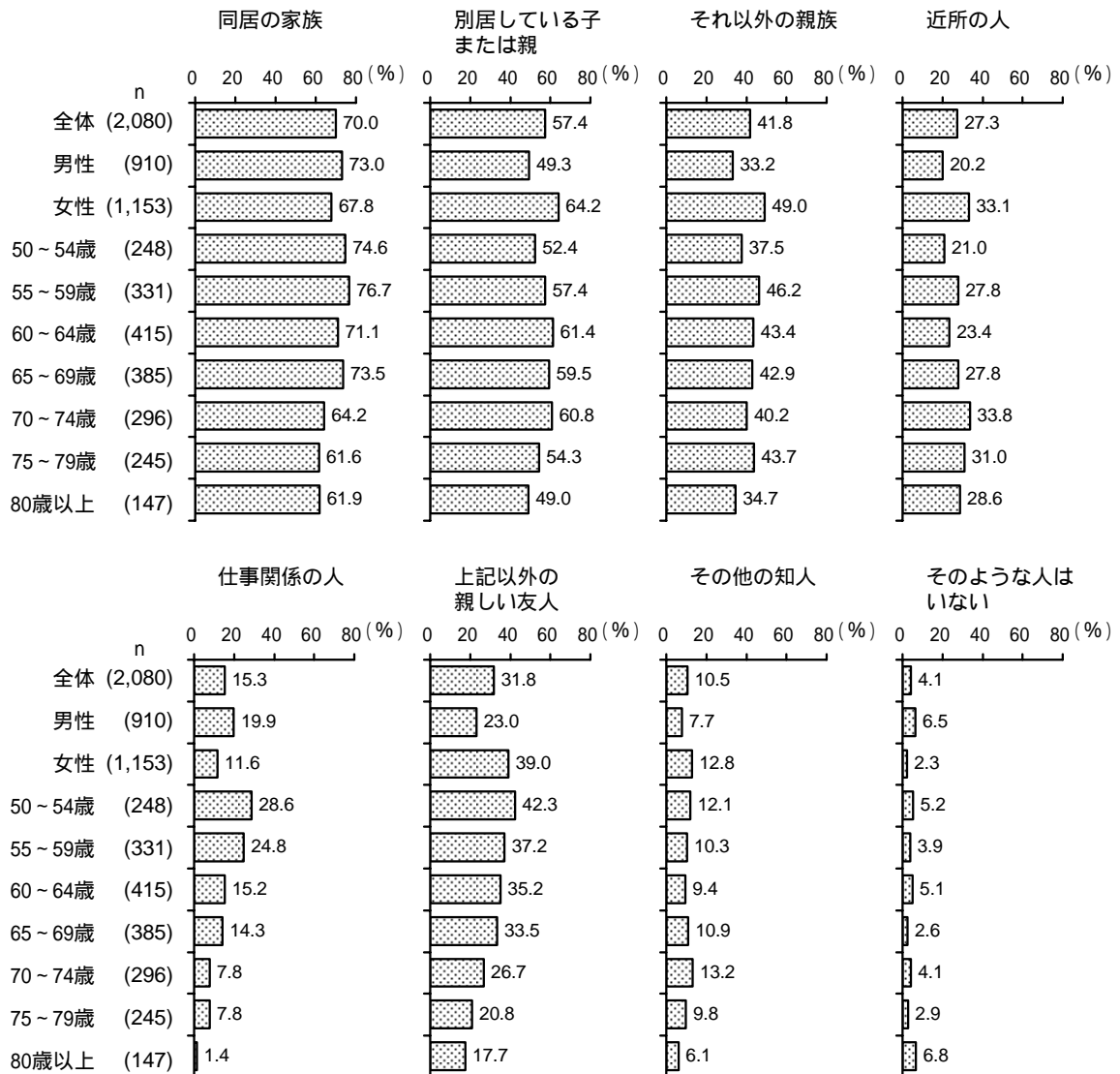


n = 2,080

「とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたが声をかける相手」(以下、【声かけサポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(70.0%)が7割でもっとも多く、次いで「別居している子または親」(57.4%)が5割台半ばを超え、「それ以外の親族」(41.8%)が4割強と続いている。

なお、この指標は、自ら提供できるサポートのうち、前項目の【悩みサポート】との関連が強いことが確認されたため、情緒的支援の指標として取り扱うこととした。

(イ) とくに用事がなくても、変わったことがないか、あなたが声をかける相手
 < 性別・年齢別 >



男女別にみると、女性は、男性に比べて「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」「その他の知人」を、男性は、女性に比べて「仕事関係」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「近所」を多く選択する傾向がみられた。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

ちょっとした用事やおつかいを、引き受けてあげる相手

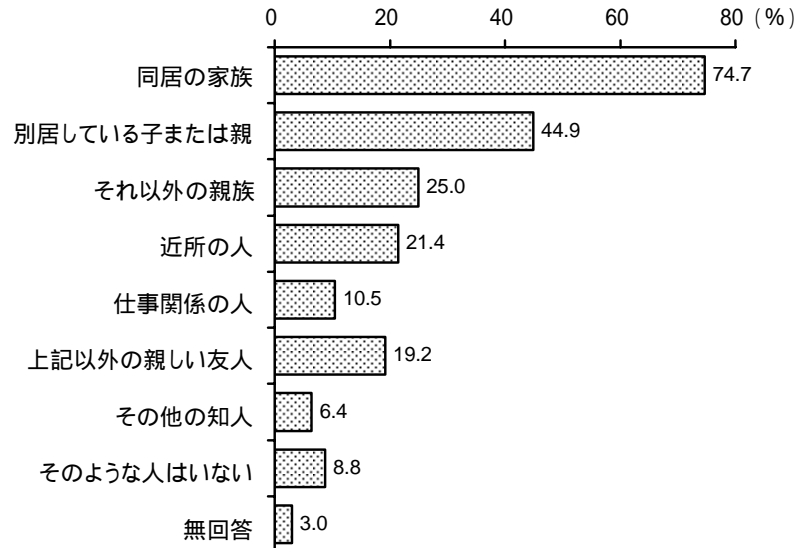
問10. 次の(ア)～(エ)のようなことを、仕事以外であなたがしてあげる相手は、おもにどなたですか。想定(してあげたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(エ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

(ウ) ちょっとした用事やおつかいを、あなたが引き受けてあげる相手

【あてはまる番号すべてに 】(n=2,080)

1	同居の家族	74.7%
2	別居している子または親	44.9
3	それ以外の親族	25.0
4	近所の人	21.4
5	仕事関係の人	10.5
6	上記以外の親しい友人	19.2
7	その他の知人	6.4
8	そのような人はいない	8.8
	無回答	3.0

(ウ) ちょっとした用事やおつかいを、あなたが引き受けてあげる相手

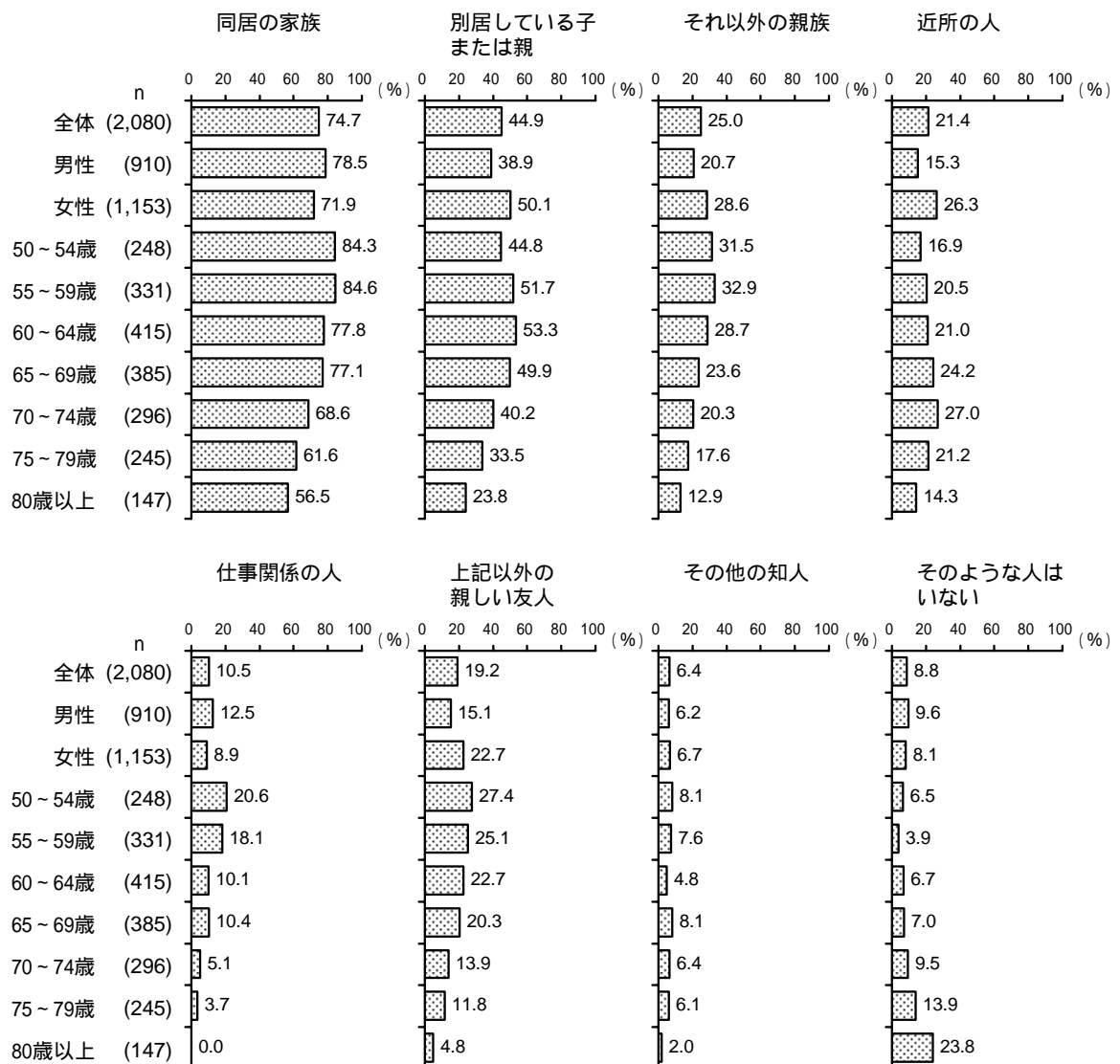


n = 2,080

自ら提供できるサポートのうち、負担感の比較的軽い手段の支援の指標として、「ちょっとした用事やおつかいを、あなたが引き受けてあげる相手」(以下、【用事サポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(74.7%)が7割台半ば近くでもっとも多く、次いで「別居している子または親」(44.9%)が4割台半ば近くと続いている。しかし、「そのような人はいない」(8.8%)は、今回たずねた(ア)～(エ)の4種類の自ら提供できるサポートのなかで、もっとも多くなっている。

(ウ) ちょっとした用事やおつかいを、あなたが引き受けてあげる相手

< 性別・年齢別 >



男女別にみると、女性は、男性に比べて「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」を、男性は、女性に比べて「同居の家族」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「別居の子・親」「それ以外の親族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

居住地域別に分布傾向に違いがみられるのは、「同居の家族」と「近所」となっている。「同居の家族」へのサポートの提供意向が高いのは東部（85.0%）、低いのは中央（73.2%）となっており、「近所」へのサポートの提供意向が高いのは西部（27.5%）、低いのは東部（15.0%）となっている。

世話をしあえる相手

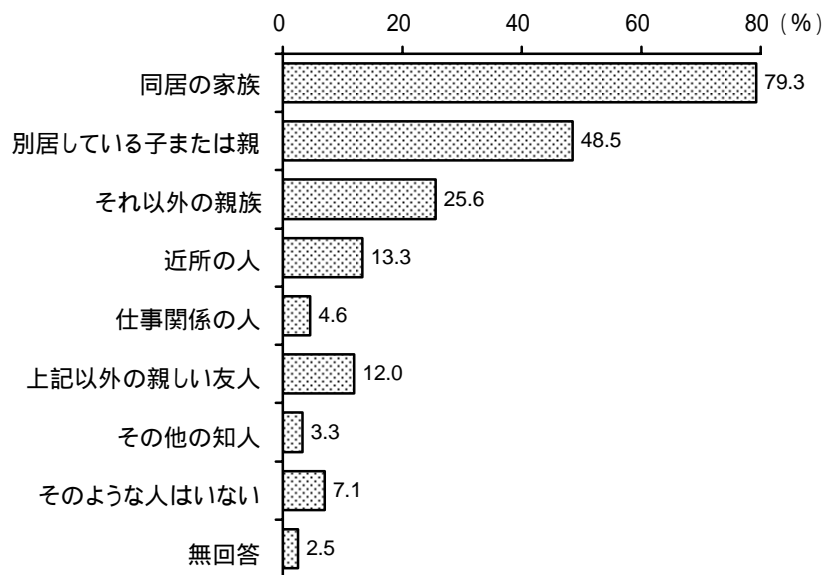
問10. 次の(ア)～(エ)のようなことを、仕事以外であなたがしてあげる相手は、おもにどなたですか。想定(してあげたいと思う人)でも結構ですから、(ア)～(エ)それぞれについて、あてはまる番号すべてに をつけてください。

(エ) 体調の悪い人がいるとき、あなたが世話をしあえる相手

【あてはまる番号すべてに 】(n=2,080)

1	同居の家族	79.3%
2	別居している子または親	48.5
3	それ以外の親族	25.6
4	近所の人	13.3
5	仕事関係の人	4.6
6	上記以外の親しい友人	12.0
7	その他の知人	3.3
8	そのような人はいない	7.1
	無回答	2.5

(エ) 体調の悪い人がいるとき、あなたが世話をしあえる相手

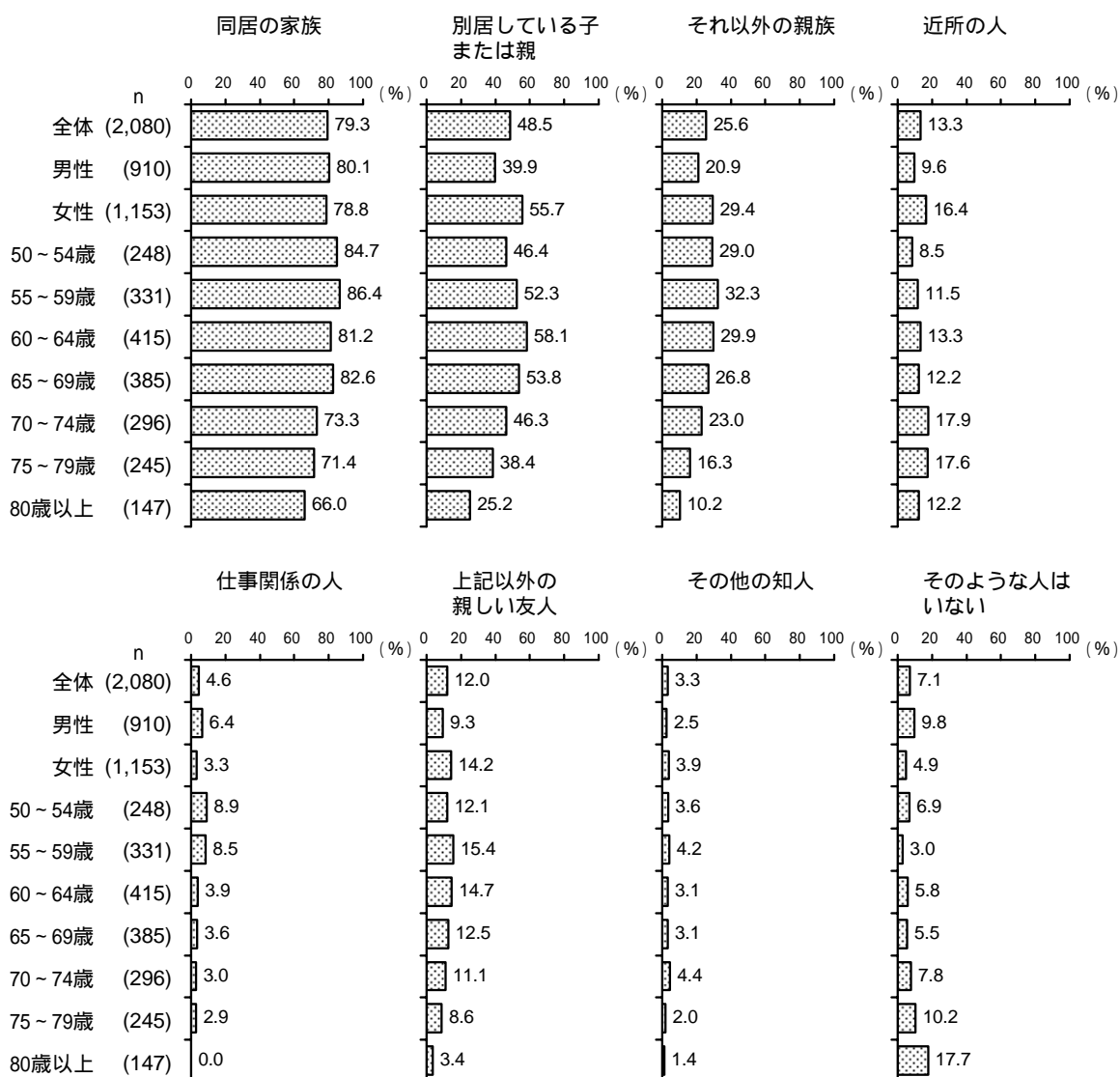


n = 2,080

自ら提供できるサポートのうち、負担感の重い手段的支援の指標として、「体調の悪い人がいるとき、あなたが世話をしあえる相手」(以下、【世話サポート】)の存在をたずねたところ、「同居の家族」(79.3%)が8割弱でもっとも多く、次いで「別居している子または親」(48.5%)が5割近くと続いている。

(エ) 体調の悪い人がいるとき、あなたが世話をしてあげる相手

< 性別・年齢別 >



男女別にみると、女性は、男性に比べて「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」を、男性は、女性に比べて「仕事関係」「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「別居の子・親」「それ以外の親族」「仕事関係」「友人」を、年齢層が高いほど「そのような人はいない」を多く選択する傾向がみられた。

居住地域別に分布傾向に違いがみられるのは、「同居の家族」のみで、「同居の家族」へのサポートの提供意向が高いのは東部（88.7%）、低いのは中央（77.0%）となっている。

他者に提供できるサポート量の平均値

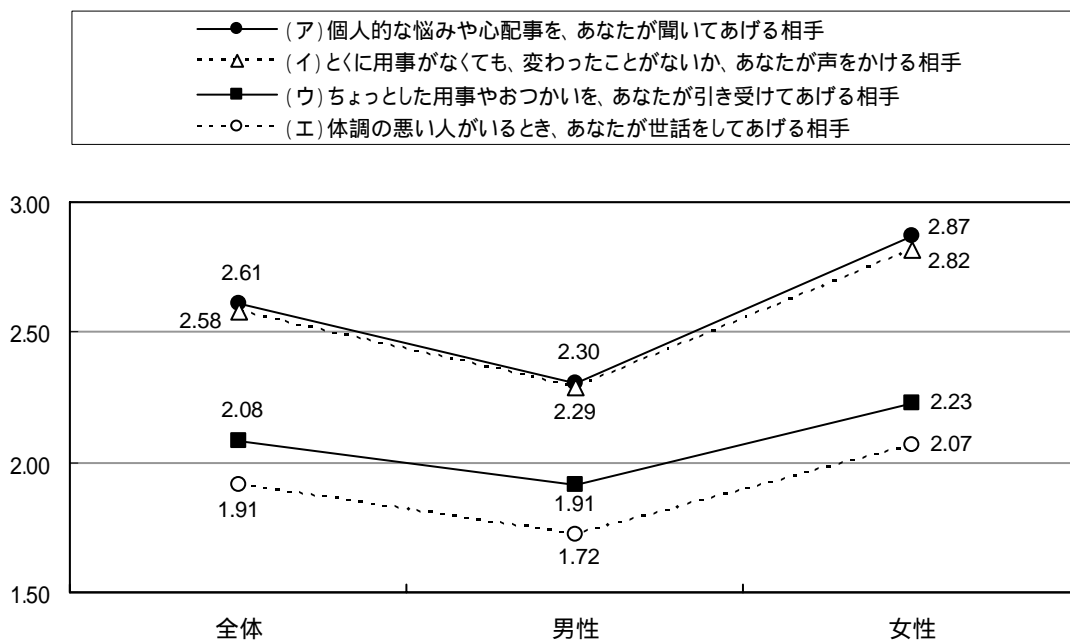
全体的な傾向を把握するために、これまでみてきた4種類の「他者に提供できるサポート」について、それぞれを提供してあげられる他者の種類の多さ、少なさを比較するために、点数化を行い、平均値を算出した。

この平均値は、サポートを提供してあげられる相手として選択された項目に1点（「いる」）選択されていない項目に0点（「いない」）を与えて、（ア）～（エ）の各合計得点が0～7点になるように加算し、他者に提供してあげられるサポートを量的に表したものである。つまり、回答者が、サポートを提供している又は提供してあげられると考えている他者の種類の多様性によって、他者に提供できるサポート量を把握しようとするものである。（例：回答者が「同居の家族」「別居の子・親」「それ以外の親族」の3つを選択していれば3点を与えている。）

今回たずねた他者に提供できるサポート4種類を大別すると、【悩みサポート】【声かけサポート】は情緒的支援、【用事サポート】【世話サポート】は手段的支援に分類することができる。

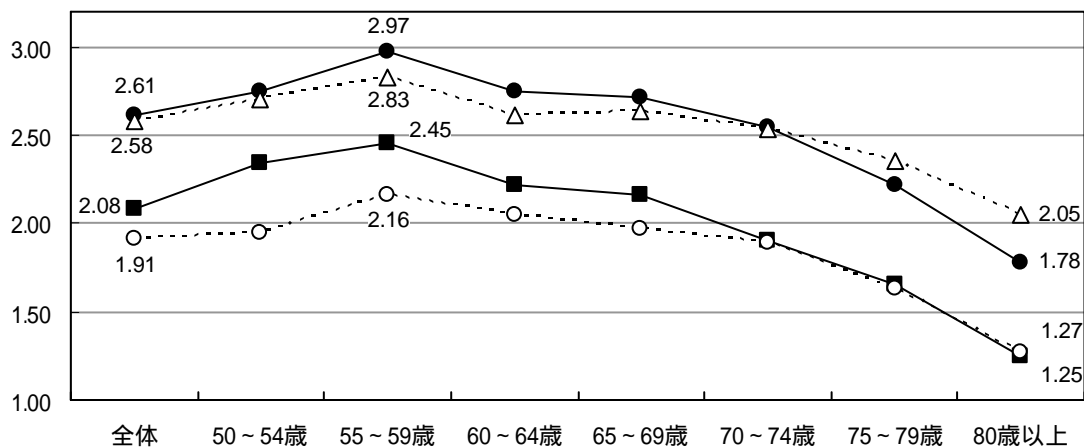
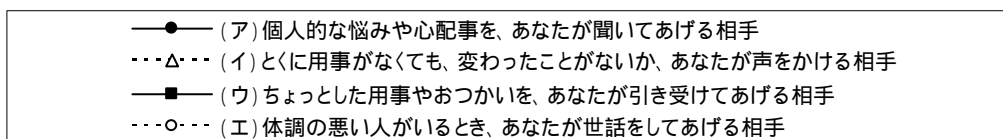
全体的な傾向をみると、他者に提供できるサポートのうち、情緒的支援は手段的支援に比べて平均値が高くなっており、情緒的支援のほうを、さまざまな他者に提供できると考えている傾向がみられる。

他者に提供できるサポート量の平均値
<性別>



男女別にみると、女性は、男性に比べて、サポートを提供できる相手としてさまざまな種類の他者をあげている傾向がみられる。

他者に提供できるサポート量の平均値
 < 年齢別 >



年齢層別にみると、全体的にみて、年齢層が低いほどサポートを提供できる相手としてさまざまな種類の他者をあげている傾向がみられ、年齢層が高いほどサポートを提供できる他者の種類が限定される傾向がみられる。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

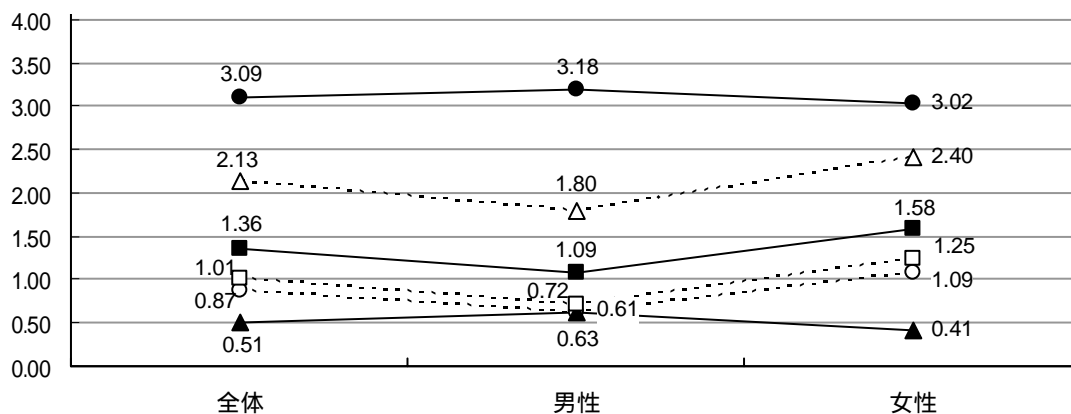
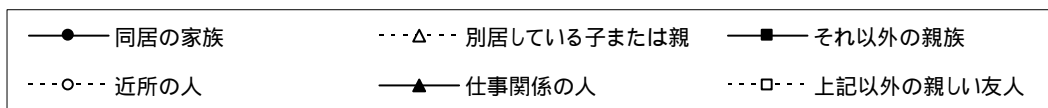
サポートを提供できる相手別にみたサポート量の平均値

どのような相手にどのくらいのサポートを提供できるのかについて、提供できる相手別に全体的な傾向を把握するために、点数化を行い、平均値を算出した。

この平均値は、「いる」に1点、「いない」に0点を与えて、(ア)～(エ)の4つの提供サポートについて、自らサポートを提供できる相手別に合計し、合計得点が0～4点になるように加算して、どのような関係性の相手にどのくらいのサポートを提供できるのかを量的に表したものである。なお、ここでは主要な相手方だけに絞って全体的な傾向を把握することとした。

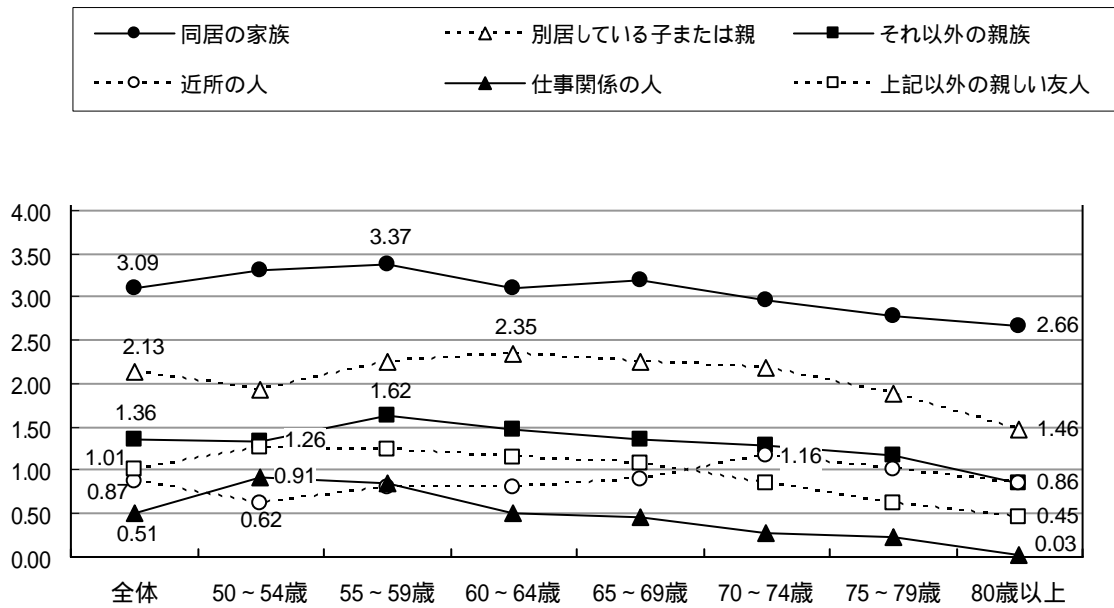
サポートを提供できる相手別にみたサポート量の平均値

<性別>



男女別にみると、女性は、男性に比べて「別居の子・親」「それ以外の親族」「近所」「友人」にさまざまな種類のサポートを提供できる傾向にあり、男性は、女性に比べて「仕事関係」にサポートを提供できる傾向にある。

サポートを提供できる相手別にみたサポート量の平均値
 <年齢別>



年齢層別にみると、年齢層が低いほど「同居の家族」「別居の家族」「それ以外の親族」「仕事関係」「友人」にさまざまな種類のサポートを提供できる傾向にあり、年齢層が高いほど「近所」にさまざまな種類のサポートを提供できる傾向にある。しかし、75歳以上では、「近所の人」に提供できるサポートも減少傾向に転じる。

なお、居住地域別に分布の違いがみられるのは、「同居の家族」と「近所の人」のみで、「同居の家族」に提供できるサポートの種類が多いのは東部（3.39点）、低いのは中央（2.96点）となっている。「近所の人」に提供できるサポートの種類が多いのは西部（1.03点）、少ないのは東部（0.64点）となっている。

(5) 団体やグループへの参加・地域との関わり

団体やグループへの参加状況

問 11. あなたは、次にあげるような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【1つだけに】

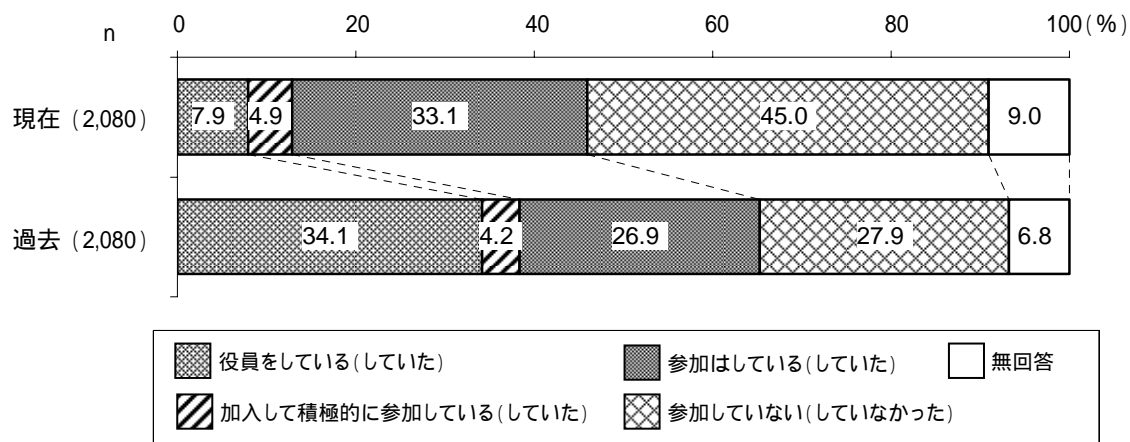
(ア) 町会・自治会(婦人会等を含む)やマンション管理組合

(n=2,080)

現在		過去	
1 役員をしている	7.9%	役員をしていた	34.1%
2 加入して積極的に参加している	4.9	加入して積極的に参加していた	4.2
3 参加はしている	33.1	参加していた	26.9
4 参加していない	45.0	参加していなかった	27.9
無回答	9.0	無回答	6.8

団体やグループへの参加状況

(ア) 町会・自治会(婦人会等を含む)やマンション管理組合



町会・自治会やマンション管理組合といった地縁団体への参加状況について、現在では、「参加していない」(45.0%)が4割台半ばでもっとも多く、次いで「参加はしている」(33.1%)が3割台半ば近くとなっている。参加群(45.9%)は4割台半ばであり、不参加群とほぼ同率である。参加群が占める割合は、他の団体に比べてもっとも多く、地縁団体という特徴を反映しているとみられる。

過去では、「役員をしていた」(34.1%)が3割台半ば近くでもっとも多く、次いで「参加していなかった」(27.9%)、「参加していた」(26.9%)が2割台半ばを超えている。参加群(65.2%)は6割台半ばである。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に現在の参加の有無に違いはみられない。

問 11 . あなたは、次にあげような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【 1つだけに 】

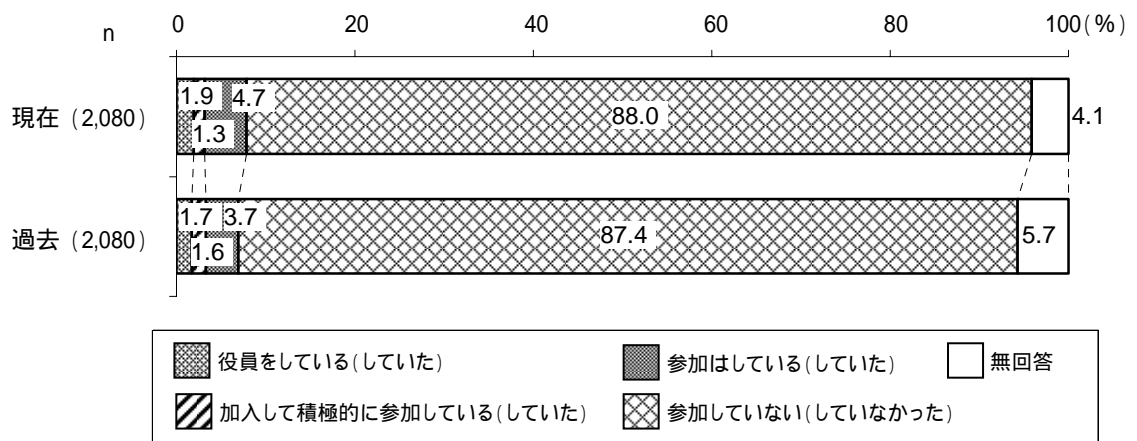
(イ) 老人クラブ

(n=2,080)

	現在		過去
1 役員をしている	1.9%	役員をしていた	1.7%
2 加入して積極的に参加している	1.3	加入して積極的に参加していた	1.6
3 参加はしている	4.7	参加していた	3.7
4 参加していない	88.0	参加していなかった	87.4
無回答	4.1	無回答	5.7

団体やグループへの参加状況

(イ) 老人クラブ



老人クラブへの参加状況について、現在では、「参加していない」(88.0%)が9割近くでもっとも多くなっている。

過去では、「参加していなかった」(87.4%)が8割台半ばを超えてもっとも多くなっている。

現在の参加群(7.9%)は8%弱であり、過去の参加群(7.0%)とほぼ同率である。

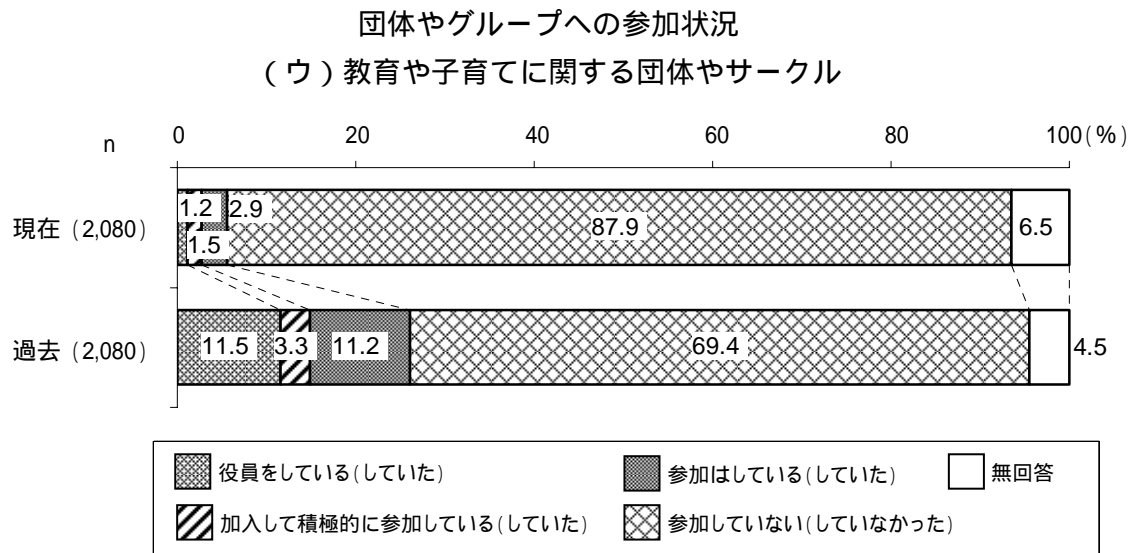
なお、年齢層別にみると、年齢が高いほど、現在老人クラブに参加している人の割合は上昇し、65～69歳(6.2%)で6%強、70～74歳(16.8%)で1割台半ばを超え、75～79歳(19.4%)で2割弱、80～84歳(25.5%)で2割台半ばとなっている。

男女別、居住地域別に現在の参加の有無に違いはみられない。

問 11 . あなたは、次にあげような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【1つだけに 】

(ウ) 教育や子育てに関する団体やサークル (n=2,080)

現在		過去	
1 役員をしている	1.2%	役員をしていた	11.5%
2 加入して積極的に参加している	1.5	加入して積極的に参加していた	3.3
3 参加はしている	2.9	参加していた	11.2
4 参加していない	87.9	参加していなかった	69.4
無回答	6.5	無回答	4.5



教育や子育てに関する団体やサークルへの参加状況について、現在では、「参加していない」(87.9%)が8割台半ばを超えてもっとも多くなっている。

過去では、「参加していなかった」(69.4%)が7割弱でもっとも多く、次いで「役員をしていた」(11.5%)、「参加していた」(11.2%)が1割強となっている。

現在の参加群(5.6%)は5%台半ばを超え、過去の参加群(26.0%)は2割台半ばを超えている。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に現在の参加の有無に分布の違いはみられない。

問 11. あなたは、次にあげような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【1つだけに】

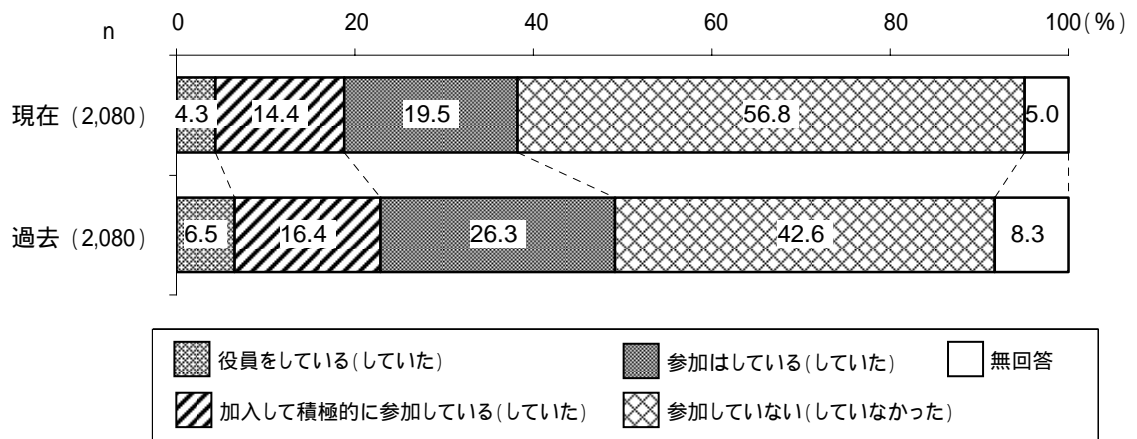
(エ) 趣味や習い事の会、健康やスポーツなどの団体やサークル

(n=2,080)

	現在		過去	
1	役員をしている	4.3%	役員をしていた	6.5%
2	加入して積極的に参加している	14.4	加入して積極的に参加していた	16.4
3	参加はしている	19.5	参加していた	26.3
4	参加していない	56.8	参加していなかった	42.6
	無回答	5.0	無回答	8.3

団体やグループへの参加状況

(エ) 趣味や習い事の会、健康やスポーツなどの団体やサークル



趣味や習い事の会、健康やスポーツなどの団体やサークルへの参加状況について、現在では、「参加していない」(56.8%)が5割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「参加はしている」(19.5%)が2割弱となっている。「積極的に参加している」(14.4%)の割合は、他の団体への積極的参加の割合と比べて、もっとも多くなっている。

過去では、「参加していなかった」(42.6%)が4割強でもっとも多く、次いで「参加していた」(26.3%)が2割台半ばを超えている。

現在の参加群(38.2%)は4割近くで、過去の参加群(49.2%)は5割弱となっている。

なお、男女別にみると、女性(46.7%)は、男性(32.5%)に比べて現在の活動へ

の参加が多くなっている。

年齢層別では、65～74歳の参加割合が高く、50～64歳で3割台半ば（35.2%）、65～74歳で5割強（52.2%）、75～84歳で約4割（40.7%）となっている。

居住地域別にみると、東南部（46.0%）で高く、西部（33.7%）で低くなっている。

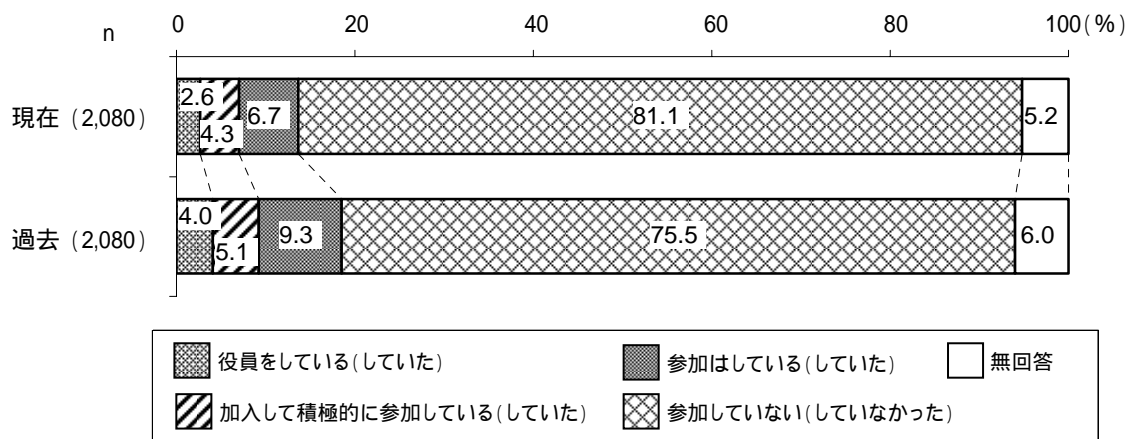
問 11 . あなたは、次にあげるような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【1つだけに 】

(オ) 上記以外のボランティア、非営利活動、市民活動などの団体やサークル
(n=2,080)

	現在		過去
1 役員をしている	2.6%	役員をしていた	4.0%
2 加入して積極的に参加している	4.3	加入して積極的に参加していた	5.1
3 参加はしている	6.7	参加していた	9.3
4 参加していない	81.1	参加していなかった	75.5
無回答	5.2	無回答	6.0

団体やグループへの参加状況

(オ) 上記以外のボランティア、非営利活動、市民活動などの団体やサークル



前頁までにあげた以外のボランティア、非営利活動、市民活動などの団体やサークルへの参加状況について、現在では、「参加していない」(81.1%)が8割強でもっとも多くなっている。

過去では、「参加していなかった」(75.5%)が7割台半ばでもっとも多く、次いで「参加していた」(9.3%)が1割弱となっている。

現在の参加群(13.6%)は1割台半ば近くで、過去の参加群(18.4%)は2割近くとなっている。

年齢層別にみると、65～74歳で現在の参加が多くなっており、50～64歳(11.4%)で1割強、65～74歳(19.6%)で2割弱、75～84歳(12.9%)で1割強となっている。もう少し細かくみると、65～69歳(17.5%)では1割台半ばを超え、

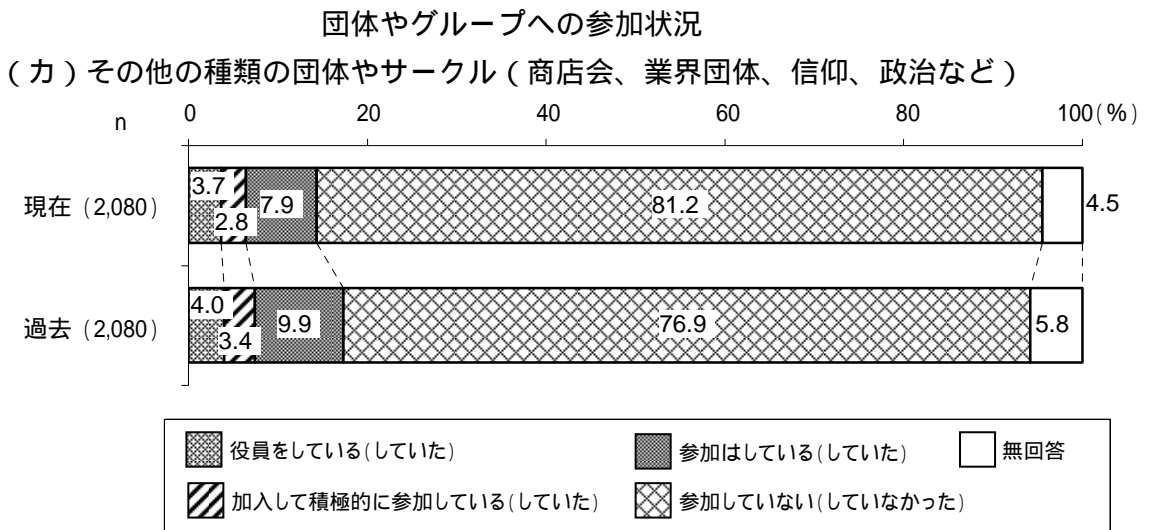
70～74 歳（22.3%）では2割強となっており、70～74 歳の参加割合が高くなっている。

なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

問 11 . あなたは、次にあげるような団体やグループに参加して活動していますか。次の(ア)～(カ)それぞれの現在と過去の両方の参加状況について、あてはまる番号に をつけてください。【1つだけに 】

(カ) その他の種類の団体やサークル(商店会、業界団体、信仰、政治など)
(n=2,080)

	現在		過去
1 役員をしている	3.7%	役員をしていた	4.0%
2 加入して積極的に参加している	2.8	加入して積極的に参加していた	3.4
3 参加はしている	7.9	参加していた	9.9
4 参加していない	81.2	参加していなかった	76.9
無回答	4.5	無回答	5.8



その他の種類の団体やサークル(商店会、業界団体、信仰、政治など)への参加状況について、現在では、「参加していない」(81.2%)が8割強でもっとも多くなっている。

過去では、「参加していなかった」(76.9%)が7割台半ばを超えてもっとも多くなっている。

現在の参加群(14.4%)は1割台半ば近く、過去の参加群(17.3%)は1割台半ばを超えている。

男女別にみると、男性(16.8%)は、女性(13.6%)に比べて現在の参加割合が高くなっている。

年齢層別にみると、65～74歳で現在の参加割合が高く、50～64歳(13.1%)で1

割台半ば近く、65～74 歳（18.4%）で2割近く、75～84 歳（14.1%）で1割台半ば近くとなっている。居住地域別に分布の違いはみられない。

問 11（ア）～（カ）のうち、なんらかの団体やグループへの現在における参加の有無についてみると、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

なんらかの団体やグループへの現在における参加状況に関して、複数の団体やグループへの参加の重複の程度についてみると、年齢層別では、複数の集団に重複して参加している人の割合が65～74 歳でもっとも高くなっている。50～64 歳（30.7%）で約3割、65～74 歳（42.5%）で4割強、75 歳以上（37.5%）で3割台半ばを超えている。もう少し細かくみると、65～69 歳（42.5%）で4割強、70～74 歳（42.7%）で4割強、75～79 歳（40.4%）で約4割となっている。80～84 歳（32.7%）では3割強となり、64 歳以下とほぼ同率まで減少する。

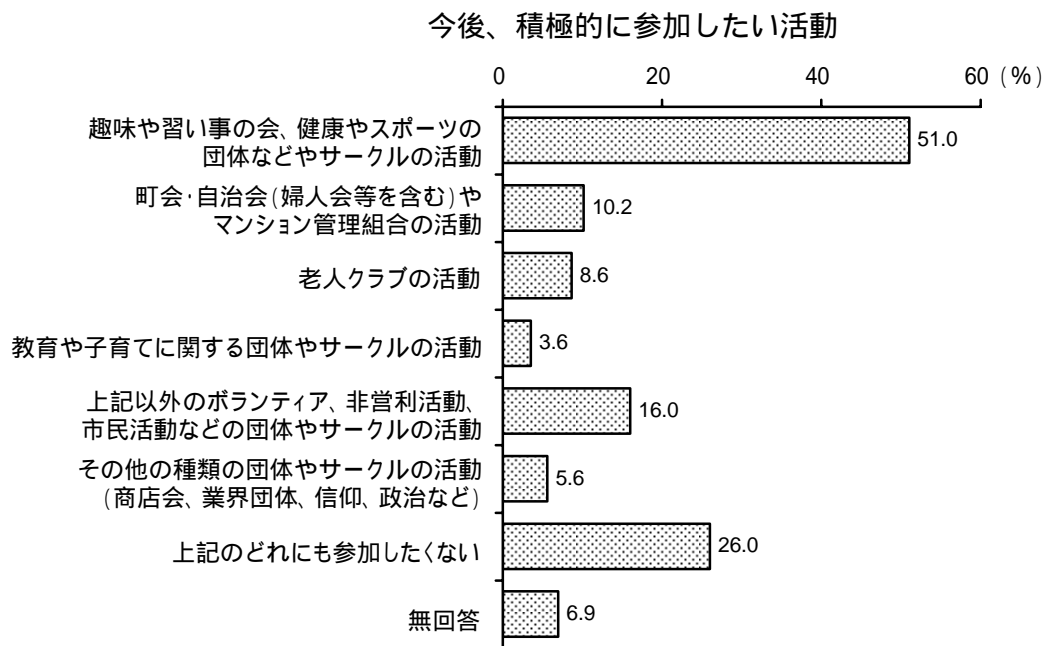
なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

今後、積極的に参加したい活動

問 12 . あなたが、今後、積極的に参加したい活動があるとすれば、それはどのようなものですか。【あてはまる番号すべてに 】

(n=2,080)

1	町会・自治会（婦人会等を含む）やマンション管理組合の活動	10.2%
2	老人クラブの活動	8.6
3	教育や子育てに関する団体やサークルの活動	3.6
4	趣味や習い事の会、健康やスポーツの団体などやサークルの活動	51.0
5	上記以外のボランティア、非営利活動、市民活動などの団体やサークルの活動	16.0
6	その他の種類の団体やサークルの活動（商店会、業界団体、信仰、政治など）	5.6
7	上記のどれにも参加したくない	26.0
	無回答	6.9

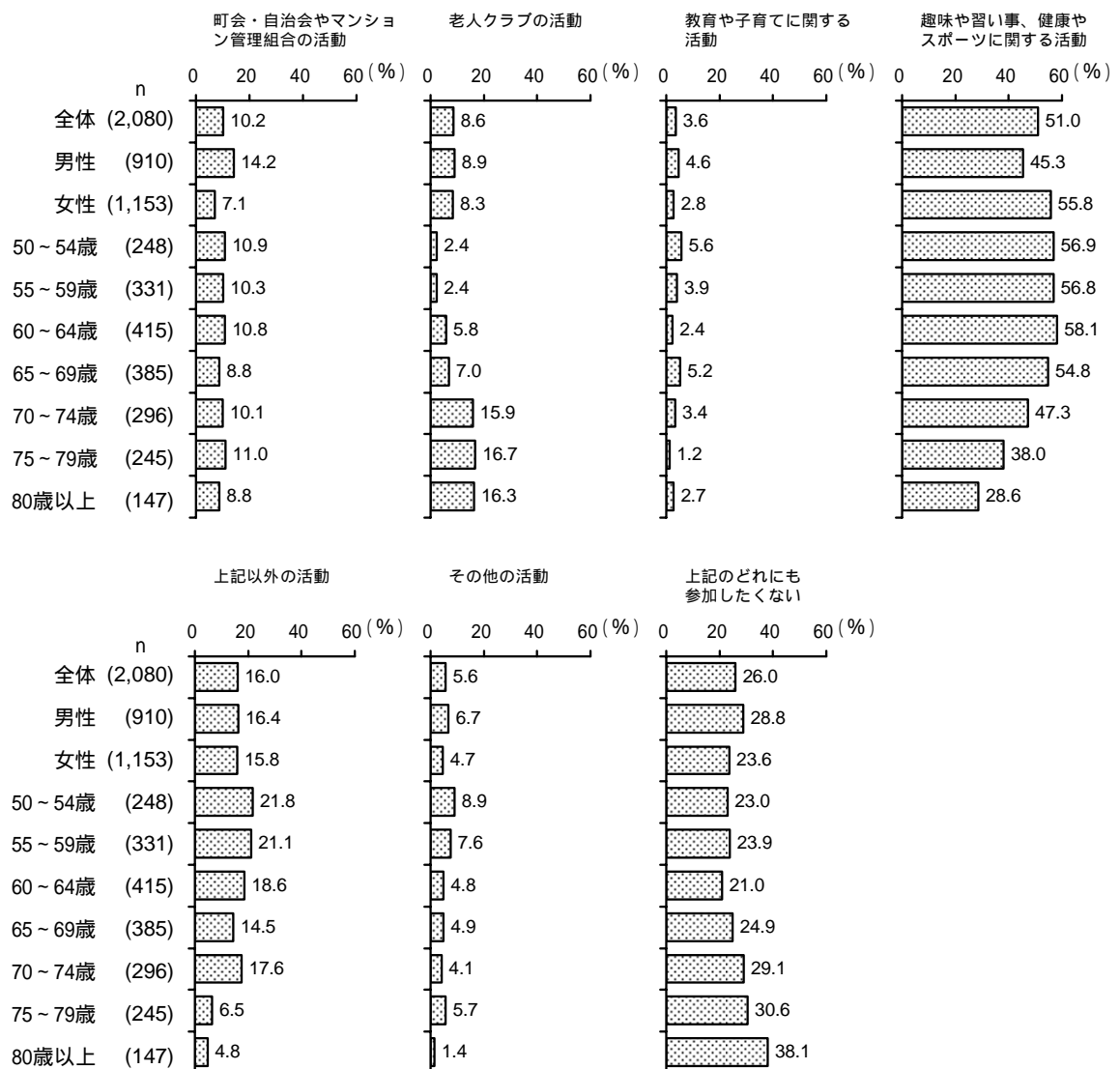


今後、積極的に参加したい活動としては、「趣味や習い事の会、健康やスポーツの団体などやサークルの活動」(51.0%)が5割強で、もっとも多くなっている。次いで「上記以外のボランティア、非営利活動、市民活動などの団体やサークルの活動」(16.0%)が1割台半ばを超え、「町会・自治会やマンション管理組合の活動」(10.2%)が約1割で続いている。

他方、「上記のどれにも参加したくない」(26.0%)が2割台半ばを超えている。

今後、積極的に参加したい活動

<性別・年齢別>



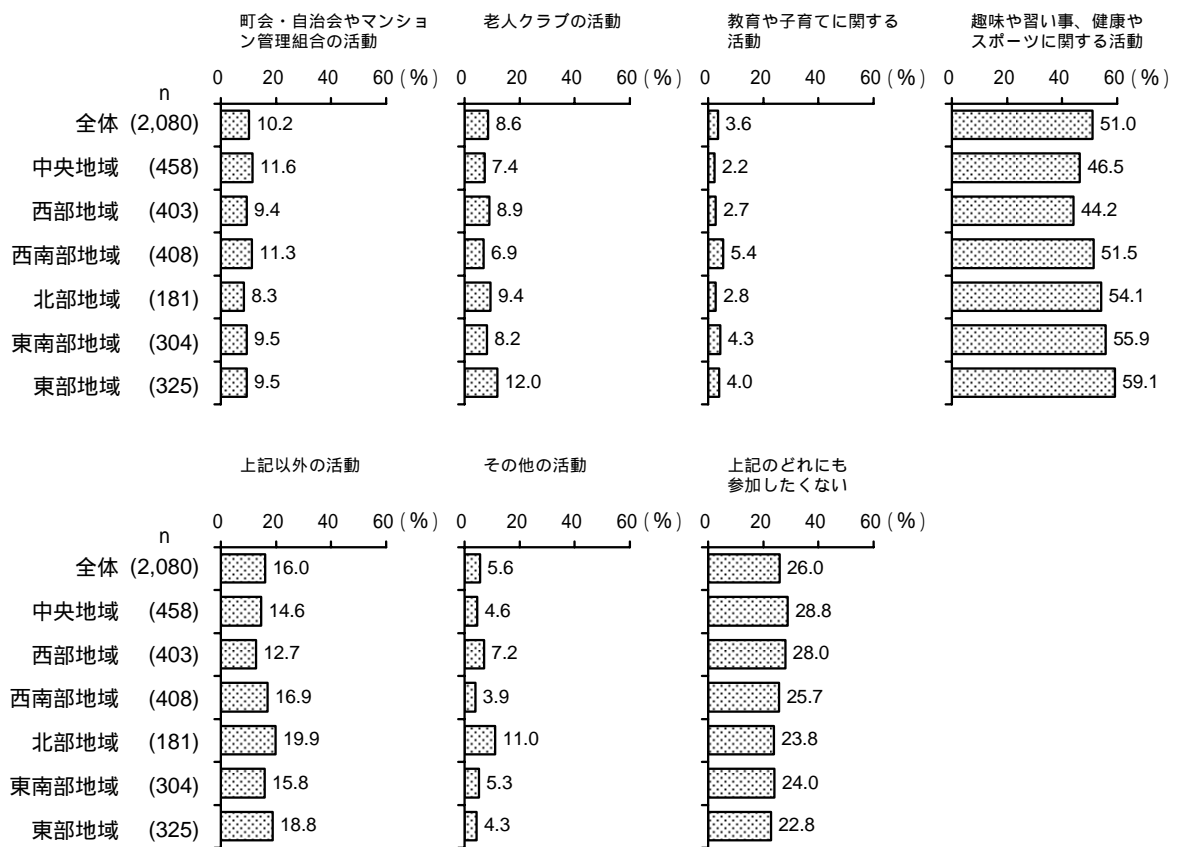
男女別にみると、男性は、女性に比べて「町会・自治会・マンション管理組合」「教育・子育て」への参加意向が高い。他方、女性は、男性に比べて「趣味や習い事」への参加意向が高い。また、男性は、女性に比べて「どれにも参加したくない」の割合が高い。

年齢層別にみると、年齢層が高いほど参加意向が高くなっている団体は、「老人クラブ」となっている。年齢層が低いほど参加意向が高くなっている団体は、「趣味や習い事」「上記以外の活動」(「上記以外のボランティア等」を指す。)となっている。ただし、「上記以外の活動」への参加意向は、70～74歳で1割台半ばを超えている。

年齢層別に、「どれにも参加したくない」の割合をみると、年齢層が高いほど参加意向は低くなっている。

今後、積極的に参加したい活動

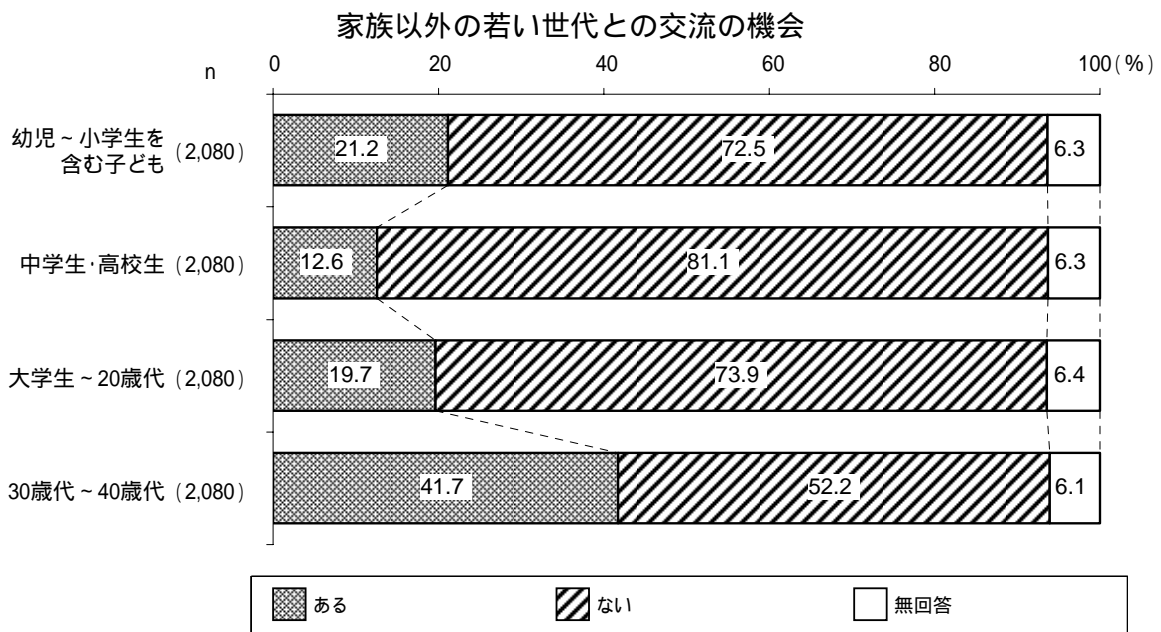
< 居住地域別 >



居住地域別にみると、「趣味」への参加意向が高いのは、東部（59.1%）、東南部（55.9%）であり、中央（46.5%）、西部（44.2%）では低くなっている。「その他の活動」への参加意向が高いのは、北部（11.0%）、西部（7.2%）であり、西南部（3.9%）、東部（4.3%）では低くなっている。

家族以外の若い世代との交流の機会

問 13 . あなたは、日常的に、家族以外の若い世代との交流の機会がありますか。次の (ア)～(エ)それぞれについて、あてはまる番号にひとつずつをつけてく ださい。 (n=2,080)			
	あ る	な い	無 回 答
(ア) 幼児～小学生を含む子ども	21.2%	72.5%	6.3%
(イ) 中学生・高校生	12.6	81.1	6.3
(ウ) 大学生～20歳代	19.7	73.9	6.4
(エ) 30歳代～40歳代	41.7	52.2	6.1



家族以外の若い世代との交流の機会があるかについては、「ある」は【30歳代～40歳代】(41.7%)が4割強でもっとも多く、次いで【幼児～小学生を含む子ども】(21.2%)が2割強、【大学生～20歳代】(19.7%)が2割弱となっている。

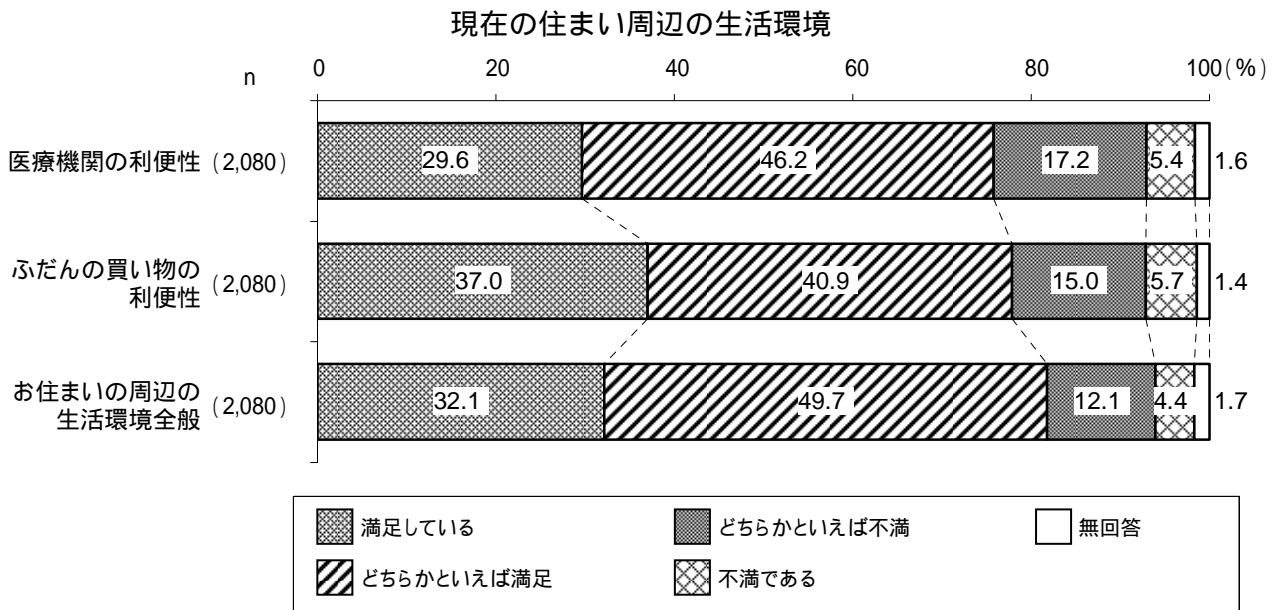
なお、男女別にみると、【幼児～小学生を含む子ども】【中学生・高校生】【30歳代～40歳代】では、女性は、男性に比べて交流の機会をもっている割合が多くなっているが、【大学生～20歳代】では違いはみられない。

年齢層別にみると、すべての項目について、年齢が高いほど交流の機会が減少する傾向がみられる。

居住地域別にみると、30歳代～40歳代との交流は、北部(51.7%)、東部(47.9%)、中央(47.0%)で高い傾向がみられ、西南部(38.9%)、東南部(41.8%)、西部(42.9%)で低い傾向がみられる。

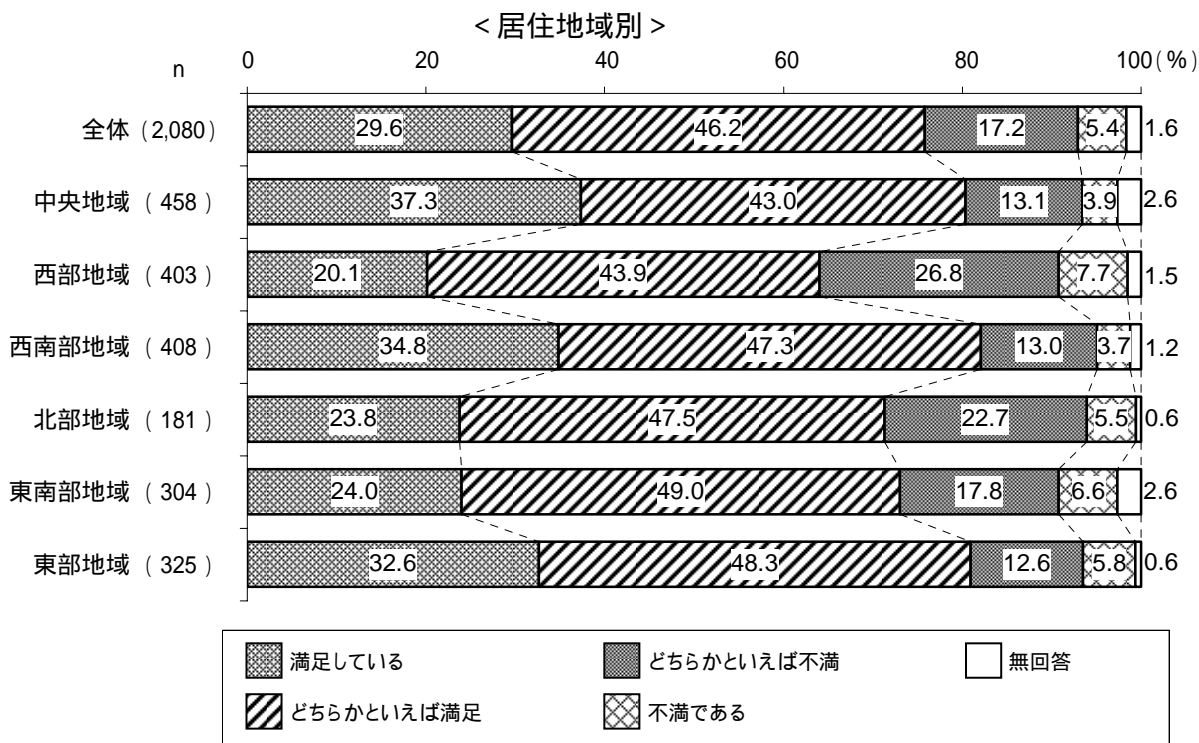
現在の住まい周辺の生活環境

問 14．現在のお住まい周辺の生活環境についてどのようにお考えですか。次の（ア）～（ウ）それぞれについて、あてはまる番号にひとつずつをつけてください。						
(n=2,080)						
	満足している	どちらかといえば満足している	不満	どちらかといえば不満	不満である	無回答
（ア） 医療機関への利便性について	29.6%	46.2%	17.2%	5.4%	1.6%	
（イ） ふだんの買い物の利便性について	37.0	40.9	15.0	5.7	1.4	
（ウ） お住まいの周辺の生活環境全般について	32.1	49.7	12.1	4.4	1.7	

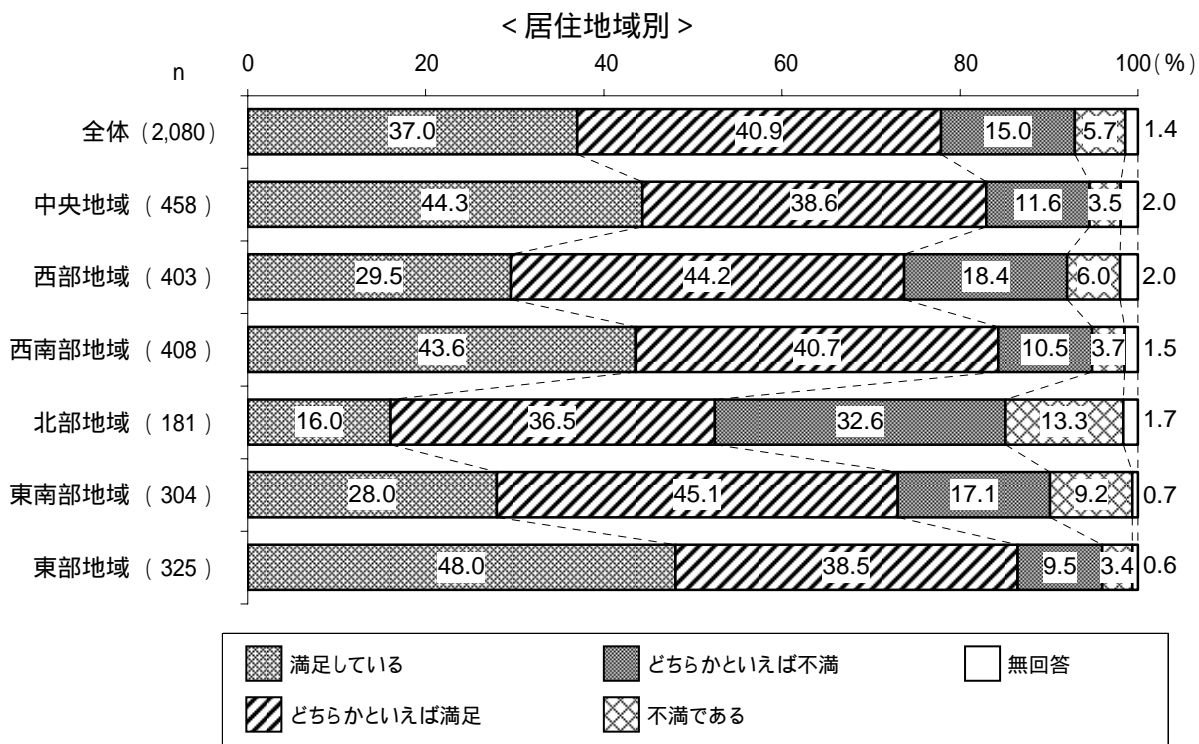


現在の住まい周辺の生活環境については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計した満足度は、【お住まいの周辺の生活環境全般】(81.8%)が8割強でもっとも多く、次いで【ふだんの買い物の利便性】(77.9%)が7割台半ばを超え、【医療機関への利便性】(75.8%)が7割台半ばとなっている。

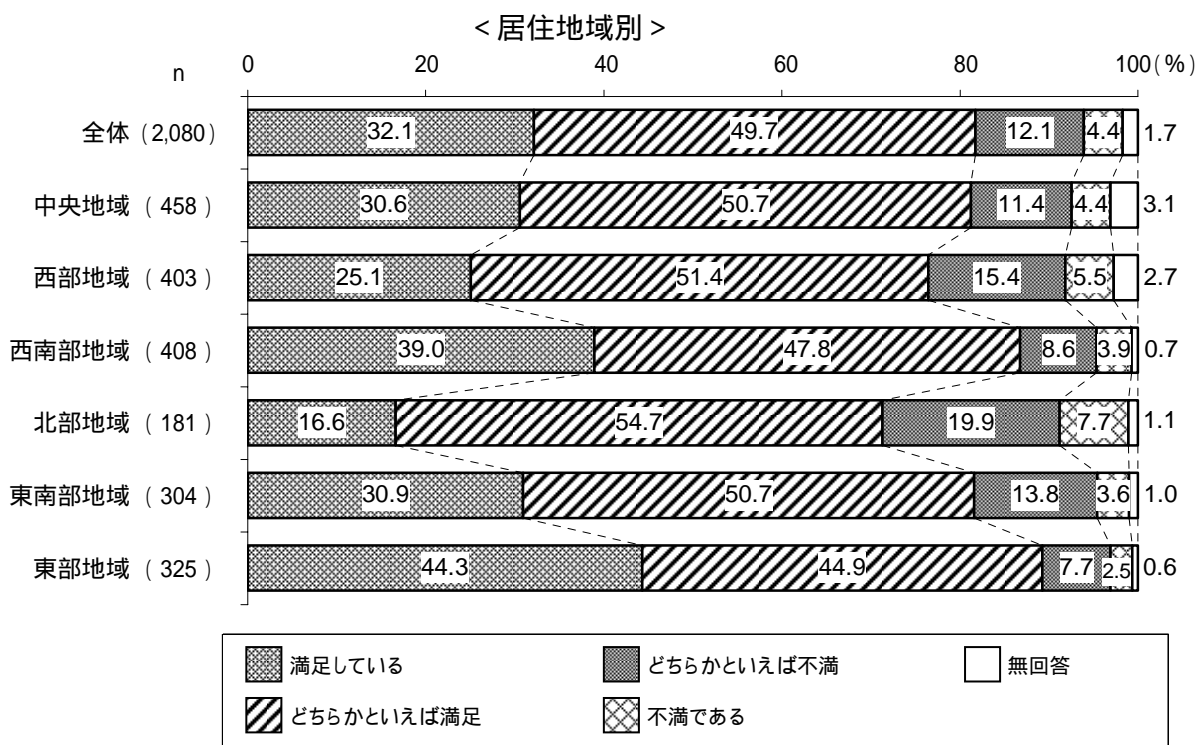
現在の住まい周辺の生活環境
 (ア) 医療機関への利便性について



現在の住まい周辺の生活環境
 (イ) ふだんの買い物の利便性について



現在の住まい周辺の生活環境
 (ウ) お住まいの周辺の生活環境全般について



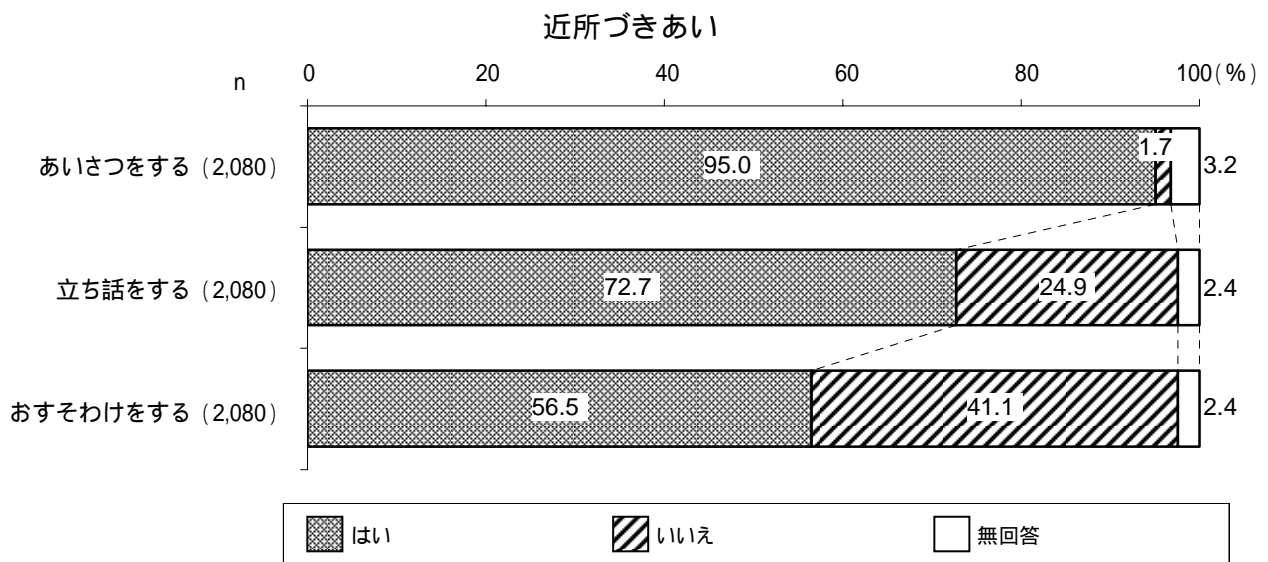
居住地域別にみると、【医療機関への利便性】について「満足している」は、中央、西南部、東部で高く、東南部、北部、西部で低くなっている。【買い物の利便性】について「満足している」は、東部、中央部、西南部で高く、北部では低くなっている。【生活環境全般】について「満足している」は、東部、西南部で高く、北部、西部で低くなっている。【生活環境全般】満足度は、【医療機関への利便性】と【買い物の利便性】への満足度が高い地域において、高い傾向を示している。

男女別にみると、【買い物の利便性】について「満足している」は、女性（36.5%）のほうが、男性（39.2%）に比べて低くなっている。

年齢層別に大まかにみると、【医療機関への利便性】について「満足している」人の割合は、年齢層が低いほど少なくなっている。【買い物の利便性】について「満足している」人の割合は、年齢層が高いほど少なくなっている。

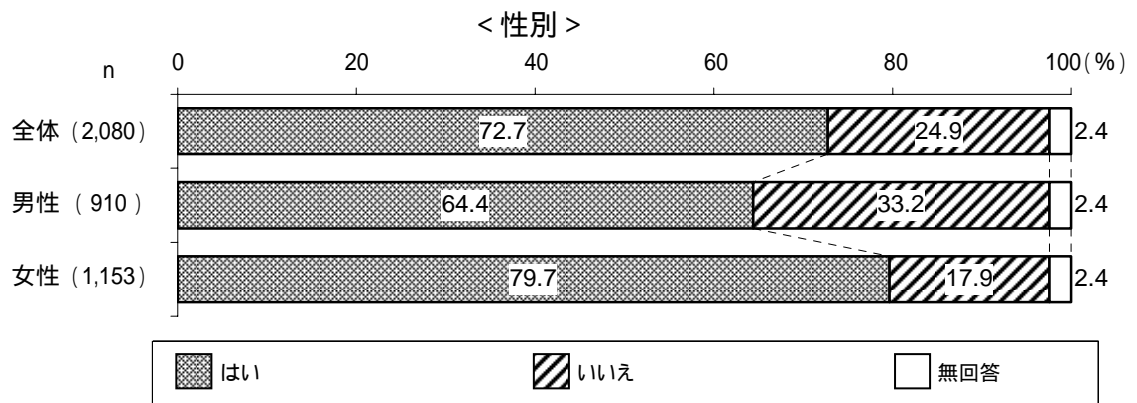
近所づきあい

問 15 . あなたは、近所とどのようなおつきあいをしていますか。次の(ア)～(ウ)それぞれについて、あてはまる番号にひとつずつをつけてください。 (n=2,080)			
	はい	いいえ	無回答
(ア) あいさつをする	95.0%	1.7%	3.2%
(イ) 立ち話をする	72.7	24.9	2.4
(ウ) おすそわけをする	56.5	41.1	2.4

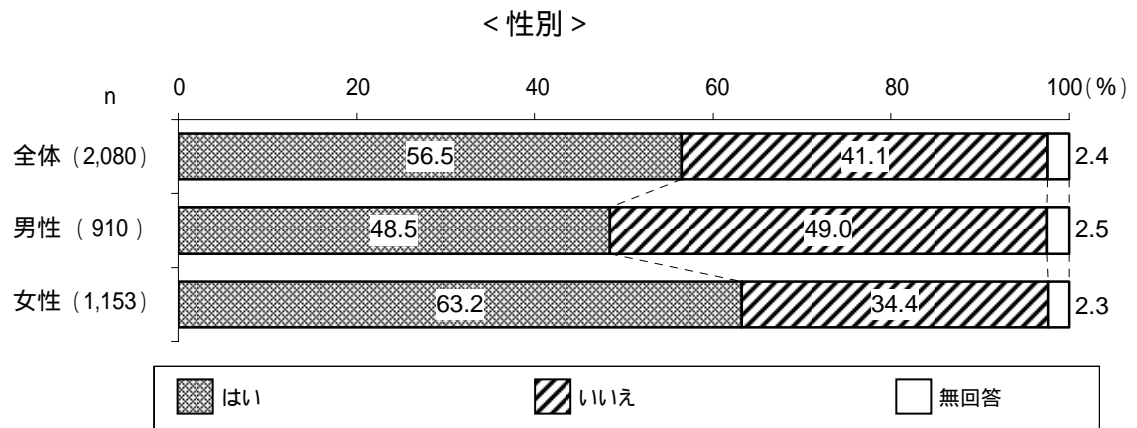


近所づきあいについて、つきあいの内容別に、【あいさつをする】【立ち話をする】【おすそわけをする】の3項目でたずね、この順で親密度が高くなると仮定した。全体的な傾向をみると、「はい」は【あいさつをする】(95.0%)が9割台半ばでもっとも多く、次いで【立ち話をする】(72.7%)が7割強、【おすそわけをする】(56.5%)が5割台半ばを超えており、親密度の高い近所づきあいになるほど少なくなる傾向がみられる。

近所づきあい
(イ) 立ち話をする



近所づきあい
(ウ) おすそわけをする



男女別にみると、【あいさつをする】には違いはみられないが、【立ち話をする】と【おすそわけをする】では、女性のほうが男性に比べて近所づきあいをしている人の割合が高くなっている。

年齢層別にみると、【あいさつをする】には違いはみられないが、【立ち話をする】と【おすそわけをする】では、年齢が高いほど近所づきあいをしている人の割合が高くなっているが、80歳を超えると減少に転じている。

【立ち話をする】がもっとも多い年齢層は、70～74歳(77.7%)となっているが、80～84歳(64.6%)では減少傾向に転じ、50～54歳(62.9%)とほぼ同程度まで減少している。【おすそわけをする】がもっとも多い年齢層は、70～74歳(62.8%)となっているが、80～84歳(55.8%)では減少し、50歳代から60歳代までとほぼ同程度まで減少している。

居住地域別にみると、【あいさつをする】と【立ち話をする】には違いはみられませんが、【おすそわけをする】では、西部（64.8％）は高く、東部（46.2％）は低くなっている。

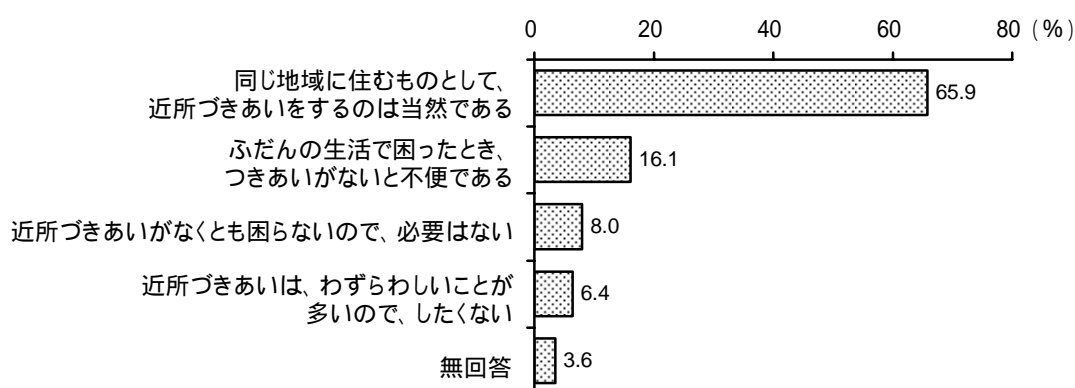
近所づきあいに対する考え方

問 16．近所づきあいについて、いろいろな考え方がありますが、次の4つの意見の中で、あなたの考えにもっとも近い番号に をつけてください。【1つだけに】

(n=2,080)

1	同じ地域に住むものとして、近所づきあいをするのは当然である	65.9%
2	ふだんの生活で困ったとき、つきあいがないと不便である	16.1
3	近所づきあいがなくとも困らないので、必要はない	8.0
4	近所づきあいは、わずらわしいことが多いので、したくない	6.4
	無回答	3.6

近所づきあいに対する考え方



n = 2,080

望ましいと考える近所づきあいのあり方としては、「同じ地域に住むものとして、近所づきあいをするのは当然である」(65.9%)が6割台半ばでもっとも多くなっている。「近所づきあいをするのは当然」とする近所づきあいに対して積極的な意識と「つきあいがないと不便」とする近所づきあいに対する利便性を肯定する意識の合計(82.0%)を、近所づきあいに肯定的な群とすると、近所づきあいに肯定的な群は8割強であり、否定的な群(14.4%)は1割台半ば近くとなっている。

男女別にみると、男性(70.4%)は、女性(66.9%)に比べて「近所づきあいをするのは当然」と答える割合が高く、女性(19.1%)は、男性(13.8%)に比べて「つきあいがないと不便」と答える割合が高くなっている。

年齢層別に大まかな傾向をみると、年齢層が高くなるほど「近所づきあいをするのは当然」と答える割合は、50~64歳(61.3%)で6割強、64~74歳(71.7%)で7割強と多くなっているが、75歳~84歳(68.4%)で7割近くと減少に転じている。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

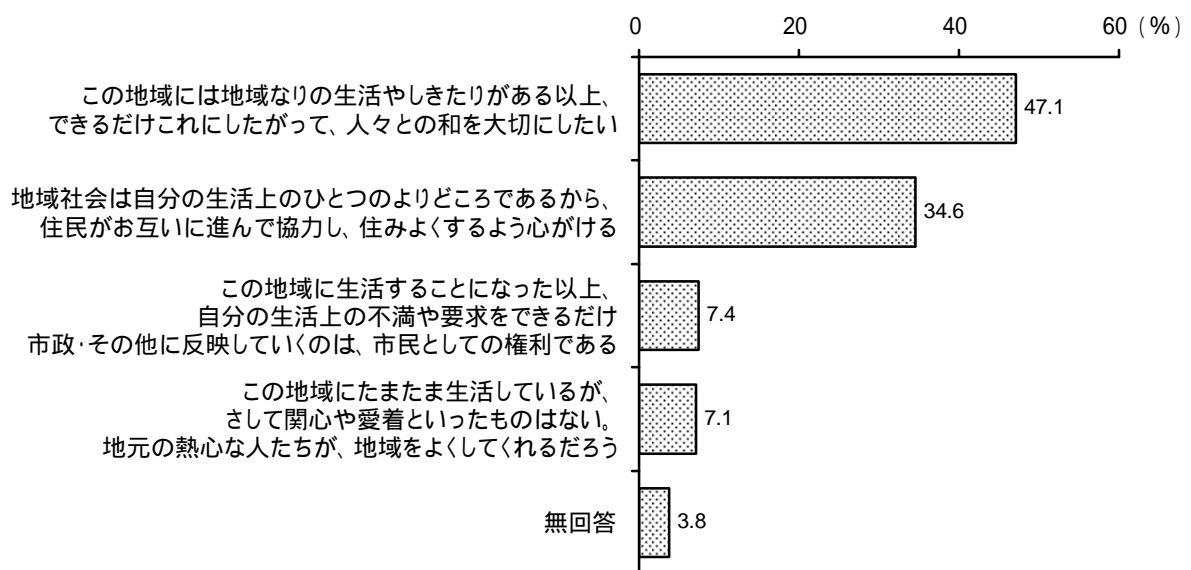
地域生活に対する考え方

問 17. 地域生活についての次の4つの意見の中で、率直にいったあなたの考えにもっとも近い番号に をつけてください。【1つだけに】

(n=2,080)

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | この地域には地域なりの生活やしきたりがある以上、できるだけこれにしたがって、人々との和を大切にしたい | 47.1% |
| 2 | この地域にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人たちが、地域をよくしてくれるだろう | 7.1% |
| 3 | この地域に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政・その他に反映していくのは、市民としての権利である | 7.4% |
| 4 | 地域社会は自分の生活上のひとつのよりどころであるから、住民がお互いに進んで協力し、住みよくするよう心がける | 34.6% |
| | 無回答 | 3.8% |

地域生活に対する考え方



n = 2,080

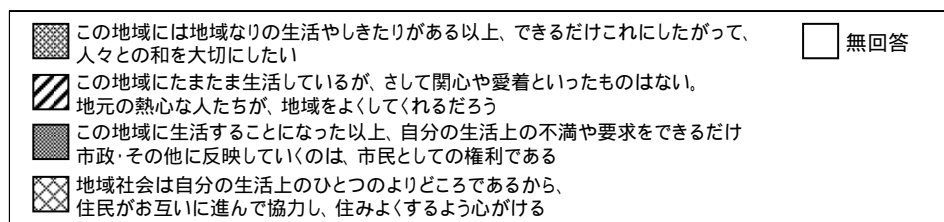
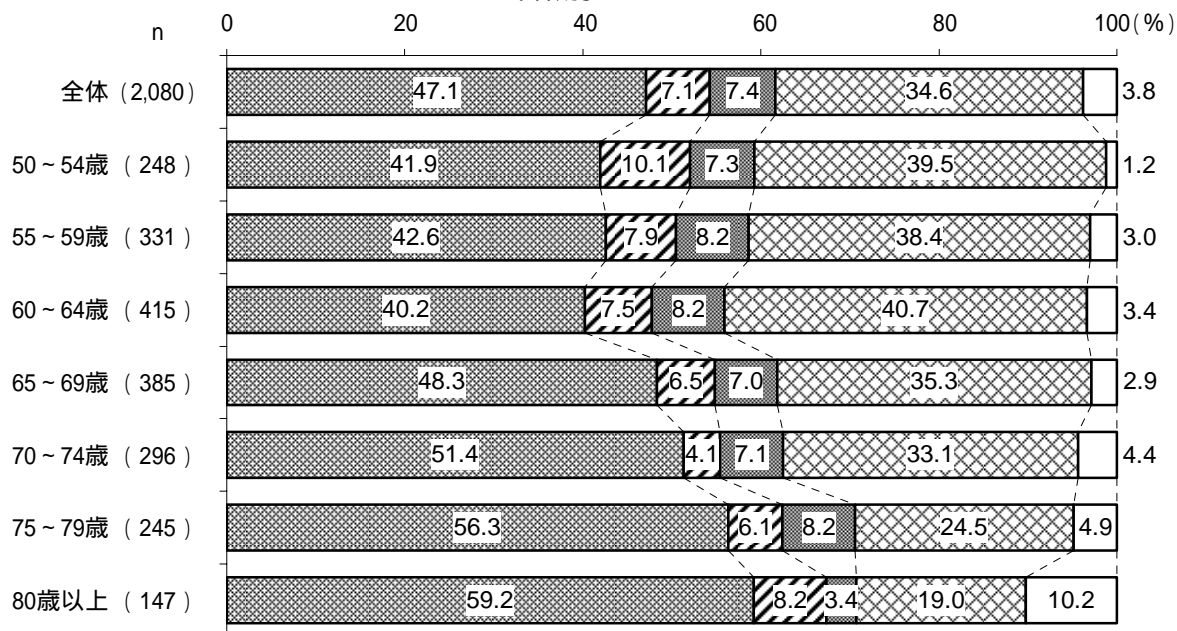
地域生活に対する考え方としては、「この地域には地域なりの生活やしきたりがある以上、できるだけこれにしたがって、人々との和を大切にしたい」(47.1%)という地元共同体意識が4割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「地域社会は自分の生活上のひとつのよりどころであるから、住民がお互いに進んで協力し、住みよくするよう心がける」(34.6%)という地域社会に対する能動的意識が3割台半ば近くとなっている。「この地域に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政・その他に反映していくのは、市民としての権利である」(7.4%)という個我的な権利意識をもつ層は7%台半ば近く、「この地域にたまたま生活してい

るが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人たちが、地域をよくしてくれるだろう」(7.1%)は約7%となっている。

男女別にみると、女性は、男性に比べて「和を大切にしたい」(女性 49.4%、男性 48.8%)と「お互い進んで協力し、住みよくする」(女性 37.7%、男性 33.8%)という地域社会の主体としての行動意識を示す割合が多くなっている。また、男性は、女性に比べて「自分の生活上の不満や要求を市政に反映するのは市民の権利」(男性 9.3%、女性 6.2%)と「関心や愛着はないが、地元の熱心な人たちが地域をよくしてくれる」(男性 8.2%、女性 6.7%)という、地域社会に対する客体的な行動意識を示す割合が多くなっている。

地域生活に対する考え方

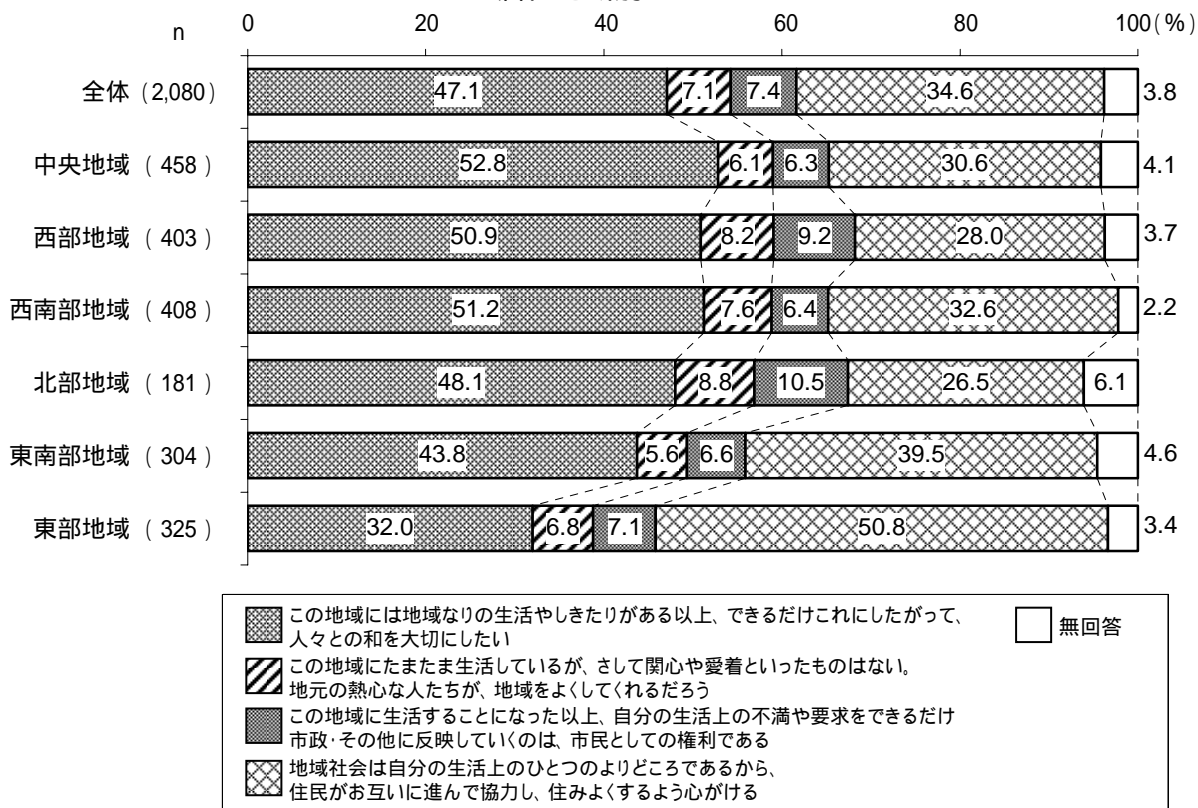
< 年齢別 >



年齢層別にみると、年齢が高くなるほど「和を大切にしたい」の割合が高まり、年齢が低くなるほど「お互い進んで協力し、住みよくする」の割合が高くなっている。54歳以下と80歳以上では、他の年齢層に比べて「地元の熱心な人たちが、地域をよくしてくれる」の割合が高まり、80歳以上では「不満や要求をできるだけ市政に反映する」の割合が低くなっている。

地域生活に対する考え方

< 居住地域別 >



居住地域別にみると、東部では「お互い進んで協力し、住みよくする」という地域社会に対する能動的意識を示す割合がもっとも多いが、他の地域では「和を大切にしたい」という地元共同体意識を示す割合がもっとも多くなっている。

なお、本質問項目は、前調査項目とともに、1970年に実施された「八王子市民の生活と意識調査」(磯村英一ほか編著(1971)『都市形成の論理と住民』東京大学出版会)で使用された、地域社会の分析枠組みにかかわる質問項目とほぼ同様のものである。1970年調査における調査目的と今回の調査目的とは異なるため、調査設計等に相違があり単純な比較には限界があるが、当時の地域社会構造からの変化を一定程度検討することが可能である。この点については、今後分析をすすめていく予定とした。

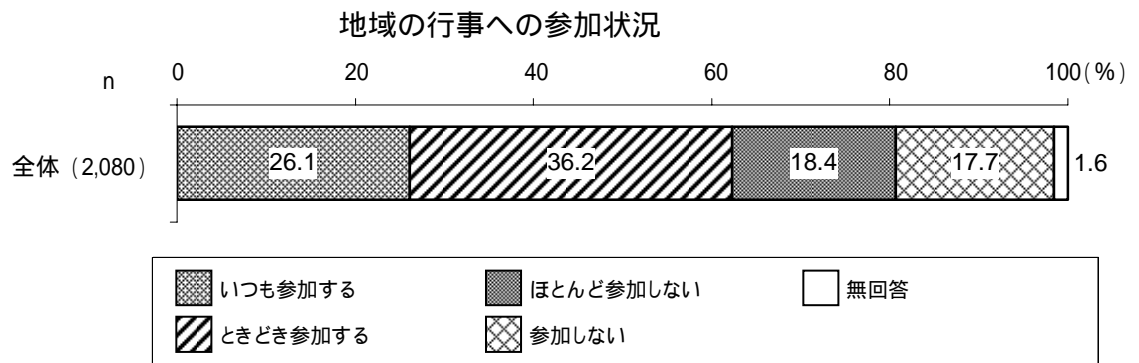
地域の行事への参加状況

問 18 . あなたは、お住まいの地域の行事（一斉清掃や祭りなど）に参加していますか。

【 1 つだけに 】

(n=2,080)

1	いつも参加する	26.1%
2	ときどき参加する	36.2
3	ほとんど参加しない	18.4
4	参加しない	17.7
	無回答	1.6

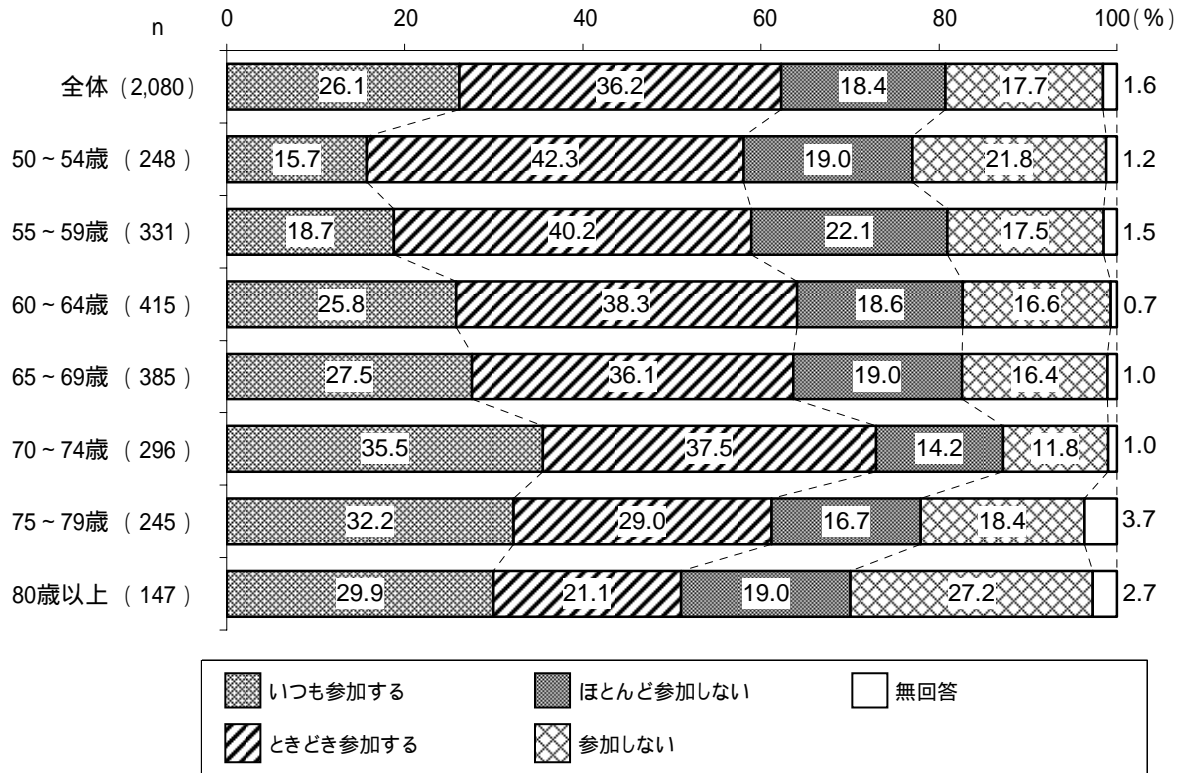


地域の行事への参加状況は、「ときどき参加する」(36.2%) が3割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「いつも参加する」(26.1%) が2割台半ばを超えている。

「いつも参加する」「ときどき参加する」の合計(62.3%)を地域行事への参加群とすると、6割強を占めている。

地域の行事への参加状況

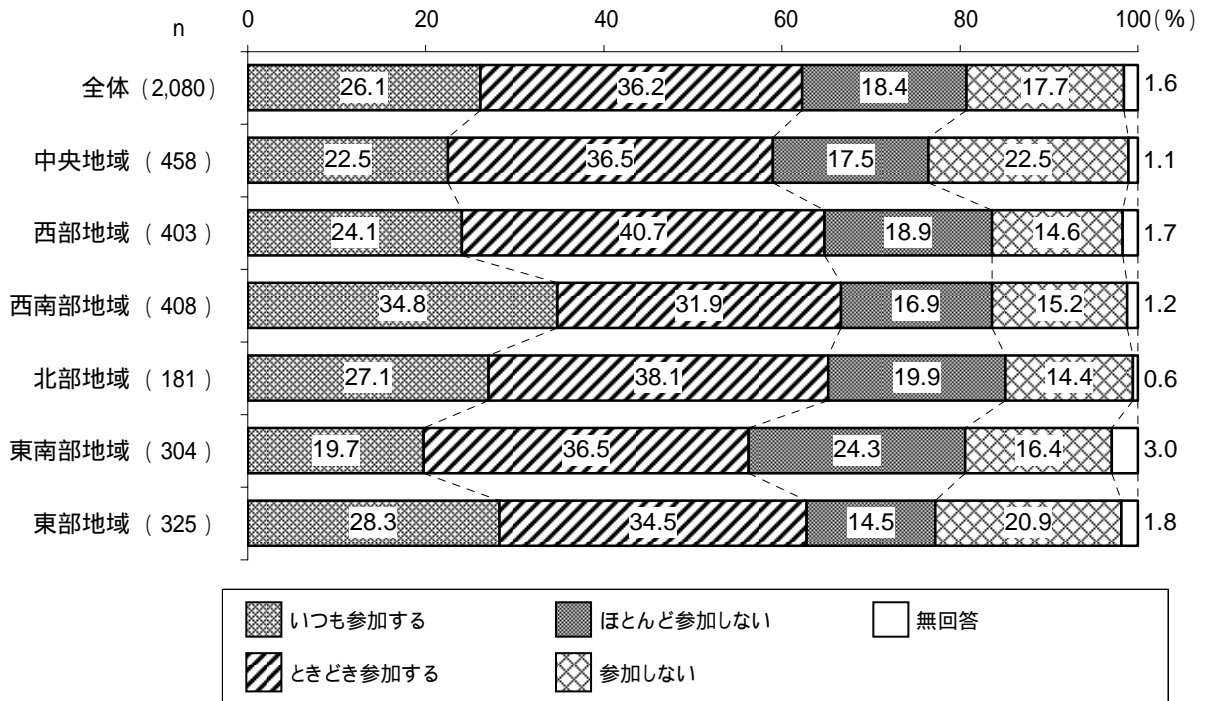
< 年齢別 >



年齢層別にみると、地域行事への参加傾向は、年齢層が高いほど参加割合が上昇する傾向がみられるが、70～74歳をピークに75歳以上から減少傾向に転じている。

地域の行事への参加状況

< 居住地域別 >



居住地域別にみると、地域行事への参加群の占める割合は、西南部で高く、東南部で低くなっている。

なお、男女別に分布の違いはみられない。

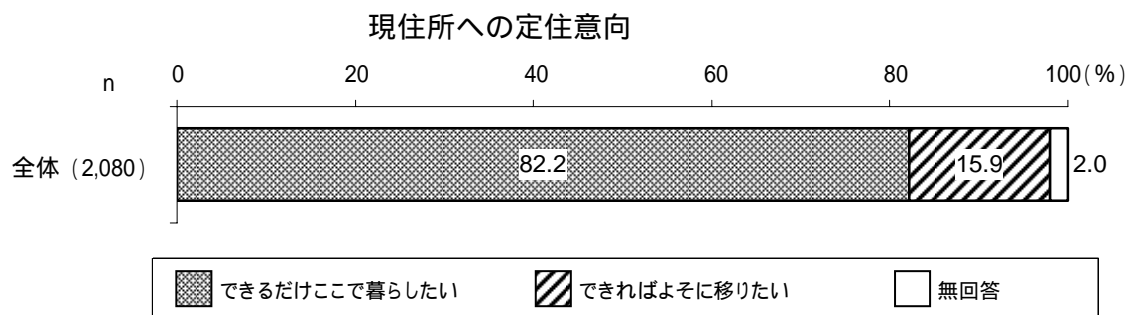
現住所への定住意向

問 19 . あなたは、現在お住まいの住所にこれからも住み続けたいと思いますか。

【どちらかに】

(n=2,080)

1	できるだけここで暮らしたい	82.2%
2	できればよそに移りたい	15.9
	無回答	2.0



現住所への定住意向は、「できるだけここで暮らしたい」(82.2%)が8割強となっている。

年齢層別に大まかな傾向をみると、年齢が高くなるほど定住意向を示す割合が高くなっており、50～64歳(80.4%)で約8割、65～74歳(85.7%)で8割台半ば、75～84歳(89.6%)で9割弱となっている。ただし、少し細かくみると、50～54歳(76.6%)と60～64歳(78.3%)は、55～59歳(82.8%)に比べ、定住意向が低い傾向がみられる。

なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

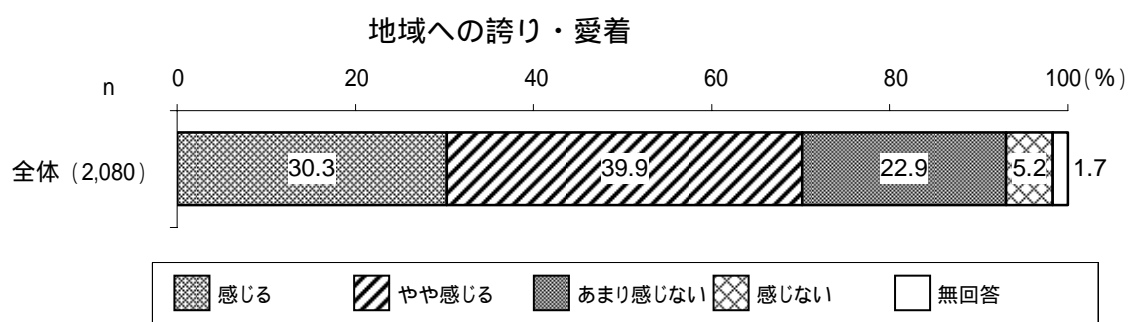
地域への誇り・愛着

問 20 . あなたは、お住まいの地域に、誇りや愛着のようなものを感じますか。

【 1 つだけに 】

(n=2,080)

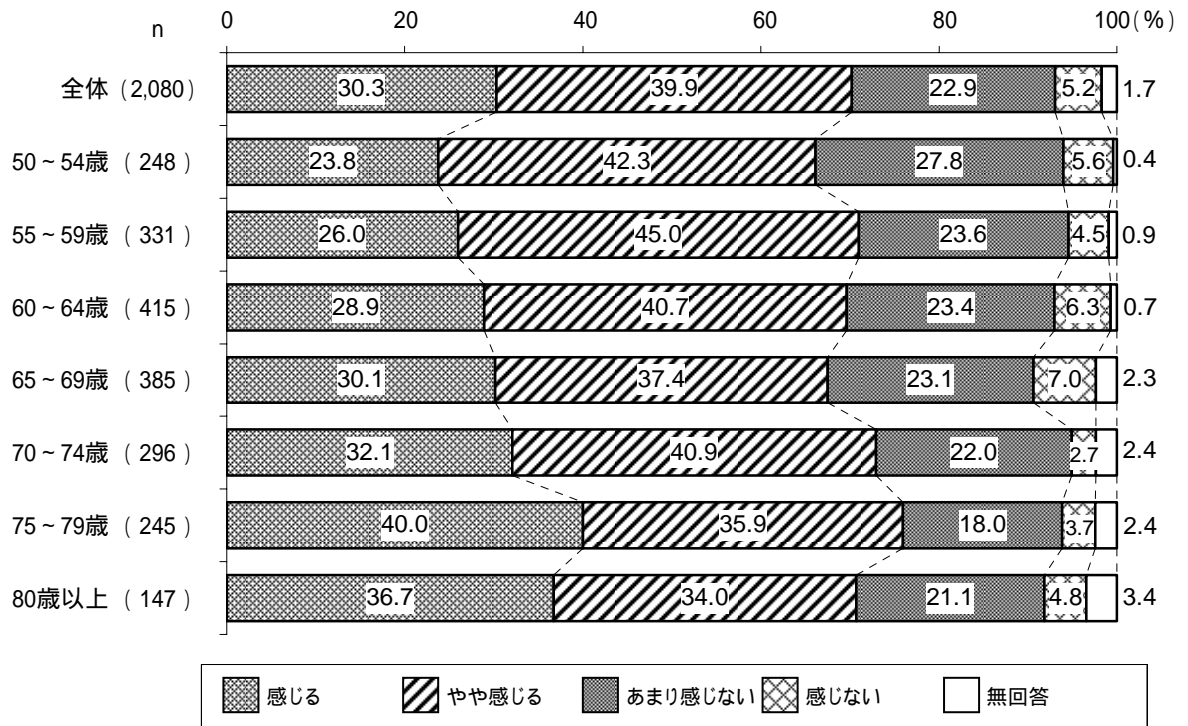
1	感じる	30.3%
2	やや感じる	39.9
3	あまり感じない	22.9
4	感じない	5.2
	無回答	1.7



地域への誇り・愛着について、「やや感じる」(39.9%) が 4 割弱、「感じる」(30.3%) が約 3 割となっている。「感じる」「やや感じる」の合計 (70.2%) を地域への愛着が高い群とすると、約 7 割となっている。

地域への誇り・愛着

<年齢別>



年齢層別にみると、年齢が高くなるほど地域への誇り・愛着をもつ人の割合が高まる傾向がみられる。

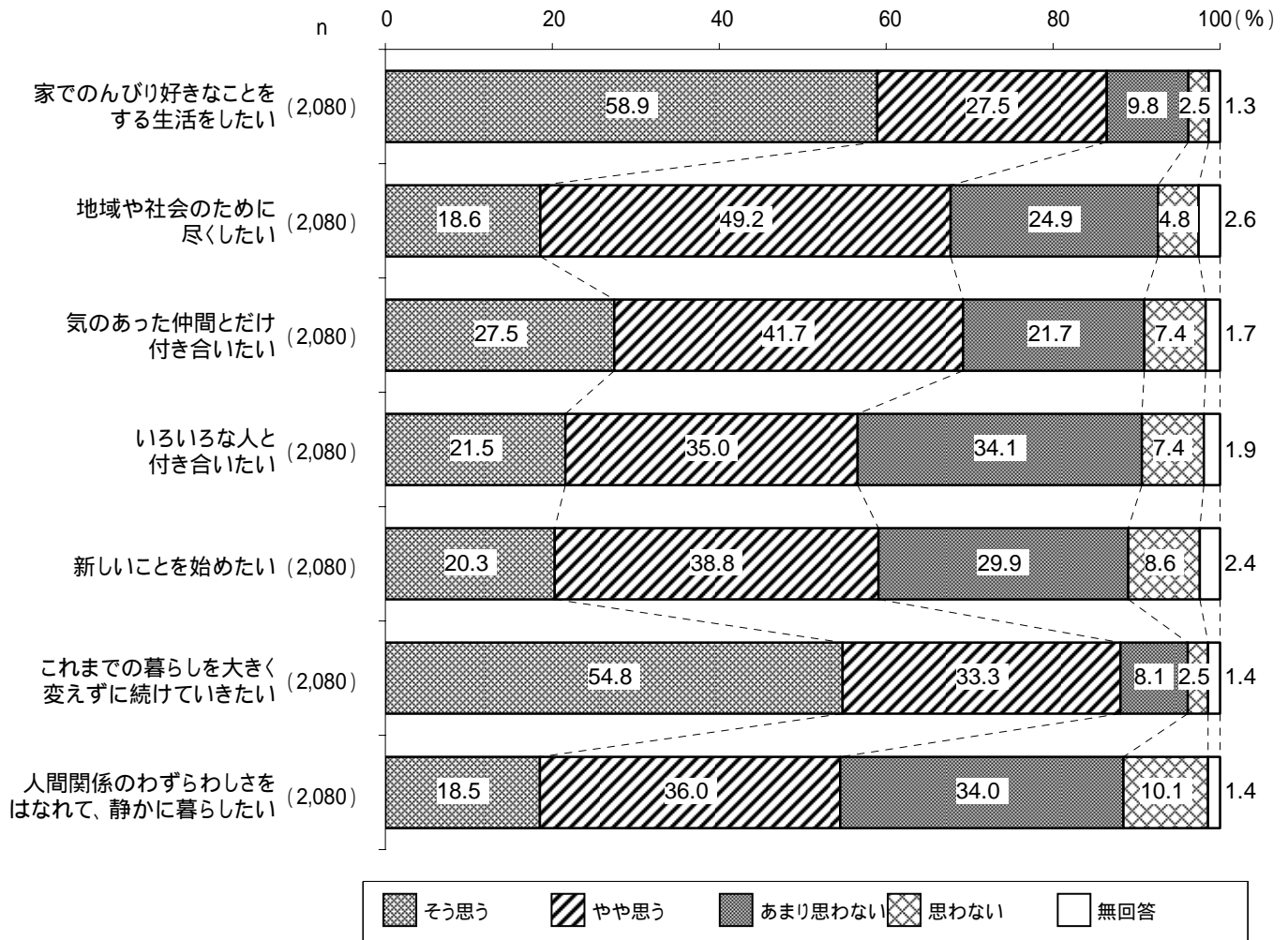
なお、男女別、居住地域別に分布の違いはみられない。

(6) ふだんの生活で感じること・考え

高齢期の過ごし方

問 21 . あなたは、高齢期をどのように過ごしたいと思いますか。(ア) ~ (キ) それぞれについて、あなたの考えにもっとも近い番号にひとつずつ をつけてください。 (n=2,080)					
	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
(ア) 家でのおんびり好きなことをする生活をしたい	58.9%	27.5%	9.8%	2.5%	1.3%
(イ) 地域や社会のために尽くしたい	18.6	49.2	24.9	4.8	2.6
(ウ) 気のあった仲間とだけ付き合いたい	27.5	41.7	21.7	7.4	1.7
(エ) いろいろな人と付き合いたい	21.5	35.0	34.1	7.4	1.9
(オ) 新しいことを始めたい	20.3	38.8	29.9	8.6	2.4
(カ) これまでの暮らしを大きく変えずに続けていきたい	54.8	33.3	8.1	2.5	1.4
(キ) 人間関係のわずらわしさをはなれて、静かに暮らしたい	18.5	36.0	34.0	10.1	1.4

高齢期の過ごし方



高齢期の過ごし方については、「思う」は、【家でんびり好きなことをする生活をしたい】(58.9%)が6割近くでもっとも多く、次いで【これまでの暮らしを大きく変えずに続けていきたい】(54.8%)が5割台半ば近くとなっている。一方で、「あまり思わない」は、【いろいろな人と付き合いたい】(34.1%)、【人間関係のわずらわしさをはなれて、静かに暮らしたい】(34.0%)が3割台半ば近くとなっている。

男女別にみると、女性のほうが、男性に比べて肯定傾向(「思う」と「やや思う」の合計)をもつ項目は【家でんびり】(女性89.6%、男性84.9%)と【これまでの暮らしを続ける】(女性91.7%、男性86.4%)であった。男性のほうが、女性に比べて肯定傾向をもつ項目は【地域や社会に尽くす】(男性70.8%、女性68.8%)であった。

年齢層別にみると、年齢が高いほど肯定傾向(「思う」と「やや思う」の合計)をもつ項目は、【新しいことを始めたい】以外のすべての項目であった。たと

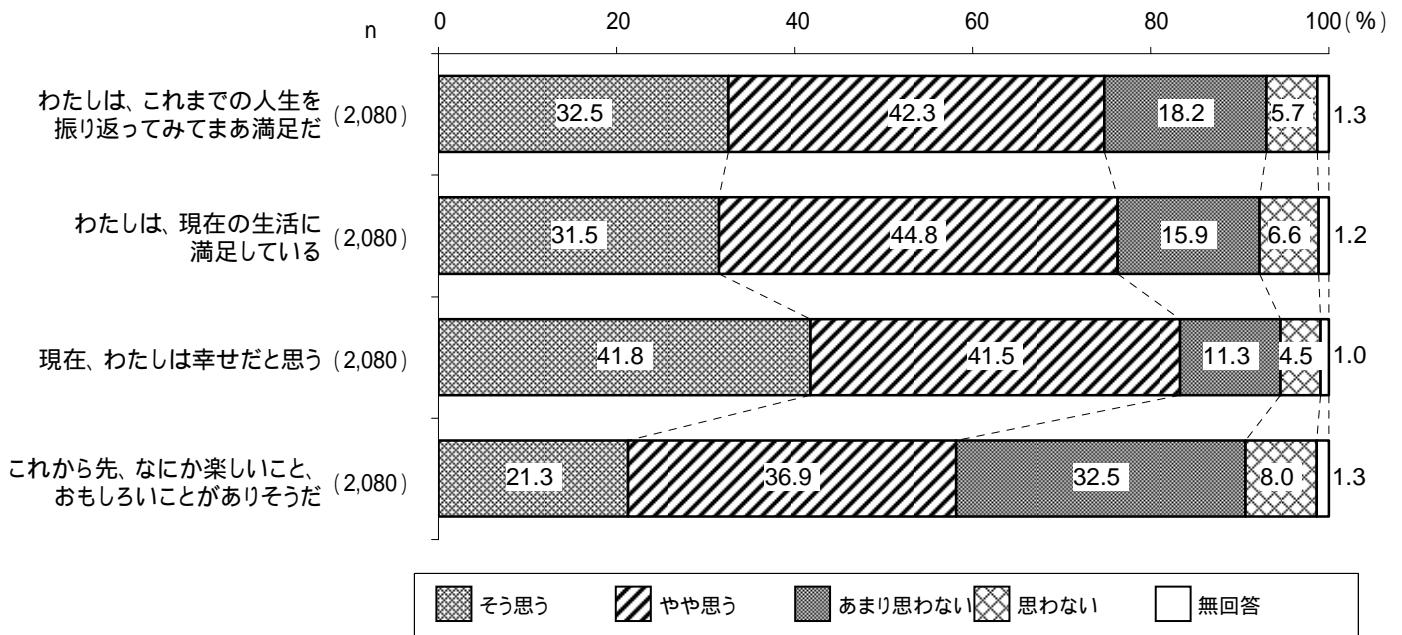
えば、【これまでの暮らしを続ける】に肯定傾向を示しているのは、大まかにみると、50～64歳（86.6%）で8割台半ばを超え、65～74歳（90.9%）で約9割、75～84歳（93.9%）で9割台半ば近くとなっている。【新しいことを始めたい】の場合、年齢が低いほど肯定傾向がみられ、大まかにみると50～64歳（71.9%）で7割強、65～74歳（54.3%）で5割台半ば近く、75～84歳（41.4%）で4割強となっている。

居住地域別にみると、地域差がみられる項目は、【家でのんびり】【新しいことを始めたい】【これまでの暮らしを続ける】の3項目であった。【家でのんびり】に、他の地域に比べて肯定傾向を示したのは東南部（89.8%）で、肯定傾向が低いのは北部（81.8%）であった。【新しいことを始めたい】に、他の地域に比べて肯定傾向を示したのは東部（68.9%）で、肯定傾向が低いのは西南部（56.4%）であった。【これまでの暮らしを続ける】に、他の地域に比べて肯定傾向を示したのは、西南部（91.0%）、西部（90.7%）で、肯定傾向が低いのは北部（86.7%）であった。

主観的幸福感について

問 22 . 次の (ア) ~ (エ) それぞれについて、あなたの考えにもっとも近い番号に ひとつずつ をつけてください。					
(n=2,080)					
	そう 思う	やや 思う	あまり 思わない	思 わない	無 回 答
(ア) わたしは、これまでの人生を 振り返ってみてまあ満足だ	32.5%	42.3%	18.2%	5.7%	1.3%
(イ) わたしは、現在の生活に満足して いる	31.5	44.8	15.9	6.6	1.2
(ウ) 現在、わたしは幸せだと思う	41.8	41.5	11.3	4.5	1.0
(エ) これから先、なにか楽しいこと、 おもしろいことがありそうだ	21.3	36.9	32.5	8.0	1.3

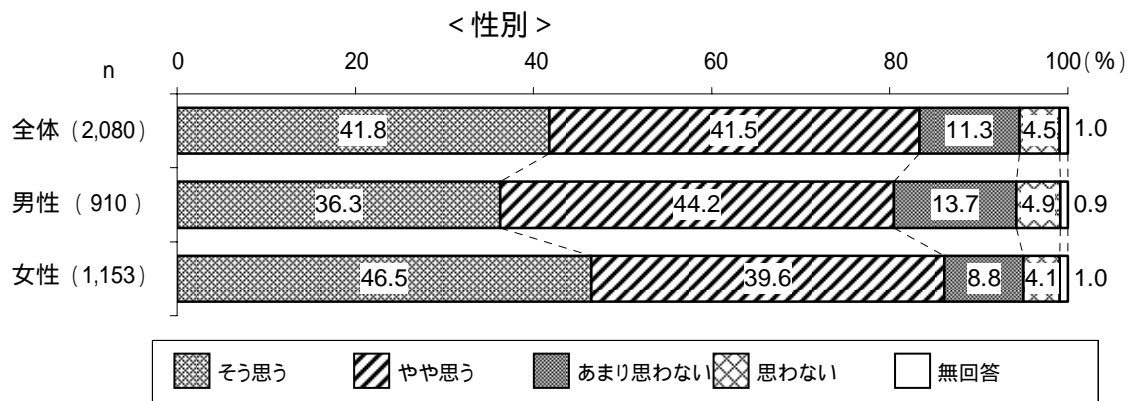
主観的幸福感について



幸せ感の自己評価である主観的幸福感について、【人生満足度】【現在の生活満足度】【現在の幸せ感】【将来への肯定感】の4項目でたずねたところ、「そう思う」は、【現在の幸せ感】(41.8%)が4割強でもっとも多くなっている。一方で、「あまり思わない」は、【将来への肯定感】(32.5%)が3割強となっている。

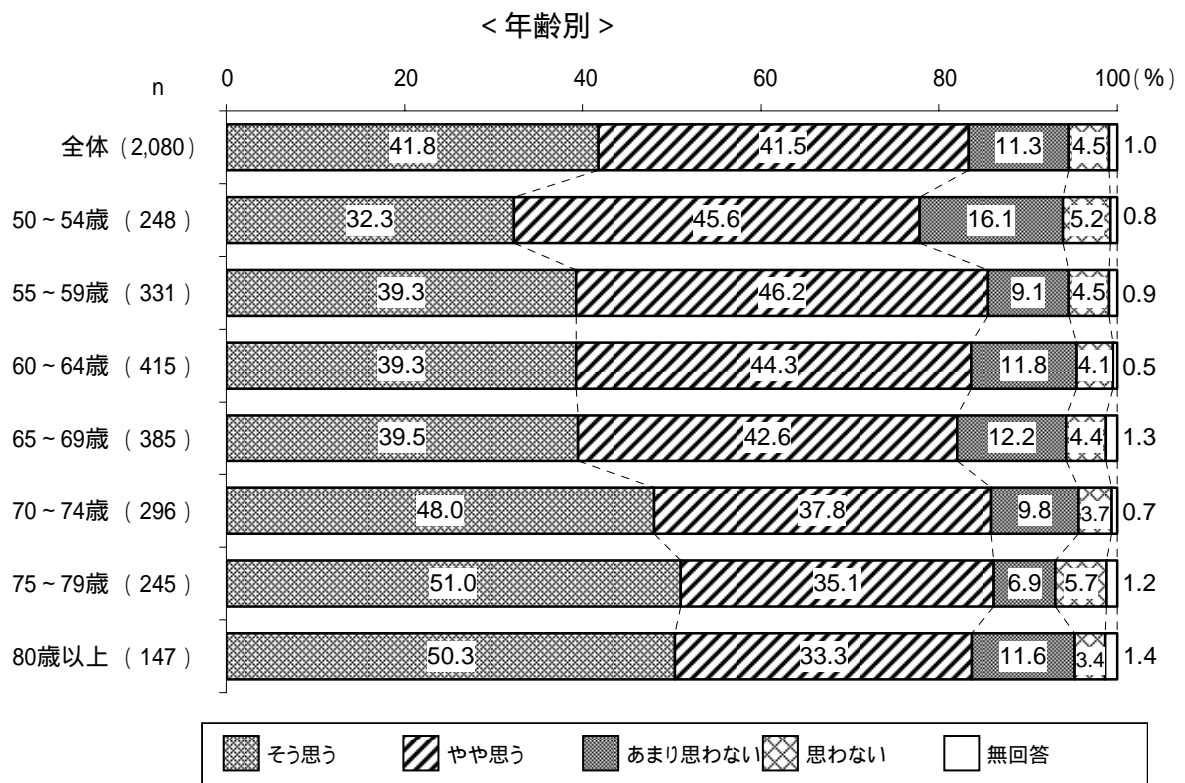
「そう思う」と「やや思う」の合計を肯定群とすると、【人生満足度】は7割台半ば近く、【現在の生活満足度】は7割台半ばを超えており、【現在の幸せ感】は8割台半ば近くを占めている。ただし、【将来への肯定感】の肯定群は、他の項目に比べて少なくなっており、6割近くとなっている。

主観的幸福感について
 (ウ) 現在、わたしは幸せだと思う



男女別にみると、分布に違いがみられた項目は、【現在の生活満足度】【現在の幸せ感】であった。2項目ともに、女性は、男性に比べて肯定的な回答傾向がみられる。

主観的幸福感について
 (ウ) 現在、わたしは幸せだと思う



年齢層別にみると、【人生満足度】【現在の生活満足度】【現在の幸せ感】については、年齢層が高いほど、肯定的な回答傾向がみられる。しかし、【将来への肯定感】については、年齢層が低いほど、肯定的な回答傾向がみられる。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

主観的幸福感に影響を与えている要因のうち、これを高めている要因は何か。ここでは、【現在の幸せ感】に対する回答をもとに、前述のクロス分析でみた男女別、年齢層のほかに、主観的幸福感を高める要因を探った。具体的には、世帯類型や暮らし向きなどの社会経済的な属性、健康状態、親しくしている他者や団体への参加などの人とのつながりといった複数の要因が、主観的幸福感の高低とどのような関連をもっているのかを明らかにしようと試みた。なお、検討の手順としては、これらの要因が主観的幸福感と1対1で関連しているかどうかを確認したうえで、関連が明らかであった複数の項目間の影響関係を差し引いてもなお、主観的幸福感の高低に影響を及ぼしていると判断できる項目を限定するための分析を行った（重回帰分析による。3つ以上の要因が、説明したい現象にどのような影響を及ぼしているのかを同時に分析するための統計手法のひとつ。）

その結果、男女別、年齢層、配偶者の有無、暮らし向き、主観的健康感、他者からの生活上の支援を期待できる量、なんらかの集団への参加経験の有無の影響であることがわかった。つまり、人口学的属性としては、女性ほど、高年齢であるほど【現在の幸せ感】が高い。社会経済的属性としては、配偶者がいる人ほど、暮らし向きにゆとりがあるほど【現在の幸せ感】が高い。また、健康度からみれば、主観的健康感が高いほど【現在の幸せ感】が高い。最後に、他者とのつながりについてみると、他者からの生活上の支援が期待できる量が多いほど、なんらかの集団への参加経験があるほど【現在の幸せ感】が高い。

なお、ひとり暮らしであること、子どもの有無、現在の就業の有無といった社会経済的属性、親しく頼りにしている他者の人数と、【現在の幸せ感】には関連性がみとめられなかった。

他者とのつながりのうち、いかなる内容や意味をもつ結びつきが、主観的幸福感全般にどのような影響を与えているのかといった点を含めて、より詳細な分析は、今後分析をすすめていく予定である。

ふだんの生活で感じること

問 23 . あなたは、ふだんの生活のなかで、次の(ア)～(ウ)それぞれについて、どのようにお考えですか。あなたの考えにもっとも近い番号にひとつずつをつけてください。

(ア) 生活のなかで、あなたは人から頼りにされていると感じますか。

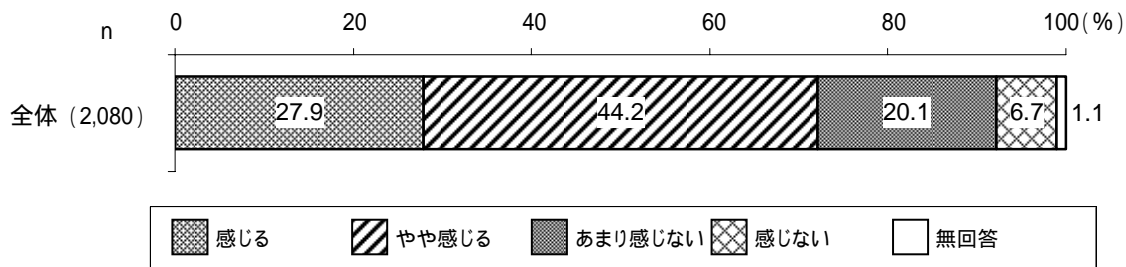
【1つだけに】

(n=2,080)

1	感じる	27.9%
2	やや感じる	44.2
3	あまり感じない	20.1
4	感じない	6.7
	無回答	1.1

ふだんの生活で感じること

(ア) 生活のなかで、あなたは人から頼りにされていると感じますか



生活のなかで、あなたは人から頼りにされていると感じるかについて、「やや感じる」(44.2%) が4割台半ば近くでもっとも多く、次いで「感じる」(27.9%) が2割台半ばを超えている。

男女別にみると、女性は、男性に比べて頼りにされていると感じている人が多くなっている。とくに、「そう思う」と回答した割合は、女性(32.5%)で3割強、男性(21.8%)で2割強であり、女性のほうが多くなっている。

年齢層別にみると、50～79歳までは2割台半ばを超える(26.1%)程度から3割強(32.3%)であるが、80～84歳(18.8%)では2割弱まで急激に減少する。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

問 23 . あなたは、ふだんの生活のなかで、次の（ア）～（ウ）それぞれについて、どのようにお考えですか。あなたの考えにもっとも近い番号にひとつずつをつけてください。

（イ）生活のなかで、あなたが活躍する場はありますか。

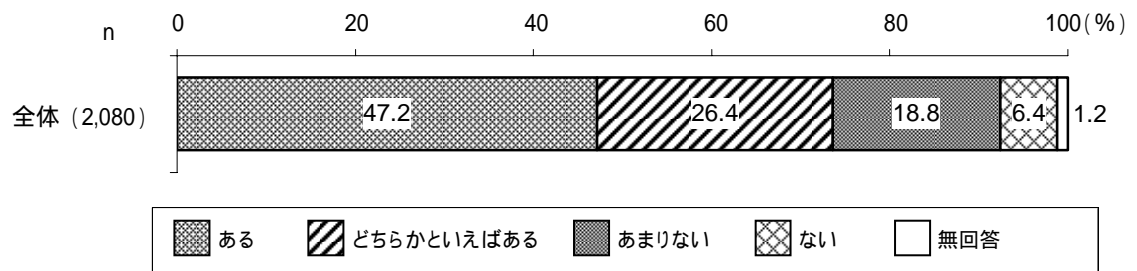
【 1 つだけに 】

(n=2,080)

1	ある	47.2%
2	どちらかといえばある	26.4
3	あまりない	18.8
4	ない	6.4
	無回答	1.2

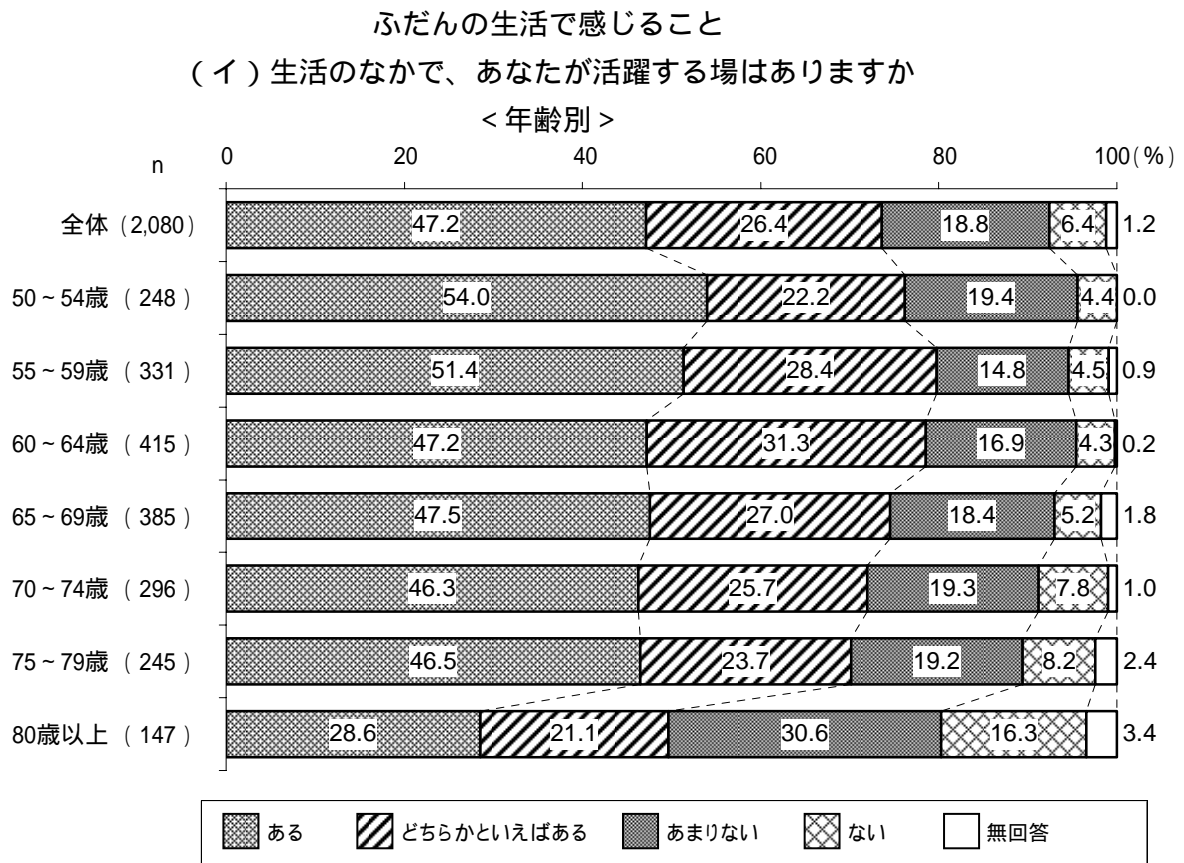
ふだんの生活で感じること

（イ）生活のなかで、あなたが活躍する場はありますか



生活のなかで、あなたが活躍する場はあるかについて、「ある」(47.2%) が4割台半ばを超えてもっとも多く、次いで「どちらかといえばある」(26.4%) が2割台半ばを超えている。

男女別に分布の違いをみると、女性は、男性に比べて「ある」の回答が占める割合が高くなっている。とくに、「そう思う」と回答した割合は、女性（52.9%）で5割強、男性（40.0%）で4割であり、女性のほうが多くなっている。



年齢層別に分布の違いをみると、年齢層が低いほど、「ある」の割合が高くなっている。しかし、50～79歳までは5割台半ば近くから4割台半ばを超えており、80～84歳で3割近くまで急激に減少している。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

(ア)(イ)の両項目は、「生きがい」感の指標としてたずねたものである。肯定的自己を維持する手段として、個人が生活上の役割や社会的役割をどのくらい認識しているのかという側面から「生きがい」を捉えようと試みた。なお、両項目が、「生きる喜びや楽しみ」の対象とどのような関係にあるのかといった点については、今後分析をすすめていく予定としたい。

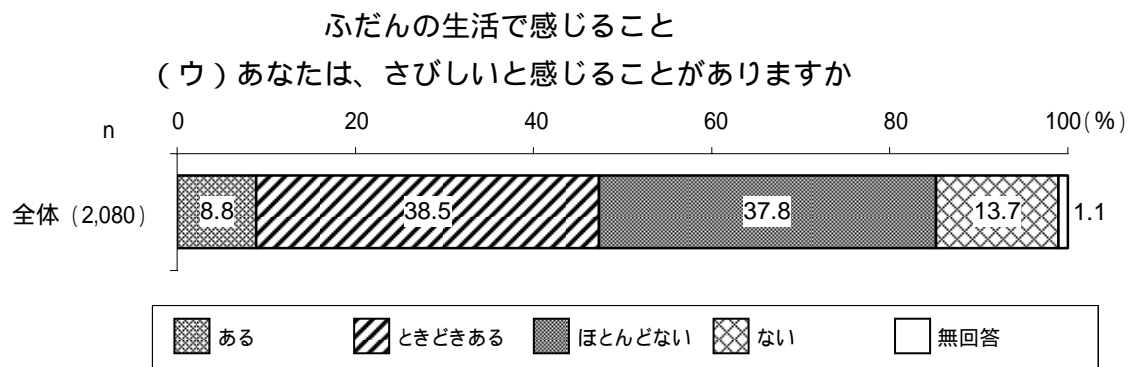
問 23 . あなたは、ふだんの生活のなかで、次の(ア)～(ウ)それぞれについて、どのようにお考えですか。あなたの考えにもっとも近い番号にひとつずつをつけてください。

(ウ) あなたは、さびしいと感じることがありますか。

【1つだけに】

(n=2,080)

1	ある	8.8%
2	ときどきある	38.5
3	ほとんどない	37.8
4	ない	13.7
	無回答	1.1



主観的な孤独感について、【あなたは、さびしいと感じることがありますか】とたずねたところ、「ときどきある」(38.5%)が4割近くでもっとも多く、次いで「ほとんどない」(37.8%)が3割台半ばを超えている。

なお、男女別、年齢層別、居住地域別に分布の違いはみられない。

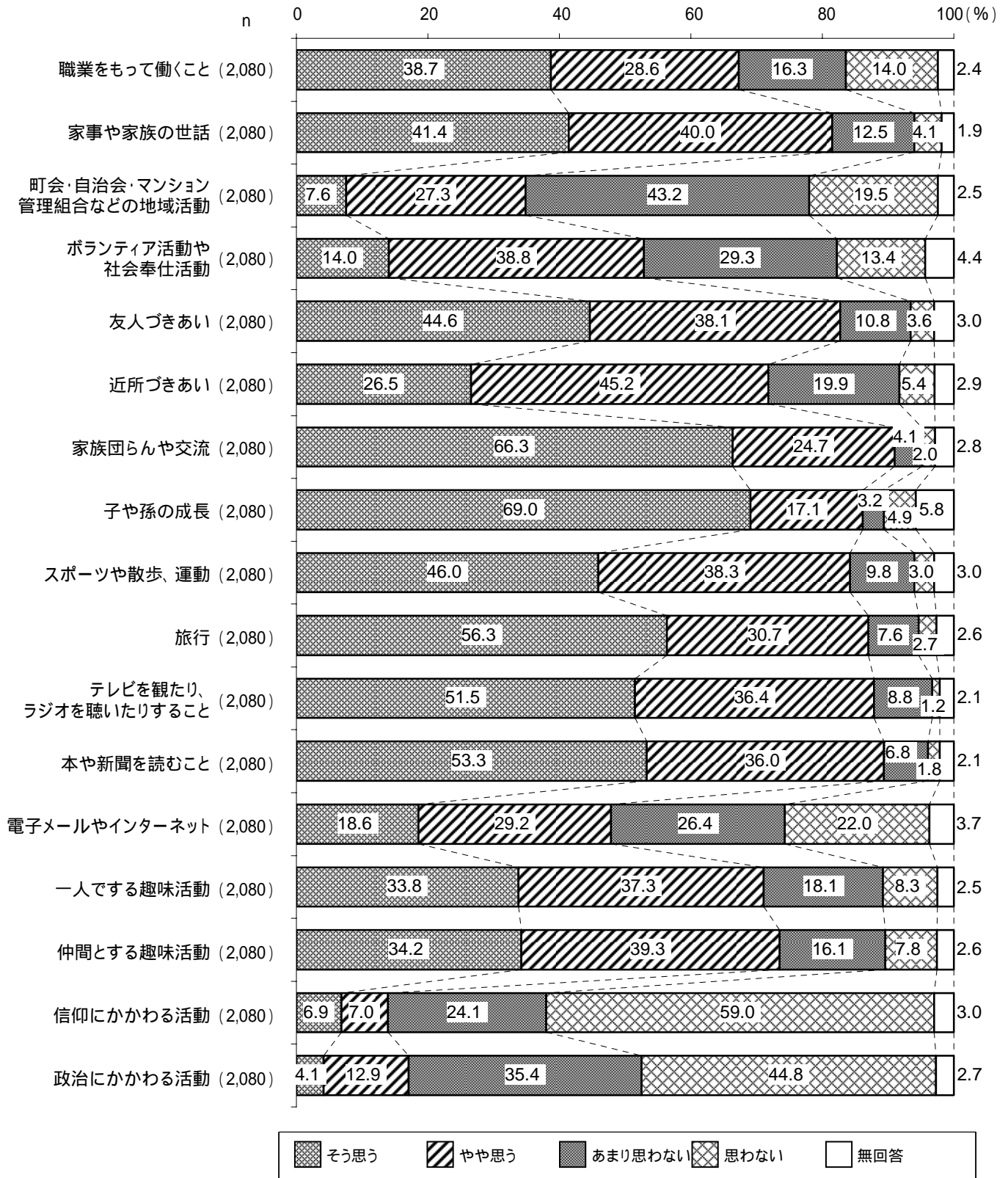
生きる喜びや楽しみ

問 24 . 生活のなかで、あなたは、次にあげた（ア）～（チ）のようなことに生きる喜びや楽しみを感じますか。次の（ア）～（チ）それぞれについて、あなたの考えに近い番号にひとつずつ をつけてください。

(n=2,080)

	そう思う	やや思う	あまり思わない	思わない	無回答
（ア） 職業をもって働くこと	38.7%	28.6%	16.3%	14.0%	2.4%
（イ） 家事や家族の世話	41.4	40.0	12.5	4.1	1.9
（ウ） 町会・自治会・マンション管理組合などの地域活動	7.6	27.3	43.2	19.5	2.5
（エ） ボランティア活動や社会奉仕活動	14.0	38.8	29.3	13.4	4.4
（オ） 友人づきあい	44.6	38.1	10.8	3.6	3.0
（カ） 近所づきあい	26.5	45.2	19.9	5.4	2.9
（キ） 家族団らんや交流	66.3	24.7	4.1	2.0	2.8
（ク） 子や孫の成長	69.0	17.1	3.2	4.9	5.8
（ケ） スポーツや散歩、運動	46.0	38.3	9.8	3.0	3.0
（コ） 旅行	56.3	30.7	7.6	2.7	2.6
（サ） テレビを観たり、ラジオを聴いたりすること	51.5	36.4	8.8	1.2	2.1
（シ） 本や新聞を読むこと	53.3	36.0	6.8	1.8	2.1
（ス） 電子メールやインターネット	18.6	29.2	26.4	22.0	3.7
（セ） 一人でする趣味活動	33.8	37.3	18.1	8.3	2.5
（ソ） 仲間とする趣味活動	34.2	39.3	16.1	7.8	2.6
（タ） 信仰にかかわる活動	6.9	7.0	24.1	59.0	3.0
（チ） 政治にかかわる活動	4.1	12.9	35.4	44.8	2.7

生きる喜びや楽しみ



「生きる喜びや楽しみ」として「生きがい」の対象となっているものの傾向を捉えた。「そう思う」が占める割合が高い項目は、【子や孫の成長】(69.0%)が7割弱でもっとも多く、次いで【家族団らんや交流】(66.3%)が6割台半ばを超え、【旅行】(56.3%)が5割台半ばを超えている。他方、「そう思う」が占める割合が低い項目は、【政治にかかわる活動】(4.1%)がもっとも低く、次いで【信仰にかかわる活動】(6.9%)、【地域活動】(7.6%)となっている。

男女別に分布の違いがみられる項目についてみると、男性が、女性に比べて「そう思う」と回答している「生きる喜びや楽しみ」の対象は、【職業】(男性41.7%、女性38.1%)、【地域活動】(男性9.7%、女性6.3%)、【政治】(男性5.4%、女性3.4%)となっている。他方、女性が、男性に比べて「そう思う」と回答している対象は、【家事や家族の世話】(女性45.2%、男性38.5%)、【友人づきあい】(女性51.9%、男性38.8%)、【家族団らん】(女性72.1%、男性63.7%)、【子や孫の成長】(女性77.2%、男性68.7%)、【旅行】(女性62.1%、男性52.9%)、【テレビやラジオ】(女性56.6%、男性47.4%)、【仲間とする趣味活動】(女性39.6%、男性29.6%)、【信仰】(女性8.1%、男性5.9%)となっている。

年齢層別に大まかに分布の違いがみられる項目についてみると、年齢層が低いほど「そう思う」と回答している「生きる喜びや楽しみ」対象は、【職業】【スポーツや散歩、運動】【旅行】【仲間とする趣味活動】【電子メールやインターネット】となっている。例えば、【職業】についてみると、「そう思う」と回答している人は、50~64歳(45.4%)で4割台半ば、65~74歳(39.4%)で4割弱、75~84歳(25.0%)で2割台半ばとなっている。他方、年齢層が高いほど「そう思う」と回答している対象は、【家事や家族の世話】【地域活動】【社会奉仕】【近所づきあい】【子や孫の成長】【テレビやラジオ】【本や新聞】【一人でする趣味活動】【政治】となっている。例えば【社会奉仕】についてみると、「そう思う」と回答している人は、50~64歳(12.7%)で1割強、65~74歳(17.5%)で1割台半ばを超え、75~84歳(15.4%)で1割台半ばとなっており、とくに70~74歳(19.5%)で2割弱ともっとも多くなる。しかし、80~84歳では50~64歳までとほぼ同程度にまで減少する。

居住地域別に分布の違いがみられる項目は、【近所づきあい】【子や孫の成長】【本や新聞】【電子メールやインターネット】【仲間とする趣味】となっている。例えば、【近所づきあい】に「そう思う」と回答した割合が多くなっている地域は、西部(34.8%)、中央(29.1%)であり、東部(19.3%)では低くなっている。

(7) 就労・職業・暮らし向きについて

高齢期の就労意向

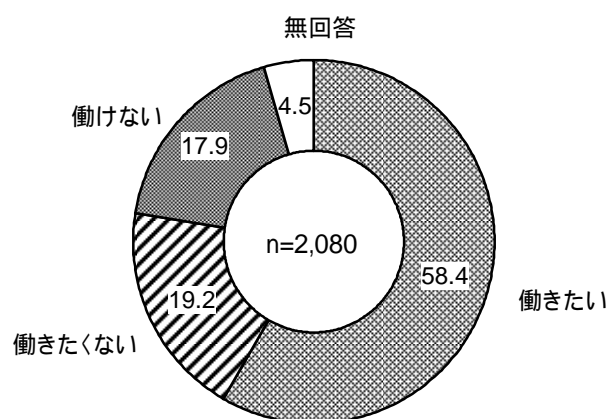
問 25 . あなたは、適当な仕事があったら、いくつになっても、何らかのかたちで働きたいと思いますか。現在働いている方は、引き続き働きたいと思いますか。

【1つだけに】

(n=2,080)

1	働きたい	58.4%
2	働きたくない	19.2
3	働けない	17.9
	無回答	4.5

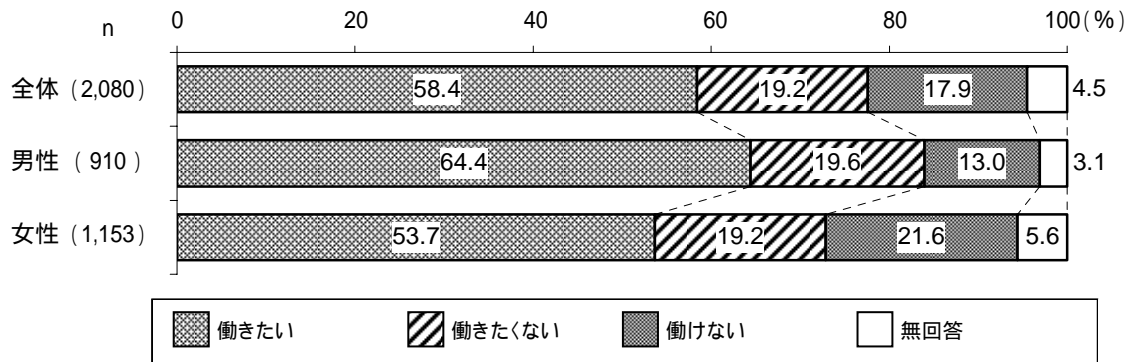
高齢期の就労意向



「いくつになっても何らかのかたちで働きたいと思うか」という設問で高齢期の潜在的な就労意向をたずねた。「働きたい」(58.4%)が6割近く、「働きたくない」(19.2%)が2割弱、「働けない」(17.9%)が1割台半ばを超えている。

高齢期の就労意向

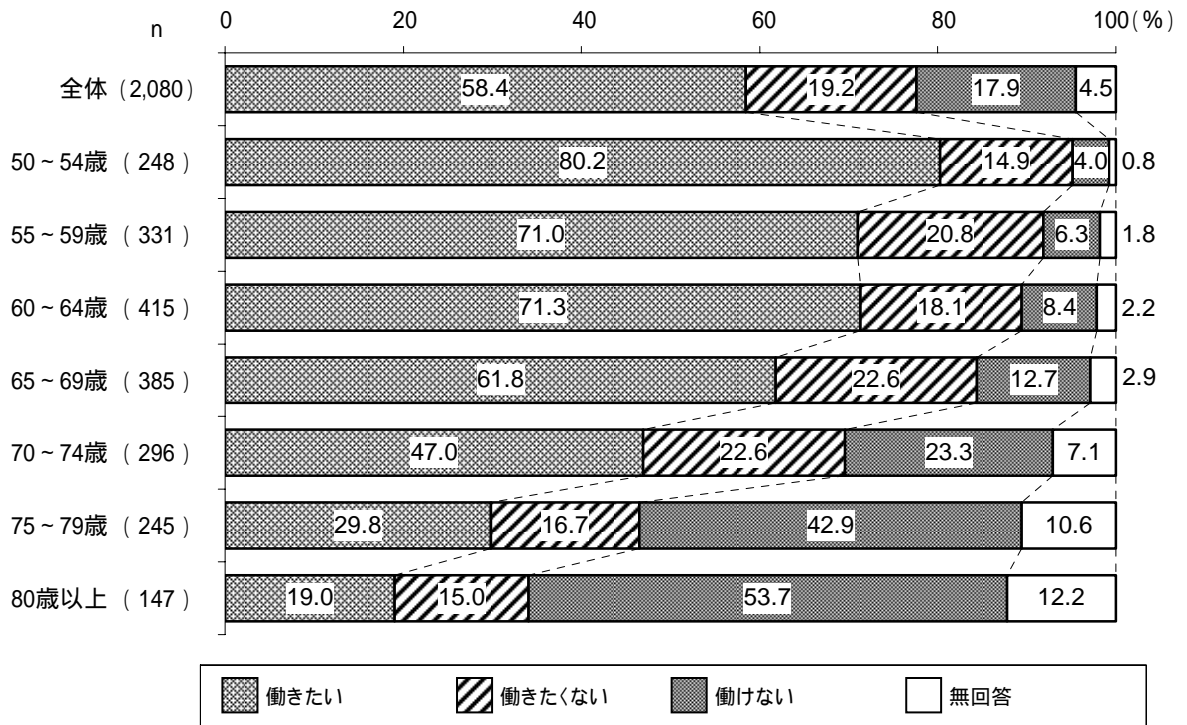
< 性別 >



男女別にみると、男性のほうが女性に比べて就労意向が高い傾向がみられる。なお、女性は、男性に比べ「働けない」の割合が多くなっている。

高齢期の就労意向

< 年齢別 >



年齢層別にみると、年齢が高くなるほど就労意向が減少する傾向がみられる。現在の一般的な定年退職年齢が含まれる 60～64 歳を迎えた人であっても、7 割強の人が働く意欲をもっている。65 歳を超えると減少傾向がみられるが、70～74 歳でも 4 割台半ばを超える人が働く意欲を示している。

「現在の就業の有無」で統制を加えて、年齢層別に就労意向をみると、「就業あり」群は、「就業なし」群に比べて75～79歳までは2倍を超える就労意向を示しており、80～84歳を除き、現在働いている人は、現在働いていない人よりも高齢期の就労意向が高くなっていることがわかる。

「就業あり」群では、55～59歳（82.1%）で8割強、60～64歳（92.0%）で9割強、65～69歳（86.1%）で8割台半ばを超え、70～74歳（75.5%）で7割台半ば、75～79歳（61.0%）で6割強、80～84歳（32.1%）で3割強となっている。また、現在「就業なし」群であっても、60～64歳（45.8%）で4割台半ば、65～69歳（42.8%）で4割強、70～74歳（35.8%）で3割台半ば、75～79歳（23.1%）で2割台半ば近く、80～84歳（18.8%）で2割近くの人が就労意向を示している。

客観的健康度（通院頻度）の観点から、高齢期の就労意向をみると、通院頻度の少ない群では、通院頻度が中程度の群、多い群に比べて、就労意向が高い傾向にある。「働きたい」の占める割合は、通院頻度の少ない群（70.0%）で7割、中程度の群（54.9%）で5割台半ば近く、通院頻度の多い群（46.1%）で4割台半ばを超えている。「働けない」の占める割合は、通院頻度の少ない群（8.4%）で8割台半ば近く、中程度の群（24.9%）で2割台半ば近く、通院頻度の多い群（38.7%）で4割近くとなっている。

主観的健康感の観点から、高齢期の就労意向をみると、主観的健康感が高いほど就労意向が高い傾向にある。「働きたい」の占める割合は、「とても健康」（72.0%）な人の7割強、「まあ健康」（65.4%）な人の6割台半ば、「あまり健康でない」（46.4%）人の4割台半ばを超え、「健康ではない」（29.0%）人の3割弱となっている。「働けない」の占める割合は、「とても健康」（5.5%）な人の5割台半ば、「まあ健康」（14.2%）な人の1割台半ば近く、「あまり健康でない」（32.6%）人の3割強、「健康ではない」（58.9%）人の6割近くとなっている。

暮らし向きにゆとりがあるかどうかという観点から、高齢期の就労意向をみると、「ゆとりなし」群のほうが、「ゆとりあり」群よりも就労意向が高い傾向にある。「働きたい」の占める割合は、「ゆとりなし」群（66.4%）で6割台半ばを超えており、「ゆとりあり」群（56.2%）で5割台半ばを超えている。

以上にみた高齢期の就労意向に影響を与えている要因のうち、就労意向を高めている主要な要因は何か。3つ以上の変数の関連をみるための統計的手法の1つである重回帰分析の結果、性別及び客観的健康度の影響は明らかでなくなり、年齢層、主観的健康感、現在の就業の有無、暮らし向きの影響であることがわかった。つまり、現在の年齢層が低いほど、主観的健康感が高いほど、現在働いているほど、暮らし向きにゆとりがないほど、高齢期の潜在的な就労意向が高くなる傾向がみられる。

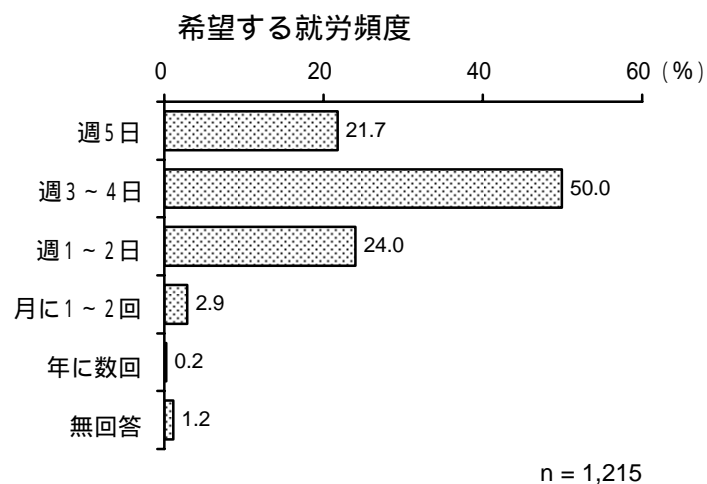
希望する就労頻度

【問 25 . で、「 1 . 働きたい」と答えた方におうかがいします。】

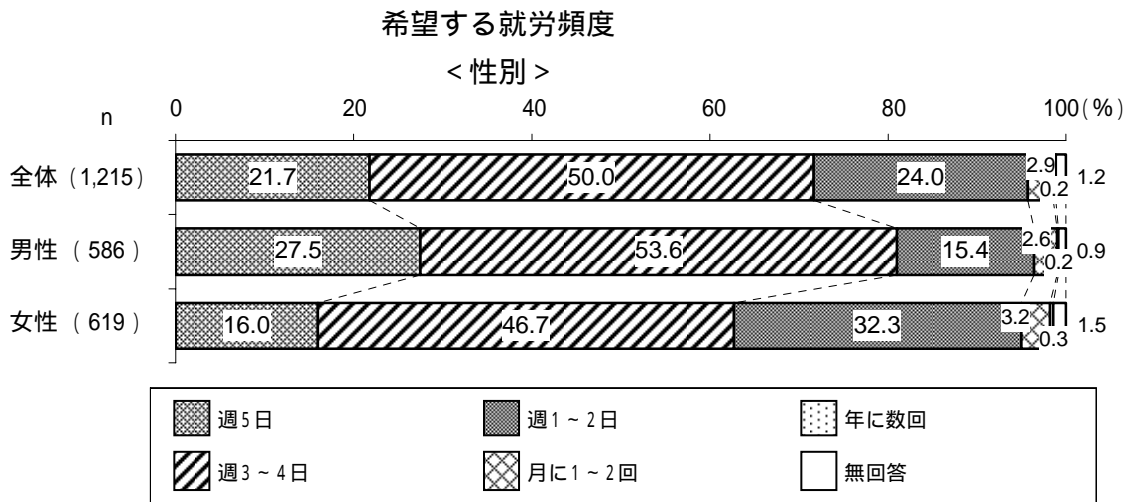
問 25 - 1 . あなたは、どのくらいの頻度で働きたいですか。【 1 つだけに 】

(n=1,215)

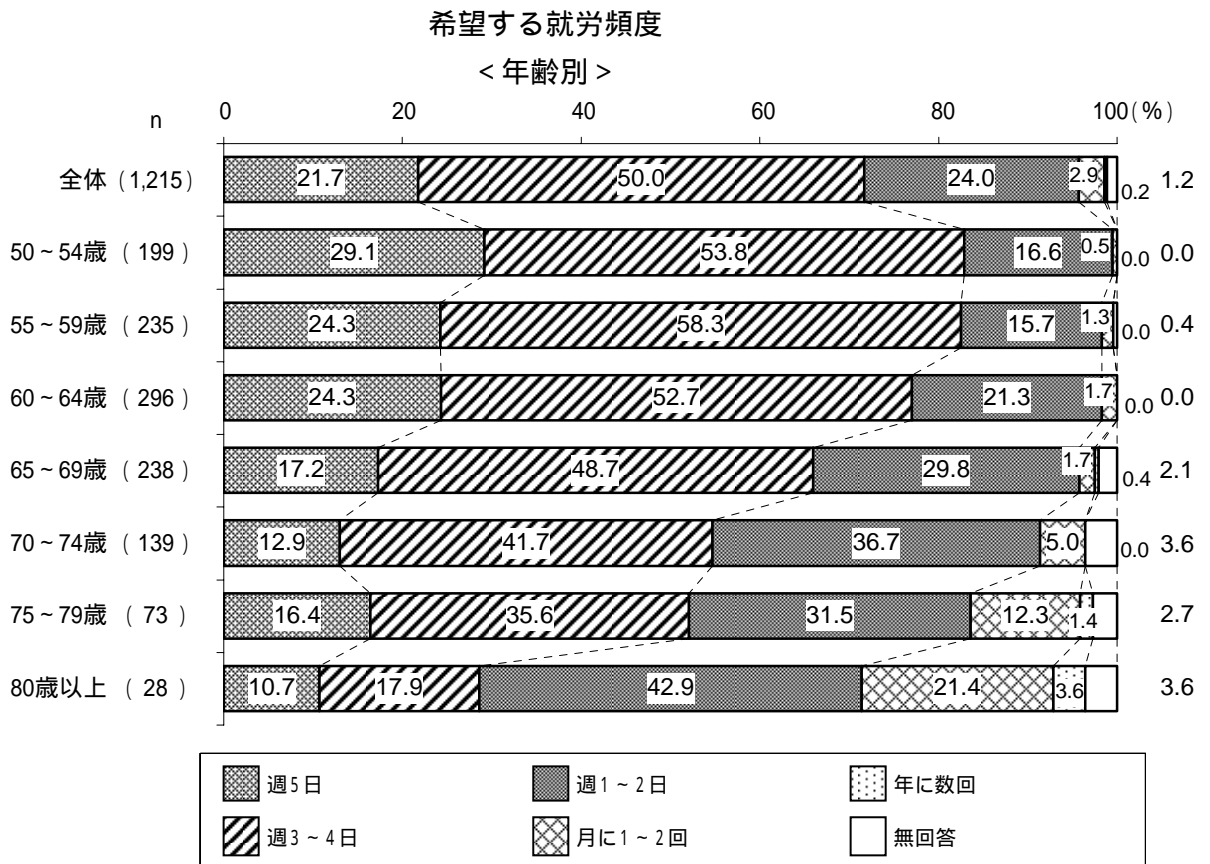
1	週 5 日	21.7%
2	週 3 ~ 4 日	50.0
3	週 1 ~ 2 日	24.0
4	月に 1 ~ 2 回	2.9
5	年に数回	0.2
	無回答	1.2



高齢期に就労意向をもつ人が希望する就労頻度は、「週 3 ~ 4 日」(50.0%) が 5 割でもっとも多く、次いで「週 1 ~ 2 日」(24.0%) が 2 割台半ば近く、「週 5 日」(21.7%) が 2 割強となっている。これらを含めて、1 週間のうち 1 ~ 5 日のいずれかで働きたいと考えている人は 9 割台半ばに達している。



男女別にみると、男性も女性も週3～4日を希望する人がもっとも多いが、次に希望している就労頻度は男女で異なり、男性は週5日、女性は週1～2日となっている。



年齢層別にみると、年齢層が低いほど希望する就労頻度は高く、年齢層が高いほど就労頻度が低下する傾向がみられる。週3日以上の高頻度を希望している割合は、50～64歳では約8割に達しているが、65～74歳では6割台半ば近く、75～84歳では4割台半ばを超える程度まで減少する。

高齢期の働き方についての考え方

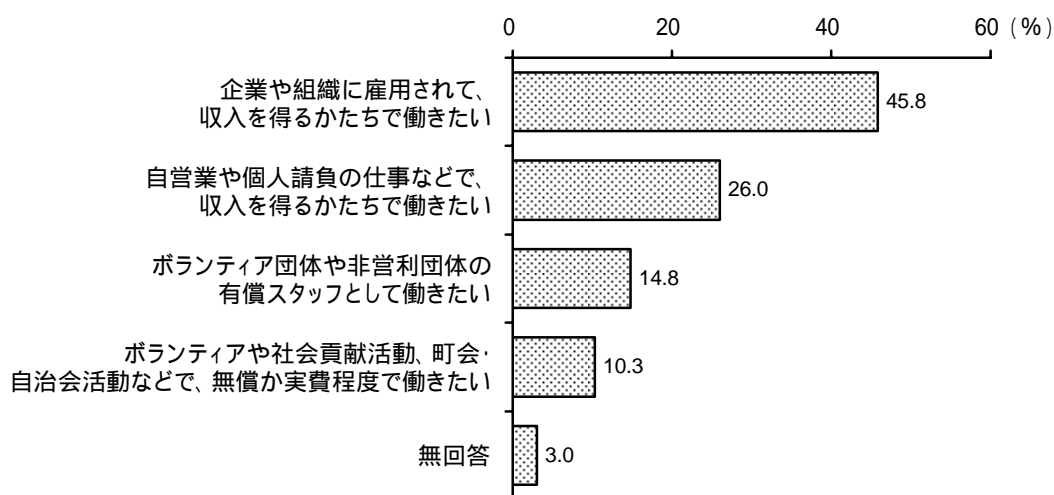
【問 25 . で、「 1 . 働きたい」と答えた方におうかがいします。】

問 25 - 2 . 高齢期の働き方について、いろいろな考え方がありますが、次の4つの意見の中で、現在のあなたのお考えにもっとも近い番号に をつけてください。【1つだけに 】

(n=1,215)

1	企業や組織に雇用されて、収入を得るかたちで働きたい	45.8%
2	自営業や個人請負の仕事などで、収入を得るかたちで働きたい	26.0
3	ボランティア団体や非営利団体の有償スタッフとして働きたい	14.8
4	ボランティアや社会貢献活動、町会・自治会活動などで、 無償か実費程度で働きたい	10.3
	無回答	3.0

高齢期の働き方についての考え方



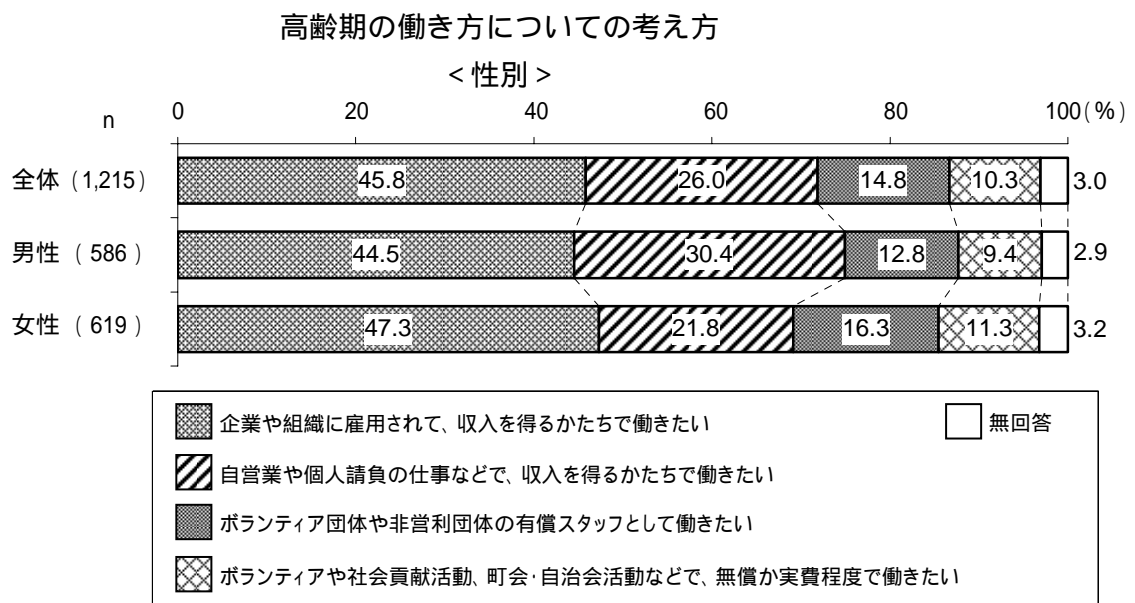
n = 1,215

就労意向をもつ人に、高齢期の働き方について、希望する働き方をたずねたところ、「企業や組織に雇用されて、収入を得るかたちで働きたい」(45.8%)が4割台半ばでもっとも多く、次いで「自営業や個人請負の仕事などで、収入を得るかたちで働きたい」(26.0%)が2割台半ばを超えている。「ボランティア団体や非営利団体の有償スタッフとして働きたい」(14.8%)が1割台半ば近く、「ボランティアや社会貢献活動、町会・自治会活動などで、無償か実費程度で働きたい」(10.3%)が約1割となっている。

これらの選択肢は、「組織で働きたいか、個人的に働きたいか」の程度に着目する軸と、「有償で働きたいか、無償で働きたいか」の程度に着目する軸で構成される4

つの分類をもとに構成し、どのような種類の働き方、社会とのかかわり方を望んでいるのかを把握しようと試みたものである。つまり、組織志向かつ有償志向が「企業や組織に雇用されて、収入を得るかたちで働きたい」、組織志向かつ無償志向が「ボランティア団体や非営利団体の有償スタッフとして働きたい」、個人志向かつ有償志向が「自営業や個人請負の仕事などで、収入を得るかたちで働きたい」、個人志向かつ無償志向が「ボランティアや社会貢献活動、町会・自治会活動などで、無償か実費程度で働きたい」に対応している。

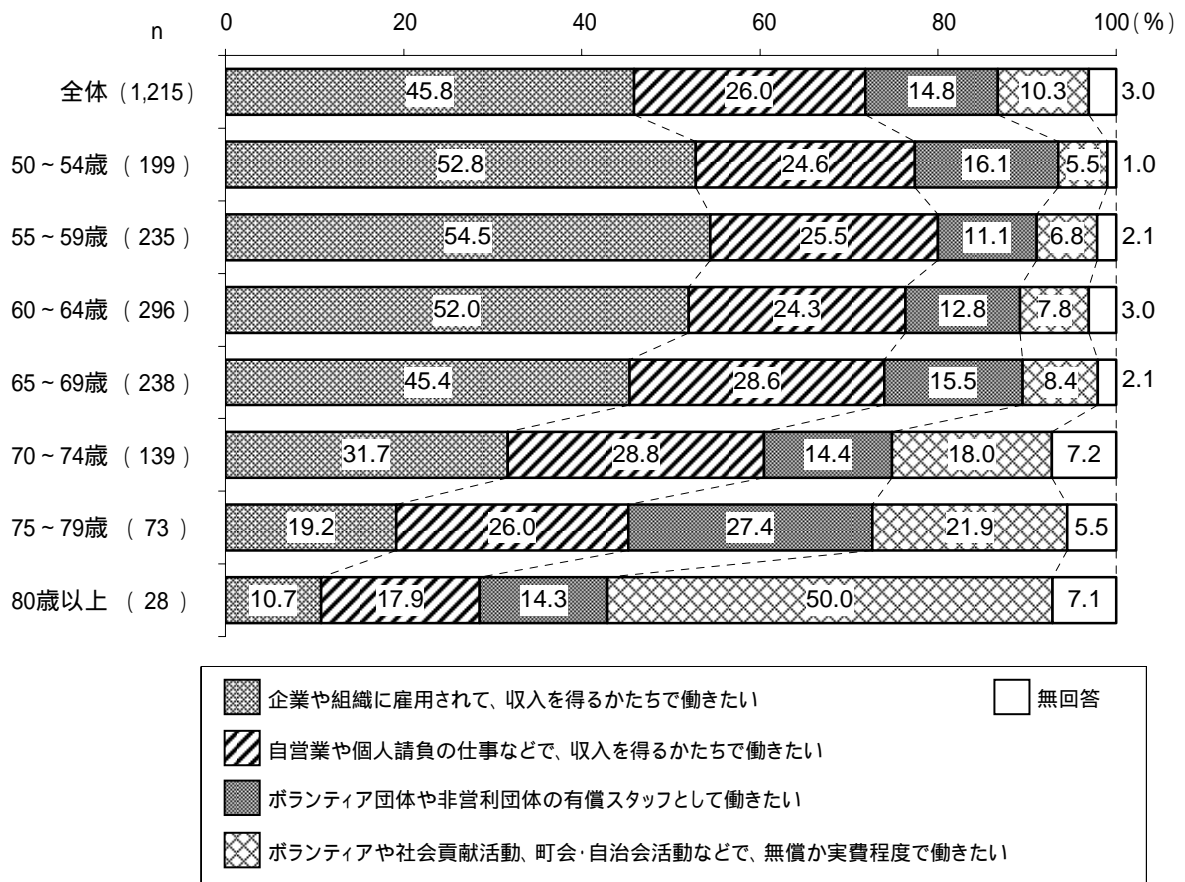
高齢期における働き方の意向を、組織志向か個人志向かで分類すると、組織志向（62.6%）は6割強、個人志向（37.4%）は3割台半ばを超えている。有償志向か無償志向かで分類すると、有償志向（74.2%）は7割台半ば近く、無償志向（25.8%）は2割台半ばとなっている。



男女別にみると、男性は、女性に比べて「自営や個人請負」での有償就労（個人・有償）を希望する割合が多くなっており、女性は、男性に比べて、有償・無償ともにボランティア等における就労を希望する割合が高くなっている。

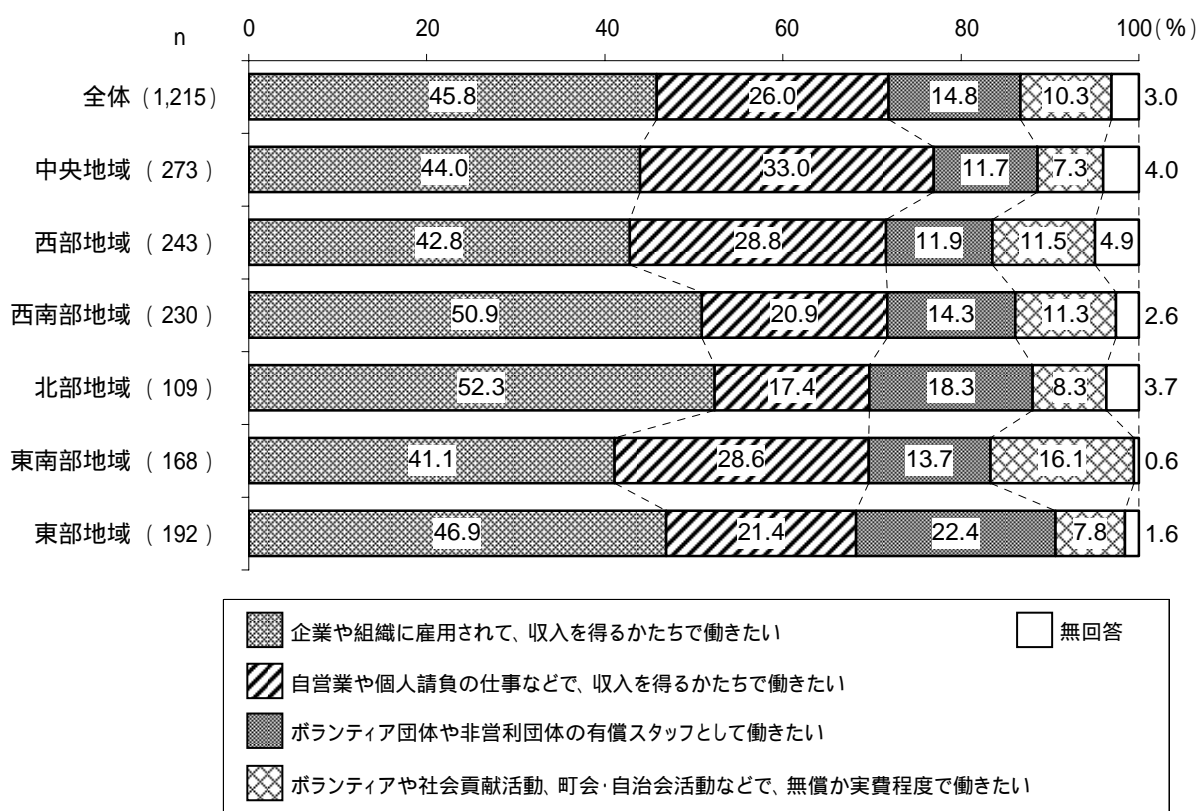
高齢期の働き方についての考え方

< 年齢別 >



年齢層別にみると、現在の年齢層が高いほど、組織での有償就労を希望する割合が減少し、有償・無償ともにボランティア等での就労を希望する割合が高まっている。企業や組織での有償就労希望者は、50～64歳（54.2%）では5割台半ば近く、65～74歳（42.0%）で4割強、75～84歳（17.9%）で1割台半ばを超える程度まで減少しているが、ボランティア団体等での有償就労希望者は、50～64歳（13.4%）では1割台半ば近く、65～74歳（15.7%）で1割台半ば、75～84歳（25.3%）で2割台半ばと増加傾向にあり、ボランティア団体や町会活動等で無償が実費程度での就労希望者も、50～64歳（7.0%）では7%、65～74歳（12.4%）で1割強、75～84歳（31.6%）で3割強となっており、増加傾向を示している。自営や個人請負での有償就労については、他の年齢層に比べて65～74歳（29.8%）で希望する割合が高まっている。

高齢期の働き方についての考え方
 < 居住地域別 >



居住地域別にみると、高齢期における働き方の意向に違いがみられる。

まず、組織志向か個人志向かで分類してみると、組織志向が高い地域は、北部（70.6%）、東部（69.3%）であり、逆に個人志向が高い地域は、東南部（44.7%）となっている。

次に、有償志向か無償志向かで分類してみると、有償志向が高い地域は、中央（77.0%）、無償志向が高いのは、東部（30.2%）、東南部（29.8%）となっている。

このような居住地域による働き方の意向の違いが、居住している個人の属性に還元できる特徴によるものなのか、地域固有の特徴によるものなのかといった点は、居住地域によって分布傾向に違いがみられる設問全般において、今後の検討課題である。

高齢期に就労を希望する年齢の上限

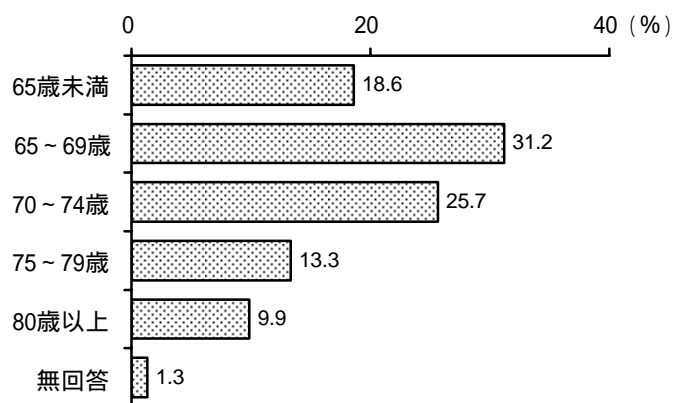
【問 25 . で、「 1 . 働きたい」と答えた方におうかがいします。】

問 25 - 3 . あなたは、何歳くらいまで働きたいですか。【 1 つだけに 】

(n=1,215)

1	65 歳未満	18.6%
2	65 ~ 69 歳	31.2
3	70 ~ 74 歳	25.7
4	75 ~ 79 歳	13.3
5	80 歳以上	9.9
	無回答	1.3

就労を希望する年齢の上限

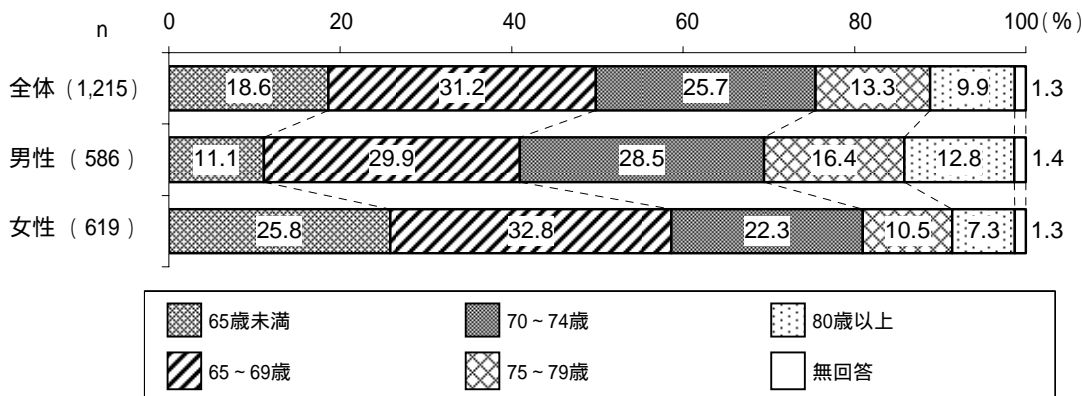


n = 1,215

高齢期に就労意向をもつ人が働き続けたいと考えている年齢は、「65 ~ 69 歳」(31.2%) が 3 割強でもっとも多く、次いで「70 ~ 74 歳」(25.7%) が 2 割台半ばとなっている。

就労を希望する年齢の上限

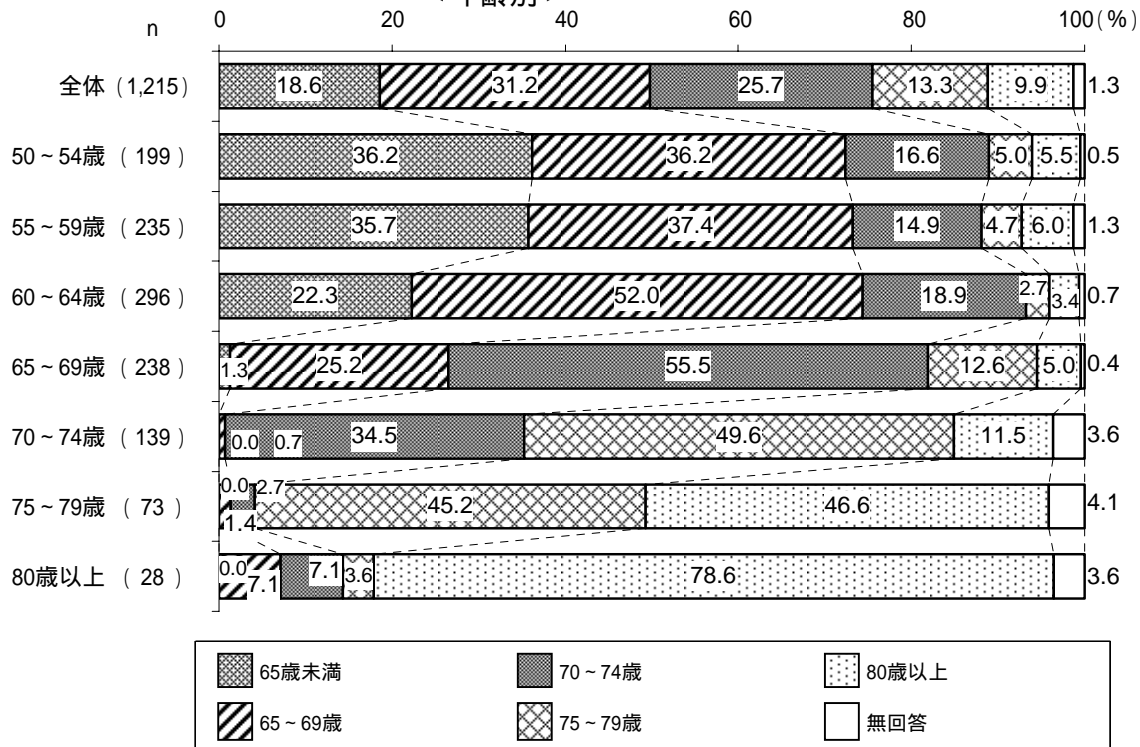
<性別>



男女別にみると、男性も女性も 65～69 歳を希望している人がもっとも多いが、次に割合が多くなっているのは、男性は 70～74 歳、女性は 65 歳未満となっている。

就労を希望する年齢の上限

<年齢別>



年齢層別にみると、現在の年齢層が高いほど、働き続けたい年齢が上昇する傾向がみられる。50～64 歳の方は 65～69 歳までを希望する人がもっとも多く、65～69 歳の方は 70～74 歳までを希望する人がもっとも多く、70～74 歳の方は 75～79 歳までを希望する人がもっとも多く、75～84 歳の方は 80 歳以上までを希望する人がもっとも多くなっている。

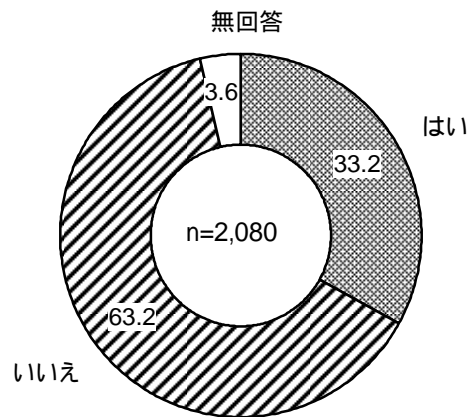
定年退職の経験

問 26 . あなたは、定年退職のご経験がありますか。【どちらかに 】

(n=2,080)

1	はい	33.2%
2	いいえ	63.2
	無回答	3.6

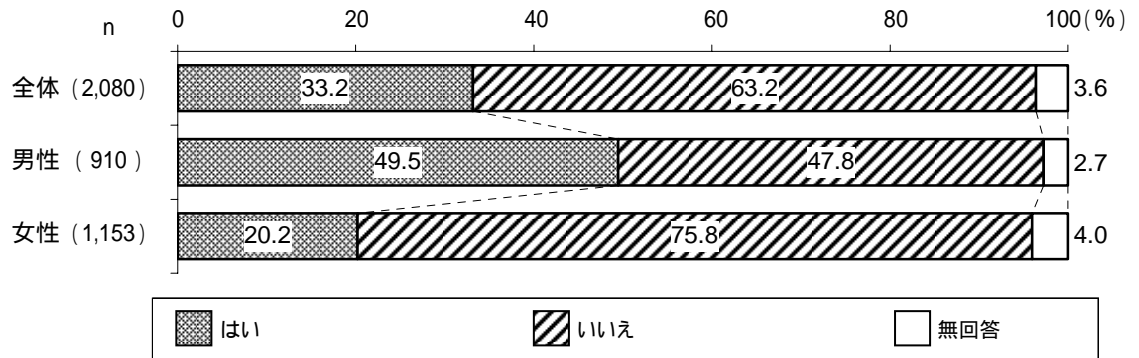
定年退職の経験



定年退職の経験の有無について、定年退職経験のない人（63.2%）が6割台半ば近く、定年退職経験のある人が「はい」（33.2%）が3割台半ば近くとなっている。

定年退職の経験

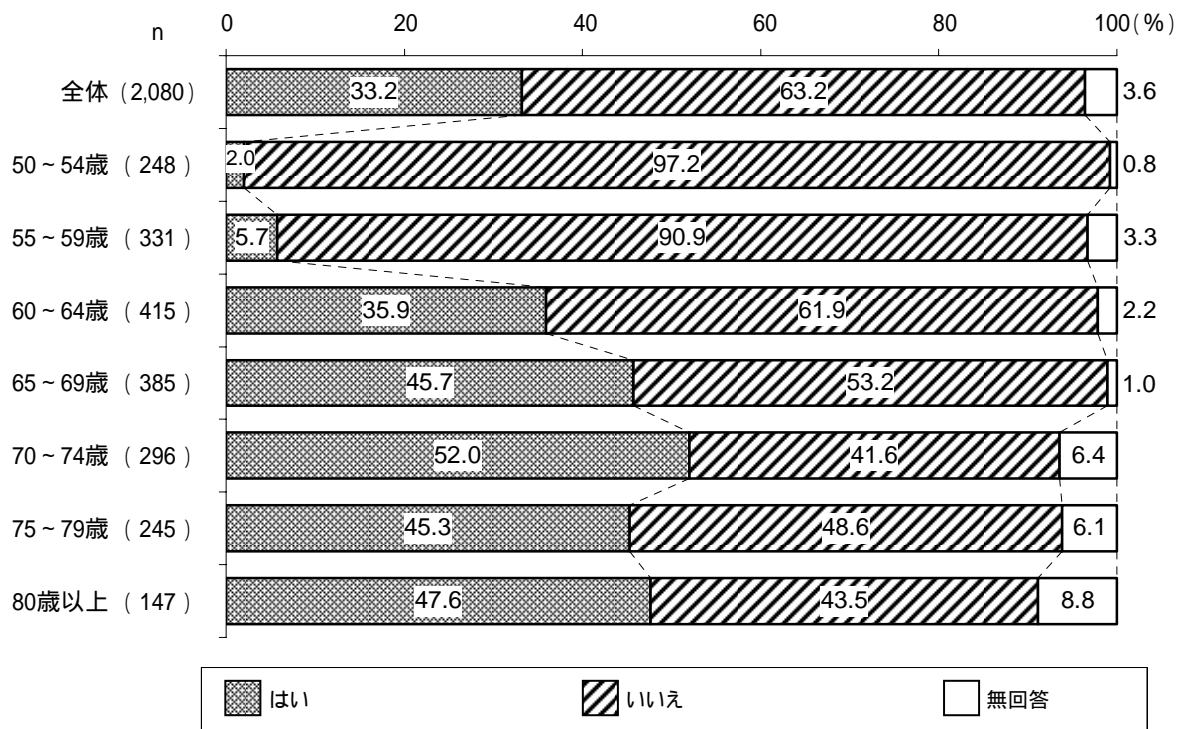
< 性別 >



男女別にみると、男性は、女性に比べて定年退職経験者が多くなっている。

定年退職の経験

< 年齢別 >



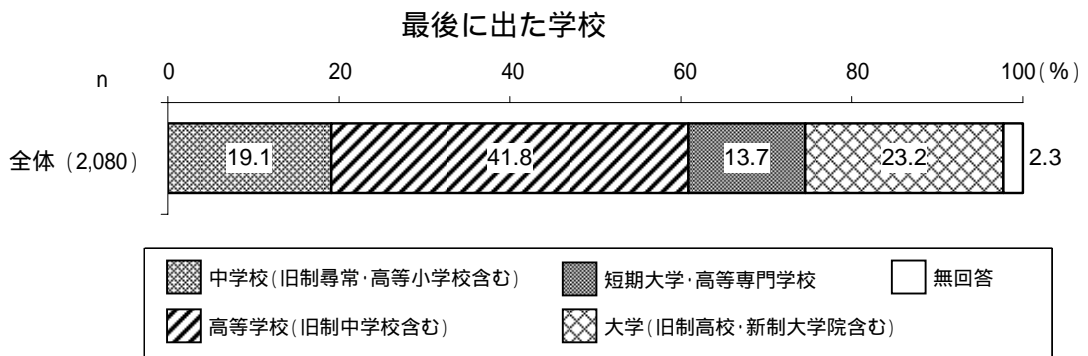
年齢層別にみると、年齢層が高いほど、定年退職経験者が多くなる傾向がみられる。60～64歳で定年退職経験者の割合が急激に高まっており、現在までの一般的な定年退職年齢が60～64歳にあることがうかがえる。

最後に出た学校

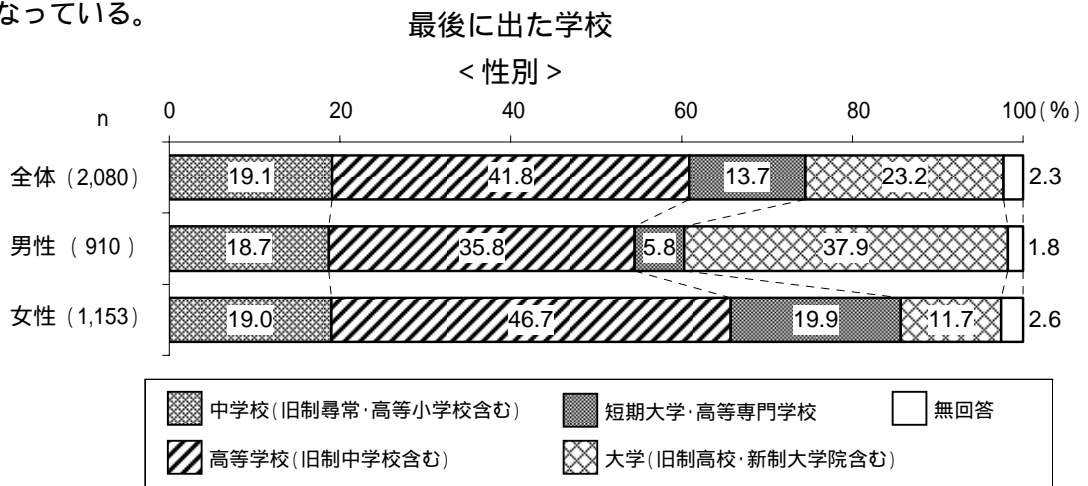
問 27. あなたが最後に出た学校は、次のうちどれにあたりますか
(中退や在学中も含みます)。【1つだけに】

(n=2,080)

1	中学校(旧制尋常・高等小学校含む)	19.1%
2	高等学校(旧制中学校含む)	41.8
3	短期大学・高等専門学校	13.7
4	大学(旧制高校・新制大学院含む)	23.2
	無回答	2.3

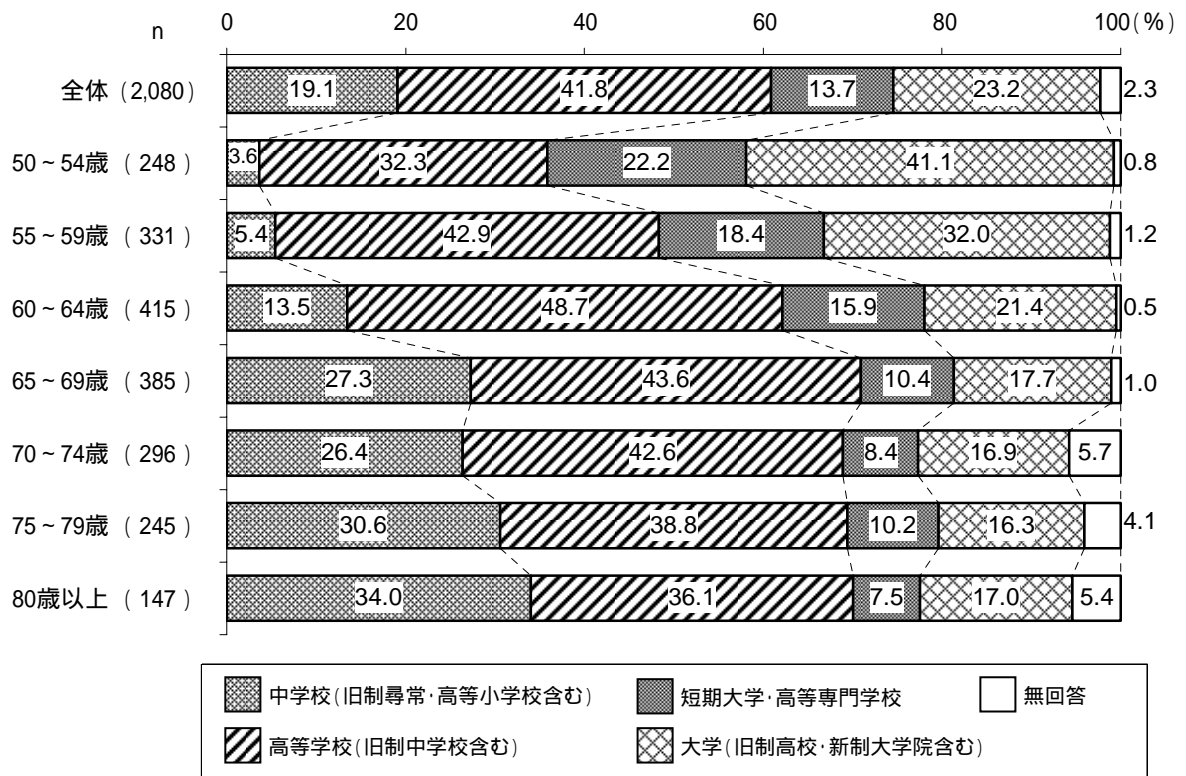


最後に出た学校は、「高等学校(旧制中学校含む)」(41.8%)が4割強でもっとも多く、次いで「大学(旧制高校・新制大学院含む)」(23.2%)が2割台半ば近くとなっている。



男女別にみると、女性は、男性に比べて「高等学校」や「短期大学・高等専門学校」を卒業した人が多く、男性は、女性に比べて「大学」を卒業した人が多くなっている。

最後に出た学校
<年齢別>



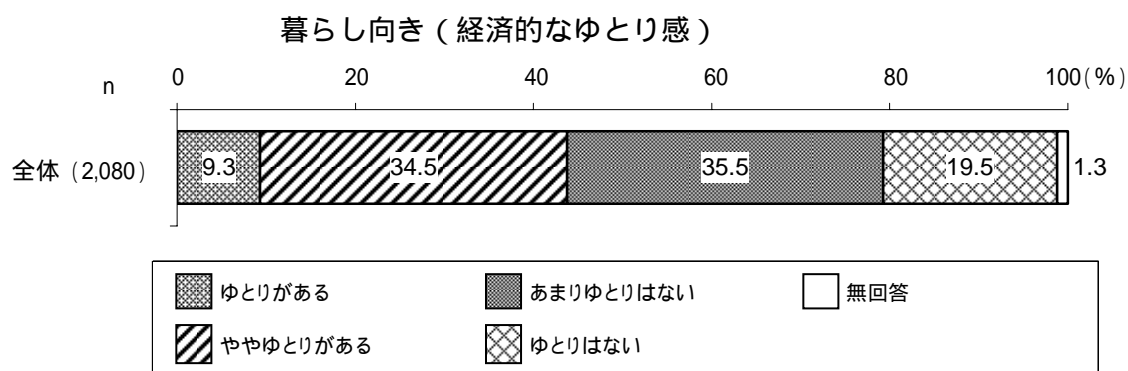
年齢別にみると、年齢層が低いほど、「高等学校」「短期大学・高等専門学校」「大学」を出た人が多くなる傾向がみられ、学校教育を受けた年数が長くなっている。

居住地域別にみると、「大学」を出た人がもっとも多いのは、東部（34.1%）となっている。

なお、学校生活を通して形成された人とのつながりが、現在における人とのつながりに影響を与えている可能性があることから、今後の分析に使用するためにたずねた。

暮らし向き（経済的なゆとり感）

問 28 . あなたのご家庭は、経済的なゆとりがありますか。【 1 つだけに 】		(n=2,080)
1	ゆとりがある	9.3%
2	ややゆとりがある	34.5
3	あまりゆとりはない	35.5
4	ゆとりはない	19.5
	無回答	1.3



暮らし向きの指標として、主観的な「経済的なゆとり」感をたずねた。「あまりゆとりはない」(35.5%)が3割台半ばでもっとも多く、次いで「ややゆとりがある」(34.5%)が3割台半ば近く、「ゆとりはない」(19.5%)が2割弱となっている。「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」をゆとりがある群(43.8%)とすると4割台半ば近く、「あまりゆとりはない」と「ゆとりはない」をゆとりがない群(55.0%)とすると5割台半ばとなっている。

居住地域別にみると、暮らし向きにゆとりがある群がもっとも多いのは、東南部(49.5%)となっている。

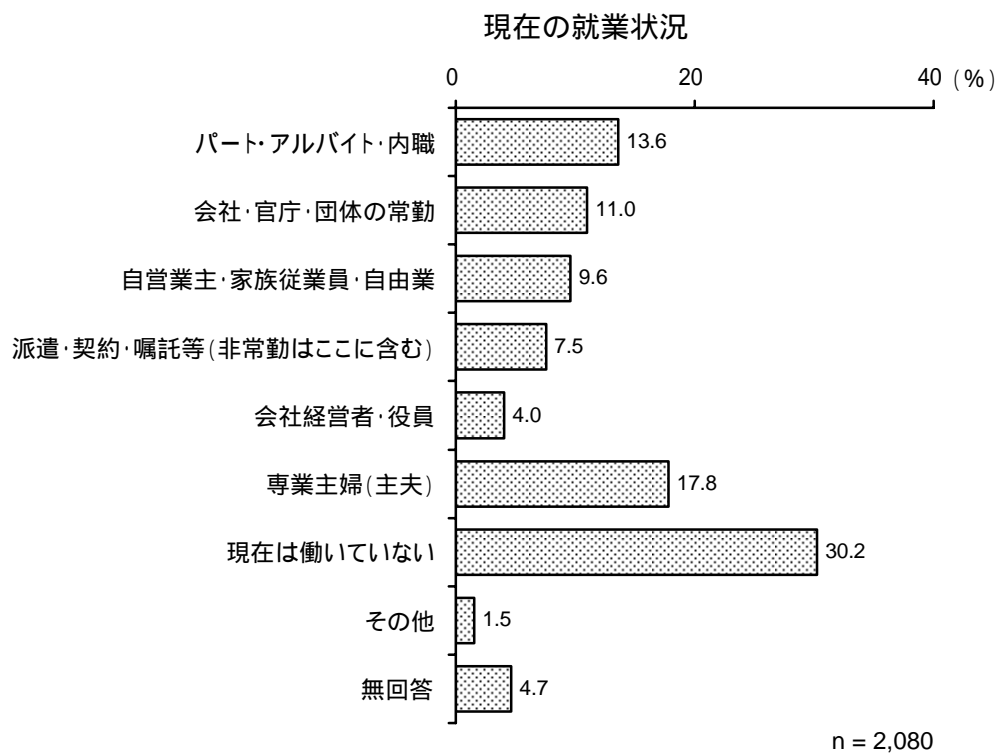
なお、男女別、年齢層別に分布の違いはみられない。

現在の就業状況

問 29 . あなたの現在のお仕事の状況についておうかがいします。どのような形で働いていますか。【 1つだけに 】

(n=2,080)

1	自営業主・家族従業員・自由業	9.6%
2	会社経営者・役員	4.0
3	会社・官庁・団体の常勤	11.0
4	派遣・契約・嘱託等（非常勤はここに含む）	7.5
5	パート・アルバイト・内職	13.6
6	専業主婦（主夫）	17.8
7	現在は働いていない	30.2
8	その他	1.5
	無回答	4.7



現在の就業状況は、「現在は働いていない」(30.2%) が約3割でもっとも多く、次いで「専業主婦(主夫)」(17.8%) が1割台半ばを超え、「パート・アルバイト・内職」(13.6%) が1割台半ば近く、「会社・官庁・団体の常勤」(11.0%) が1割強となっている。

男女別にみると、収入を得るかたちで就業している割合（「専業主婦（主夫）」「現在は働いていない」を除いた割合）は、男性（60.1%）で約6割、女性（39.9%）で4割弱となっている。内訳を大まかにみると、「自営・家族従業員・自由業・会社経営・役員」や「会社・官庁・団体の常勤」の占める割合は、男性でそれぞれ2割強（21.4%、21.3%）であるが、女性ではそれぞれ約9%（9.1%）、4%台半ば近く（4.3%）となっており、男性のほうが多くなっている。他方、「派遣・契約・嘱託・パート等」の割合は、男性（17.4%）で1割台半ばを超え、女性（26.5%）で2割台半ばを超えておりとなっており、女性のほうが男性に比べて多くなっている。

専業主婦（主夫）と無職の合計は、男性（39.9%）で4割弱、女性（60.2%）で約6割となっており、収入を得るかたちで仕事に就いていない割合は、女性のほうが男性に比べて多くなっている。

年齢層別にみると、年齢層が高くなるほど、収入を得るかたちで仕事に就いていない割合が高まる。50～59歳以下（25.3%）では2割台半ばであるが、60～64歳（43.3%）で4割台半ば近く、65～69歳（55.3%）で5割台半ば、70～74歳（69.0%）で7割弱、75～84歳（85.0%）で8割台半ばとなっている。「会社・官庁・団体の常勤」で勤めている割合は、50～59歳以下（32.0%）では3割強を占めており、他の就業形態に比べてもっとも多いが、60～64歳（7.7%）では7%台半ばを超える程度に急激に減少し、代わって「派遣・契約・嘱託・パート等」（31.8%）の占める割合が3割強でもっとも多くなっている。

居住地域別にみると、収入を得るかたちで就業していない人が多いのは東南部（56.0%）西南部（55.3%）、東部（53.7%）となっており、もっとも少ないのは北部（42.8%）である。専業主婦（主夫）が占める割合がもっとも多いのは東南部（23.4%）であり、もっとも少ないのは北部（15.6%）である。

他方、収入を得るかたちで就業している人のうち、「自営・家族従業員・自由業・会社経営・会社役員」が多いのは、中央（20.6%）、西部（15.6%）であり、少ないのは、東部（9.3%）となっている。「会社・官庁・団体の常勤」が多いのは、東部（15.7%）、北部（15.0%）となっており、西部（9.0%）、中央（10.3%）で少なくなっている。

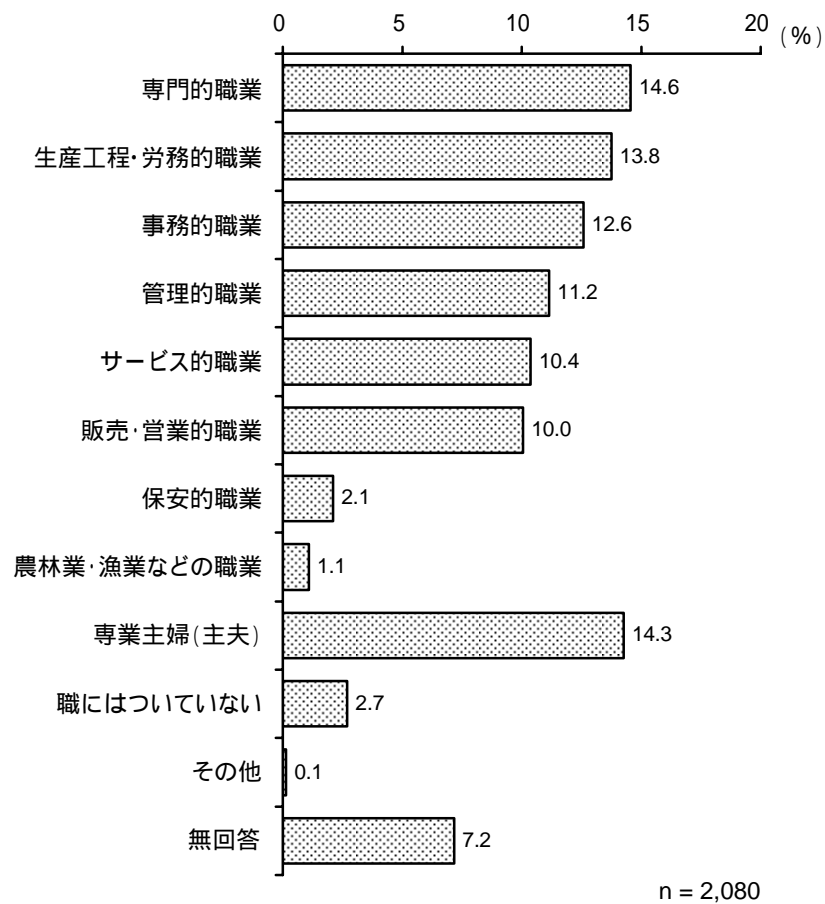
職業内容（定年退職・引退前の職業経験を含む）

問 30 . あなたのお仕事の種類は、次のうちどれにあたりますか。例示にしたがってあてはまる番号を選んでください。定年退職された方や引退された方は、退職前の主なお仕事の種類をお答えください。【1つだけに】

(n=2,080)

1	農林業・漁業などの職業（農業、漁業、養畜、林業、造園師、植木職など）	1.1%
2	保安的職業（警察官、自衛官、警備員、守衛など）	2.1
3	生産工程・労務的職業（大工、工場作業員、パン・菓子製造者、建築作業員、清掃員、トラック運転手など）	13.8
4	販売・営業的職業（小売店主、販売店員、外勤のセールス、外交員など）	10.0
5	サービスの職業（料理人、美容師、ウエイトレス、クリーニング職、アパート管理人、タクシー運転手など）	10.4
6	事務的職業（総務・企画事務、経理事務、オペレーター、校正など）	12.6
7	管理的職業（課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長、校長など）	11.2
8	専門的職業（教員、看護師、医師、弁護士、編集者、芸術家、技術者など）	14.6
9	専業主婦（主夫）	14.3
10	職にはついていない	2.7
11	その他	0.1
	無回答	7.2

職業内容（定年退職・引退前の職業経験を含む）



職業内容（定年退職・引退前の職業経験を含む）は、「専門的職業（教員、看護師、医師、弁護士、編集者、芸術家、技術者など）」（14.6%）、「専業主婦（主夫）」（14.3%）、「生産工程・労務的職業（大工、工場作業員、パン・菓子製造者、建築作業員、清掃員、トラック運転手など）」（13.8%）が1割台半ば近く、「事務的職業（総務・企画事務、経理事務、オペレーター、校正など）」（12.6%）、「管理的職業（課長以上の管理職、会社役員、議員、駅長、校長など）」（11.2%）が1割強となっている。

男女別に職業内容の分布を大まかにみると、男性は、女性に比べて「農林・保安・生産工程・労務」（男性 30.8%、女性 12.2%）及び「管理・専門」（男性 45.7%、女性 20.2%）の占める割合が多くなっており、女性は、男性に比べて「販売・営業・サービス・事務」（女性 29.5%、男性 21.1%）及び「無職（専業主婦・主夫含む）」（女性 38.1%、男性 2.4%）が多くなっている。

年齢層別に職業内容の分布をみると、年齢が高いほど「農林・保安・生産工程・労務」や「無職（専業主婦・主夫含む）」が占める割合が多くなる傾向がみられ、「販

売・営業・サービス・事務」の割合が低くなっている。

居住地域別に職業内容の分布を大まかにみると、「農林・保安・生産工程・労務」の割合が多くなっている地域は、西部（30.0%）、北部（26.1%）、少ないのは東部（12.7%）である。「販売・営業・サービス・事務」の割合が多くなっている地域は、中央（28.8%）、西南部（26.5%）、東部（24.3%）である。「管理・専門」の割合が多くなっている地域は、東部（37.8%）、西南部（34.3%）、北部（32.7%）である。「無職（専業主婦・主夫含む）」の割合が多くなっている地域は、東南部（27.3%）、東部（25.1%）となっており、少ないのは北部（17.6%）である。

(8) 自由記述回答 (「 高齢社会 」 のイメージ) の回答率

「あなたは、高齢社会をどのように感じていますか。ご自由にお書きください。」という設問で自由記述回答を求めたところ、回答率は、有効回収数 2,080 通のうち 1,223 通となっており、6 割近く (58.8%) を占めた。

男女別にみると、自由記述回答への回答者は、女性 (63.5%) のほうが、男性 (53.0%) に比べて多くなっている。

年齢層別にみると、50～54 歳 (51.2%) で 5 割強、55～59 歳 (61.0%) で 6 割強と年齢層が高くなるにつれて回答率が高くなっているが、60～64 歳 (65.1%) の 6 割台半ばの回答率をピークとして減少傾向に転じ、65～69 歳 (59.2%) で 6 割弱、70～74 歳 (60.1%) で約 6 割、75～79 歳 (60.0%) で 6 割と推移し、80～84 歳 (44.2%) で 4 割台半ば近くに減少している。

なお、居住地域別に分布の違いはみられない。

自由記述回答で、高齢社会がどのように語られているのかといった回答者の思いについては、今後分析をすすめていく予定である。

